

官衆號外

大正十年二月二十三日 水曜日

印 刷 局

第四十四回 衆議院議事速記録第十七號

帝國議會

大正十年二月二十二日(火曜日)午後一時十六分開議

議事日程 第十六號 大正十年二月二十二日

午後一時間議
質問

- 一 市町村會ノ階級選舉制撤廢ニ關スル質問
(作間耕逸君外三名提出)
- 二 市町村ノ自治體ヲシテ煙草元賣捌事務ヲ取扱ハシムル件ニ關スル質問(高草美代藏君提出)
- 三 養蠶及製絲業者救濟ニ關スル質問(早川龍介君提出)
- 四 支那共和國留學生ニ關スル質問(清水留三郎君提出)
- 五 尼港撤兵及再出兵ニ關スル質問(清水留三郎君提出)
- 六 特許法改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第一 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第二 實用新案法改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第三 商標法改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第四 意匠法改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第五 辨理士法案(政府提出) 第一讀會
- 第六 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第七 商標法改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第八 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第九 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第十 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第十一 借地法案(政府提出) 第一讀會
- 第十二 借家法案(政府提出) 第一讀會
- 第十三 朝鮮事業公債法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第十四 臺灣事業公債法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第十五 桜太事業公債法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

- 第十六 大學特別會計法案(政府提出) 第一讀會
- 第十七 大正八年法律第十二號中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第十八 決議案(朝鮮統治ニ關シ調査委員會設置ノ件)(中野正剛君提出)
- 第十九 食糧政策及農家經濟ノ維持確立ニ關スル建議案(天春文衡君外十九名提出)
- 第二十 市町村教育費ノ整理ニ關スル建議案(井上角五郎君外十三名提出)
- 第二十一 徵兵令事務施行細則改正ニ關スル建議案(植原悅一郎君提出)
- 第二十二 產業組合法及重要物產同業組合法改正並同組合振興ニ關スル建議案(土井權大君提出)
- 第二十三 成年調査ニ關スル建議案(奥村安太郎君外一名提出)
- 第二十四 石油政策ニ對スル燃料調査會設立ニ關スル建議案(高野毅君提出)
- 第二十五 特別市制促進ニ關スル建議案(作間耕逸君外五名提出)
- 副議長(柏谷義三君) 今日ハ議長差支ガゴザイマスルノデ、私ガ代理ヲ致シマス、宜シクドウゾ——諸般ノ報告ヲ致シマス
- 【原田書記官朗讀】
- 一 政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ
- 特許法改正法律案
- 實用新案法改正法律案
- 意匠法改正法律案
- 商標法改正法律案
- 辨理士法案

- (以上二月十九日提出)
- 一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ
- 所得稅法中改正法律案 提出者 岩本 平誠君
- 提出者 福井 基三君
- 提出者 八木 逸郎君
- 提出者 津野田 是重君
- 京都監獄移轉ニ關スル建議案 提出者 高見 之通君
- 梅田 潔君
- 鴨綠江岸道路修築ニ關スル建議案 提出者 加藤久米四郎君
- 北山 一郎君
- 宇野 勇作君
- 山崎 猛君
- 野村治三郎君
- 牧山 耕藏君
- 一宮房治郎君
- 山崎 猛君
- 長田 桃藏君
- 風間八左衛門君

府ハ今後支那ニ對シテ如何ナル態度ヲ以テ進ムトスルヤ

二 米國ヨリ歸朝セル支那學生ニ對シテ支那ニ在ル米國官民ハ有ユル方法ヲ講シテ或ハ公使館内ニ「レターフィード、スチエーデント、ゾサイチー」ナル機關ヲ有シテ歸朝支那人ト米國人トノ意思ヲ疎通シ且其ノ就職先ヲ斡旋シ又豫備教育ヲ與フル西華學校、教會、「ミシシヨン、スクール」及醫院等ノ外尙學校等ヲ設ケテ絕ヘス

支那人ヲ教育シテ彼等ヲ常ニ親米化セシム然ルニ日本ノ官民ト歸朝留學生トノ間ニ何等連絡ノ機關ナク就職斡旋ノ方法ナシ又豫備校其ノ他ノ設備ナク宗教、醫術等ヲ以テ彼等親日派タラシムノ機関モ甚カ少シ斯ノ如クニシテ何ヲ以テカ歸朝留學生ヲシテ親日論者タラシムルコトヲ得ムヤ之ニ對シ政府ハ如何ニ考慮セラルヤ

三 日本内地到ル處ニ於テ支那留學生ニ對スル學校不親切下宿屋ノ暴利一般日本人ノ輕侮等不平不滿ノ種ナラサルナシ又中等以上ノ家庭ニ出入スルノ機

會少キ爲家庭的ノ溫カミヲ感セシムルコト難シ從テ日本在學中既ニ日本三對スル惡感ヲ有スルニ依リ從テ歸朝後排日論者トナルハ理ノ當然ナリ之ニ對シテ政府ハ如何ナル方針ヲ採リ又今後探ラムトスルヤ

右及質問候也

大正十年二月二十二日

内閣總理大臣 原 敬

衆議院議長奥繁三郎殿

衆議院議員清水留三郎君提出支那共和國留學生ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

(別紙)

衆議院議員清水留三郎君提出支那共和國留學生ニ關スル質問ニ對スル答辯書

一 質問第一ニ關シ曰本政府ノ對支方針ニ就テハ現政

府ハ恆ニ公正ノ態度ヲ守リ且日支親善及提携ノ實現ヲ計ルヲ以テ對支政策ノ根幹トシ終始

ナク將來ニ於テモ之ヲ變更セムトスルノ意圖ナシ從テ支那國民ニ於テ我誠意ノ存スル所ヲ諒解スルニ至ラ

ハ日本留學生出身者ノミナラス一般支那國民ノ排

日風潮モ漸次衰滅ニ歸スヘキヲ疑ハス

二 質問第二ニ列舉セラレタルカ如キ外國側ノ施設ハ從來個人的努力ニ待ツモ多キトコロ我方ニ於テモ此種文化的施設ノ頗ル必要ナルハ夙ニ朝野ノ識認セル所ニシテ從來ト雖モ相當此ノ方面ニ努力シ來リ例へ

ハ同仁病院ノ如キ南滿醫學堂ノ如キ東亞同文會ノ支那學堂設置計畫ノ如キ其ノ重ナルモノナルカ勿論政府ハ之ヲ以テ充分ナリト思惟スルニアラス今後我官民ノ努力ヲ要スルモノ頗ル多キハ之ヲ認ムニ躊躇セサル所ニシテ政府ニ於テモ尙ホ此點ニ留意シ篤ト考慮スルコトトスヘク要スルニ政府民間協力シテ隣善ノ實ヲ舉クルコト最モ必要ト思考ス

三 日本ニ於ケル支那留學生ノ待遇乃至生活狀態ニ付テハ政府ニ於テモ夙ニ充分ノ考慮ヲ拂ヒ關係官廳ニ於テ夫々改善ノ手段ヲ講シ居リ今後モ出來得ル限り之カ改善ヲ圖ルニ資ナラサルハ勿論ナルモ一般社會ノ方面ニ屬スルモノノ如キハ獨リ政府ノ努力ノミヲ以テシテハ完璧ニ期シ難ク政府民間兩者ノ協力ヲ要スルモノト信ス

右及答辯候也

大正十年二月二十二日

文部大臣

中橋德五郎

外務大臣

伯爵内田 康哉

内務大臣

床次竹二郎

尼港撤兵及再出兵ニ關スル質問主意書

右成規ニ據り提出候也

大正十年二月九日

提出者 清水留三郎

賛成者 井上 剛一

外三十人

尼港撤兵及再出兵ニ關スル質問主意書

一 本年解水後再ヒ尼港ニ出兵スルモノナリトセハ何故ニ尼港ヨリ撤兵シタリシヤ

二 薩哈哩占領ハ尼港虐殺事件ノ報復トシテ露國ニ鞏固ノ政府確立セラレル迄假ニ占領スヘキモノナリトハ政府ノ宣言セル處ナリ然ルニ虐殺事件ノ發生地タル尼港ヨリ撤兵シテ單ニ北樺太ノミヲ占領セルハ如何ナル理由ニ基キシモノナリヤ米國ニ於テ「日本ハ北樺太ノ石油鑽ヲ獲得セムカ爲名ヲ尼港事件ニ藉リテ以テ北樺太ヲ占領スルモノナリ」と非難セリ政府ハ尼港ヨリノ撤兵ヲ以テ日露將來ノ交渉上一大不利益

未來スノ恐ナシト考ヘサルヤ

三 尼港附近ニハ漁區約五十箇所製魚場約百箇所ア

リ漁場ノ權利ハボートマウス條約ニ依リテ保證セラレタルモノニシテ今ヤ其ノ實權日本人ニ歸セムトスル場合我軍隊既ニ尼港ヨリ撤兵セリ昨秋撤兵ノ結果

漁業家ハ全ク本年度ノ設備ヲ爲ス能ハス非常ニ困憊

セリ政府ハ是等困憊セル漁業家ニ對シテ如何ナル處置ヲ採ラレシヤ

四 尼港撤兵ノ理由トシテ陸軍當局ノ會テ新聞記者ニ談セシ點ヲ聞クニ「尼港ニ八家屋少ク防寒設備ナク飲料水惡シ」ト然シナカラ尼港ニ殘存セル家屋ハ僅ノ修繕ヲ加ヘタルノミニテ優ニ一個大隊以上ノ兵ヲ駐屯シ得ラレタルモノナリ而カモ防寒設備ハ亞港新築ノ家屋ニ比シテ遙ニ優レリ飲料水亦亞港ノ如ク惡シカラス然ルニ兵舎ヲ新築セサルヘカラサリシ亞港ニ移リテ多額ノ費用ヲ投シ以テ粗雑ノ家屋ヲ新築セル果シテ策ノ得タリシモノナリヤ政府ハ尼港ヨリ撤兵シタルシメタル今日尼港カ昨年ノ如クニ孤立無援ノ地ナリト信ブル能ハス況ムヤ間宮海峡ヲ通シテ冬期亞港尼港間交通シ得ラルル今日ノ場合ナルニ於テオヤ然ルニ政府ハ再ヒ尼港ニ事變突發セリト假定セル場合尙依然トシテ北樺太ヨリノ直接救援カ不可能ナリト信セラルヤ

五 北樺太ニ一個旅團全部ヲ駐屯セシムルヨリハ其ノ中ノ二一大隊ヲ割キテ尼港ニ駐メシコト寧口宣シカラサリシヤ亞港其ノ他北樺太各地ニ我軍隊ヲ駐屯セシメタル今日尼港カ昨年ノ如クニ孤立無援ノ地ナリト信ブル能ハス況ムヤ間宮海峡ヲ通シテ冬期亞港尼港間交通シ得ラルル今日ノ場合ナルニ於テオヤ然ルニ政府ハ再ヒ尼港ニ事變突發セリト假定セル場合尙依然トシテ北樺太ヨリノ直接救援カ不可能ナリト信セラルヤ

右及質問候也

大正十年二月二十二日

内閣總理大臣 原 敬

衆議院議長奥繁三郎殿

衆議院議員清水留三郎君提出尼港撤兵及再出兵ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

(別紙)

衆議院議員清水留三郎君提出尼港撤兵及再出兵ニ關スル質問ニ對スル答辯書

一 本年解水後ハ再ヒ我軍隊ヲ樺太對岸ニ進メニ

港其他薩哈哩州内ニ於ケル若干要地ノ占領ヲ行フ

豫定ナリ尼港ニ於ケル越年ノ爲ニハ相當有力ノ部隊

ナルヲ必要トシ從テ夥多ノ軍需品ヲ輸送集積シ且

ツ所要ノ兵營建築ヲ實施スルハ勿論情況ノ異變ニ應

スル必須ノ處置トシテ冬季樺太島及樺太ヨリ尼港ニ至ル陸路ノ交通施設ヲ整備シ救援ノ方法ヲ講セサル

ヘカラス此等ノ諸準備ヲ完了セムカ爲ニハ多クノ勞力

ト時間ヲ必要トスルヲ以テ漸進的ニ施設ノ歩ヲ進メ北樺太ニ其全力ヲ傾注スルヲ有利ナリト認メ昨秋ハ一先尼港ノ駐屯部隊ヲ撤退セリ

二 尼港ノ駐兵ニ關シテ第一項ニ述ヘタルカ如クナル

ヲ以テ此一時的尼港ノ撤兵ニヨリ日露將來ノ交渉ニ不利益ヲ來スモトハ認メス

三 尼港附近ニ在ル黑龍江ノ漁區及製魚區ハ他ノ地方ト異リ曰露漁業協約ニ於テ本邦人ノ參加ヲ認メ居ラス本邦人ハ單ニ黑龍江ノ下流ニ於テ製魚區ヲ租借シ露國人ノ漁獲魚ヲ買入レ製造スルノ權利ト黑龍江海灣ニ於テ漁撈ト製造ノ權利ヲ併有セルノミニシテ尼港虐殺事變突發ノ前年ニハ僅カ一二ノ本邦人ノ競賣ヲ執行セル爲多數日本人ノ參加ヲ見タル次第ニシテ右ハ單ニ一箇年ノ期限ヲ以テ競賣セシモノナルカ故ニ本年度ノ設備ヲ爲ス能ハシテ困憊セル漁業者アルヘキ苦ナシ而シテ單ニ一箇年ノ期限(事實漁業營ハ決シテ粗雜ナルモノニアラス)トモ團隊ヲ以テシテハ決シテ然ラズ

ヲ爲シ得ルハ結水前ノ數月ニ止マルヲ以テ落札セシメタルハ我管理ノ性質ニ顧、當然ノ義ナリ
四 尼港撤兵ノ理由ハ既ニ述ヘタル處ニシテ陸軍當局ノ談ナルモノハ關知スル所ニアラス又北樺太ノ新築兵營ハ決シテ粗雜ナルモノニアラス
五 冬期亞港尼港間ノ交通ハ個人ナラハ可能ナリ然レ右及答辯候也

大正十年二月二十一日

外務大臣

伯爵内田 康哉

陸軍大臣

男爵田中 義一

特許局事務官

馬場 順一

一昨二十一日內閣總理大臣ヨリ議長宛左ノ通發令アリタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

農商務省所管事務政府委員被仰付

小田切磐太郎君

委員諸君ハ第五委員室ニ御集リヲ

一去十九日議長ニ於テ選定シタル委員左ノ如シ

水產會法案松本孫右衛門君 黑住 成章君 秋本 喜七君

廣瀬 鎮之君

池田猪三次君

成田 荣信君

牧山 耕藏君

向井 優雄君

竹澤 太一君 井上 剛一君

高木 正年君

磯貝 浩君 小池 仁郎君

高草美代藏君 高柳覺太郎君

佐々木平次郎君

二 去十九日刑事訴訟法中改正法律案委員北山一郎君辭任ニ付其ノ補闕トシテ永屋茂君ヲ議長ニ於テ選定セリ

一昨二十一日小學校教員俸給國庫負擔額增加三關スル建議案外一件委員風間八左衛門君辭任ニ付其ノ補闕トシテ土屋興君ヲ議長ニ於テ選定セリ

一昨二十一日常任委員補闕選舉ノ結果左ノ如シ

第一部 請願委員 河上 哲太君(龍野周一郎君補闕)

一昨二十一日委員長及理事互選ノ結果左ノ如シ

水產會法案委員 委員長 松本孫右衛門君 理事(池田猪三次君 高草美代藏君 佐々木平次郎君)

○副議長(柏谷義三君) 是ヨリ會議ヲ開キマス御誥リ致ス事ガアリマス、伊藤廣幾君ヨリ事故ニ付(一月二十二日ヨリ十四日間請暇ノ申出ガアリマシタガ、許可スルニ御異議アリマセヌカ)

○副議長(柏谷義三君) 御異議ナイト認メマス、許可致シマス

○副議長(柏谷義三君) 御異議ナイト認メマス、許可スルコトニ致シマス、尙ホ御誥リ致ス事ガアリマス、小田切磐太郎君ヨリ大正九年勅令第五百三十四號承諾ヲ求ムル件ニ關シマスル、委員會ヲ開キタイト云フ請求ガアリマス、許可スルニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシト呼フ者アリ」)

○副議長(柏谷義三君) 御異議ナイト認メマス、許可致シマス

○小田切磐太郎君 委員諸君ハ第五委員室ニ御集リヲ願ヒマス

○副議長(柏谷義三君) 尚ホ會議ニ入ルニ先ダチマシテ一言致ス事ガアリマス、去ル十九日ノ本會議ニ於キマシテ、田淵豊吉君ノ御演説ノ中ニ、其中ノ一節ニ對シマシテ、井坂君ヨリ議長ニ御要求ニナッタ事ガアリマス、此點ニ關シマシテ議長ハ速記錄ニ就テ調査ヲ致シテ見マシタガ、其用語ニ於テ稍穩當ヲ缺クノ嫌アルモノガアルヤウニ認メマス、議員ノ演説用語ニ就キマシテハ、豫テ當議場ニ於テ與議長ヨリ屢々諸君ニ希望ヲ述べラレテ居ルコトデゴザイマスルガ、トウソノコトヲ希望致シテ置キマス

○龍野周一郎君 作業會計法中改正法律案外一件ノ將來ハ田淵君ニ於カレテモ、其用語等ニ就テハ、御注意アラシコトヲ希望致シテ置キマス

○副議長(柏谷義三君) 左様御取計致シマス

○作間耕逸君 地方議會ノ選舉階級制ノ撤廢並ニ公民選舉權ノ擴張ヲ目的トスル市制町村制改正ノ提案ハ、彼ノ陪審法案、並ニ常平倉案ト共ニ、現内閣が今議會ニ臨ムニ當リマシテ、先づ其初頭ニ提ゲテ立ツベカリシ筈ノ所謂三大改革ト、政府自ラモ許セバ亦一般モ之ヲ認メテ居ラシテ所アリマス、然ルニ曷ゾ圖ラン陪審法案ハ樞密院ニ於テ今ヤ審議停頓ノ形ト相成リ、殆ド絶望ノ域ニ陥ラテ居ルノデアル、又常平倉案モ經濟財政調查會ニ於キマシテ難產ヲ極メ、頗ル行惱ノ狀態ニ居リマス状態ヲ見マシテハ、少カラズ失望セシムラレマシタ者ハ、獨リ本員等ノミナハアルマイト有ジマス(拍手)殊ニ地方制度ノ改正ニ就キマシテハ、前々議會ハ普選ノ爲メニ不幸ニシテ解散ヲセラレマシテ當時ニ於キマシテ、閣議既ニ其方針ヲ決定シ、内外ニ之ヲ宣明セラレテ居ル、即チ次ノ議會迄ニハ必ズ提案ヲ致ス云

○龍野周一郎君 委員諸君ハ第九委員室ニ御參集ヲ願ヒマス

○副議長(柏谷義三君) 是ヨリ質問ノ日程ニ入りマス、第一市町村會ノ階級選舉制撤廢ニ關スル質問、作間耕逸君

一 市町村會ノ階級選舉制撤廢ニ關スル質問(作間耕逸君外三名提出)

一 市町村會ノ階級選舉制撤廢ニ關スル質問主意書

右成規ニ據リ提出候也

大正十年一月二十九日 提出者 作間 耕逸

市町村會ノ階級選舉制撤廢ニ關スル質問主意書

フコトヲ聲明セラレ、而シテ當時ノ沸騰シタル國論普選熱モ、爾來地方各所ニ於テ御演説ヲナサル際ニ、必ズ近キ將來ニ於テ此提案ヲ致スト云フコトヲ公ニ提唱セラレ居リマシタニ拘ラズ、臨時議會トハ申シナガラ、前議會ニ於キマシテハ遂ニ提案ノコトナクシテ止ミ、又今期議會モ既ニ半バ以上ヲ經過致シマシタ今日、尙ホ未ダ提案ノ時期不明ニアル、提案ノ時期が不明デアリマスルノミナラズ、提案ノ用意サヘ成レルコトヲ未ダ耳ニ致シマセヌノハ、本員等ノ痛切ニ遺憾ヲ感ズル所ニアリマス（拍手）斯クテ政府自ラ提案スルコトヲ爲サズ、而シテ他ノ野黨諸君カラ熱心ニ提案セラレマシタ所ノ分ハ、何ガ故ニヤ其進行ヲ阻止セラレテ居ル形ニナニテ居ルノデアリマス、斯ノ如キ状勢ヲ以テ致シマシテハ、果シテ何レノ時カ國民ノ熱誠ナル此要求ヲ容レテ戴ク時ガゴザリマセウカ殊ニ怪ムベキハ最近ニ至リマシテハ、又ニ形勢逆轉シ、其主義方針サヘモ、ドウヤラ確定シテ居ラナイ容子ニ見受ケラルノデアリマス、即チ全國各市町村ヲ通ジテ、悉ク選舉級別ヲ撤廢スルト云フ方針ヲ執ラル、ノデアルカ、或ハ又東京市其他六大城市ニハ尙ホ二級制ヲ存置シテ、其他ノ都市及町村ダケ級別ヲ全廢スルト云フ方針ヲ執ラルルノデアルカ、將又市及特別ノ町ダケハ二級制ヲ存置シテ、悉其他ノ町村ノミ階級ヲ全廢スルト云フ方針ヲ執ラル、ノデアルカ、其主義サヘモ確立シテ居ナイヤウニ認メラレル狀勢ニ在リマスノハ、洵ニ本員等ハ政府ガ嚮ニ聲明ヲ自ラ抹消シ、多數國民ノ樂ミヲ以テ期待シテ居リマシタ所ニ裏切りト云フト、普選ノ輿論勃興シテ、其攻撃ヤ政府ニ集中致シハ信ヲ天下ニ失フニ足ルト斷定ヲ致スノデアリマス（拍手）是ハ或ハ邪推カモ知レマセヌケレドモ、政府ノ遣方ヲ見マスクガ一時靜マリカケルト云フト、復タ知ラザル眞似シテ此提案ヲ急ガザルガ如キ態度ヲ執ラレマスノハ、洵ニ斯ル超政黨的ノマス時代ニ於キマシテハ、政府ハ自ラヲ防衛スルノ具ト致シマシテ、急遽此案ヲ提出スルガ如ク裝ヒ、輿論ノ外面運動ガ一時靜マリカケルト云フト、復タ知ラザル眞似シテ此提案ヲ極メテ居ルガ如ク、隨分御盛ニ採合シテ居ラレルガ如ク申シマシテモ、ヨモヤ政府ニ於テモ辯明ノ辭ハ無カラウト心得ルノデアリマス（拍手）「ノウ」尤モ昨今ニ相成リマシテハ、折テ、與黨諸君ノ内部ニ中ニ此點ニ就テ議論ガ沸騰シ、紛糾拜見ヲ致スノデアリマス、ドウヤラ政府ハ此案ヲ與黨ニ注文サレテ餅ニ搗カレテ居ルヤウダアリマスガ、餘リ搗過ギラレテ居ルノデアルマイカト考ヘル（拍手）其餅モ正月勿々差し出シテ下サレバマダ結構仕合ニ存ジマスルケレドモ、二月モ既ニ半バヲ過ギテ、其間取テ置イテ仕舞込マレマシテハ、折

角ノ餅ニ微ガ生ヘル、罅ガ割レカ、リマシタガ爲メニ、折角唯一確定ノ方針テ済ム所ダ、五案ニモ六案ニモ說ガ割レテト云フ問題ニ就キマシテ、本員等ノ屬シテ居リマス憲政會ノ一部ニ議論ガ聞ハサレマシタ際ニ、與黨諸君ハ色ニ眼鏡ヲ以テ、色ニ御批判ヲ下サレタノアリマスガ、ドウヤラリマシタ先般、彼ノ選舉權ノ資格ニ就キマシテ、獨立ノ生計ノ云フ問題ニ就キマシテ、本員等ノ屬シテ居リマス憲政會ノ一部ニ議論ガ聞ハサレマシタ際ニ、與黨諸君ハ色ニ眼鏡ヲ以テ、色ニ御批判ヲ下サレタノアリマスガ、ドウヤラリマシタコトヲ諸君ニ對シ感謝致ス次第アリマスカラ、(拍手)併シ與黨諸君ノコトデゴザイマスカラ、何レ結局ハ總裁一任トカ、又ハ幹部一任トカ、政府意ノ在ル所ニ柔順ニ聽從セラル、コトデアラウトハ察シテ居リマスカ、政府ガ果シテ衷心カラ、此地方制度ノ改正ニ熱心ト誠意トサヘゴザイマスレバ、本院ニ於ケル此案ノ通過ト云フモノハ、決シテ困難ノ事デハナイト信ズルノアリマス、此邊ニ於ケル内務大臣、政府當局ノ御決心ハ如何アルカ、即チ公民選舉ノ擴張ノ方ハ姑ク別ト致シマシテモ、選舉階級ノ全廢ヲ目的ト致シマシテ、速ニ市制町村制ノ改正法律案ヲ本期議會ニ提出ニ相成リマスル御覺悟ガアリマスカ、而シテ其御覺悟ヲ以テ、是非共本期議會ニ御提案ニ相成リマスルヤウ、其目的ノ遂行ニ努力シテ下サル所ノ確信ガアリマスカ否ヤ、若シ之レ有リト致シマシタナラバ、凡ソ御提案ニナリマス所ノ御見込ノ時期ハ何時頃ニ相成リマセウカ、又未ダ其期定マラズ、或ハ遲レルト云フコトデゴザイマスレバ、其事情ト理由ト安ニ承リタイ、又主義方針ニ關シマシテハ、果シテ全國各市町村ヲ通ジテ、級別全廢ト云フ御方針ヲ以テ遂行セラル、ノアリマセウカ、本員等ノ考フル所デハ級別撤廃ノ必要ハ、地方町村ヨリ寧ロ大都市ニ於テ、一層切實ニ其必要ト理由ヲ認メルノアリマス、マサカ此際ニ至リ、今更トナニテ不徹底ナル一部階級ノ存置ト云フヤウナ主義方針ヲ以テ、御提案ニ相成ルマイトハ確信シテ居リマスケレドモ、若シリウデナイ特別ノ制限條件ヲ以テ、尙ホ一部階級ノ存置スルト云フコトデアリマシタナラバソレハ如何ナル理由ト事情ニ基クノアリマセウカ、政テ詳細ニトハ申シマセヌ、此點ニ對シマシテ、明確ノ御答辯ヲ願ヒタイノアリマス

○副議長(柏谷義三君) 床次内務大臣

〔國務大臣床次竹二郎君登壇〕

○御質問ハ、何レ提出ノ際ニ御答スルコトニ致シマス(拍手起立)
○副議長(柏谷義三君) 次ハ質問第一、市町村ノ自治體ヲシテ煙草元賣捌事務ヲ取扱シテ、煙草元賣捌事務ヲ取扱ハシムルノ件ニ關スル質問、
高草美代藏君
右成規ニ據リ提出候也
大正十年二月九日
市町村ノ自治體ヲシテ 煙草元賣捌事務ヲ取扱ハシムルノ件ニ關スル質問主意書
草美代藏君提出
市町村ノ自治體ヲシテ 煙草元賣捌事務ヲ取扱ハシムルノ件ニ關スル質問主意書
提出者 高草美代藏
賛成者 鈴木梅四郎
外二十九人
市町村ノ自治體ヲシテ 煙草元賣捌事務ヲ取扱ハシムルノ件ニ關スル質問主意書
近時地方自治體ノ財政ハ益困難ニ陥リソツアリ之カ救濟ハ一日ヲ緩ウスヘカラズ義務教育費國庫負擔額ノ増加ノ如キ或ハ之カ救濟ノ一方方法タルヘシト雖未タ是ノミヲ以テ足レリトセス政府ハ此ノ際煙草元賣捌事務ヲ市町村ノ自治體ニ移シ以テ地方財政寛和ノ一助トナスノ意思ナキカ若其ノ意思ナシトセハ之カ詳細ナル説明ヲ求ム右及質問候也
〔高草美代藏君登壇、拍手〕
○高草美代藏君 私ハ市町村ノ自治體ヲシテ 煙草元賣捌ノ事務ヲ取扱ハシムルト云フ、此件ニ對シテ、御尋ヲ致シテイト考ヘルノデアリマス、事ハ頗ル簡單ニアリマス、而シテ又煙草ノ賣捌ガ、非常ニ收益ノアルモノトモ實ハ考ヘテ居リマセヌノアリマス、調ベテ見マスト、此大正七年度ノ政府が製造煙草ヲ賣下グラレマシタ其收益ガ、一億二千九百万圓餘アルノデアリマス、更ニ大正八年度ハ一億七千二百萬圓餘アルノデアリマス、更ニ大正九年度ニナリマシテ、一億八千四百万圓餘アルノデアリマス、而シテ御承知ノ大正十年度ニ於キマシテハ、殆ド二億ノ豫算ガ出テ居ルコトハ、各位ハ御承知デアラウト考ヘテ、居ルノデアリマス、假リニ之ヲ割ノ手數料デ下渡スト致シマシタ所デ、約二千万圓ノ収益ガアルト云フコトニ計算ガナルノデアリマス、御承知ノ通り現在ノ元賣捌ト申シマスルモノハ、全國ニ於キマシテ、四百四十一人ニ之ヲ請負ハシテ居ルト云フコトニナ、テ居

官報號外

大正十年二月二十三日

衆議院議事速記錄第十七號

市明村ノ自治體ヲシテ煙
萬草美代哉君、質問演説

於キマシテ、少シ此帝蠶會社ノ狀況ヲ御詰致シテ質問ニ入
リタイト思ヒマス、御承知ノ通りニ昨年ノ四五月頃、即チ春
蠶ノ終リノ頃ニ非常ニ一般ノ繭ガ廉イ形勢ガアリマシタノ
デ、製絲會社即チ製絲ノ中央會ト云フモノカズ、之ガ救濟
ヲ政府ニ迫ラタ譯ニアリマス、其迫リマシタ結果ト致シマシテ、
政府ハ二千万圓ヲ二朱テ以テ貸與ヘヤウ、ソレノ反對ニ民
間デモ二千万圓ノ會社ヲ造ラテ、サウシテ之ガ救濟ノ方法ヲ
執ダラ宜カラウト云フコトデアタト云フコトヲ承テ居リマ
ス、然ルニ御承知ノ通り、昨年ノ五六月頃ハ隨分一般ノ狀
況ガ不況ニ陥ダタ頃ニアリマシタ爲メニ、詰リ其會社ヲ設立
スルト云フコトガ出來ナシダノアリマス、併ナガラ此製絲家
ガ相寄テ救濟ヲ政府ニ迫リマシタ爲メニ、春蠶ノ終リニ於
キマシテ、其蠶ノ價ガ非常ニ廉カラウト存ジマシタモノガ、幾
分ノ景氣ヲ持チマシテ、七八圓若クハ十圓ニマデ進シタ譯
デアリマス、然ルニ其後ニ於キマシテ、詰リ此政府ノ補助ト
會社ノ設立ガ出來マセヌ爲メニ、稍、政府ノ補助救濟ト云フ
モノガ、十分ナル力アリ得ヌヤウニナシテ參リマシタモノアリマ
スカラ、ソコデ再ビ蠶ハ低落ヲ來シタノアリマス、ソコデ夏
蠶ノ終リ秋蠶ノ始リ頃ニナリマシテハ、殆ド非常ナ低落ヲ
致シマシテ、三圓五十錢、四圓ト申スヤウナ價ニマデ低落ヲ
致シタノアリマスソコデ再ビ此最初ニ起リマシタ製絲會
社ガ集リマシテ、政府ニ段々交渉ヲ致シマシタ結果、詰リ政
府ノ方テ五千万圓金ヲ貸サウ、金ハ貸スガ、併シ矢張民間ニ
於キマシテ、責任ヲ以テ相當ノ會社ヲ設立セヨト云フコトデ
アリマシタ爲メニ、民間デハ最初一千万圓ト云フ豫定デア
リマシタガ、一千万圓デハ五千万圓ヲ貸スノニ少シ力ガ鈍
イト云フノデ、遂ニ一千六百万圓ト云フ會社ヲ組織致シマ
シテ、サウシテ此會社ニ政府カラ金ヲ借入レマシテ、サウシテ
救濟ヲ致サウト云フコトニナシタノアリマス、ソコデ少シ豫
定價格ノ事ニ就テ御詰マシテ、此當時救濟
ヲ致シテ價格ヲ維持シヤウト申スノハ、横濱ニ出テ居リマス
所ノ生絲ノ合計ガ凡そ十萬糸、是ハ一糸六貫目ト致シテ
居ル譯ニアリマス、此大凡十萬糸、之ヲ普通ニ呼ビマス所カ
ラ申シマスレバ、十六貫上云フモノノ一糸ト致シマスレバ、五
万五千餘俵アリマス、此十萬糸ト申スモノ、中二萬糸ハ
有力者即チ此帝蠶會社ヲ設立致シマスレバ、重役トナル有
力ノ人ノ所有品即アリ、又其中ノ三萬糸ハ輸出不合格デアリ
マシテ、所謂遣絲ト云フ方ニ廻ルベキモノアリマスカラ、差引
五萬糸ト申スモノ、即チ俵ニ直シマスレバ、一萬五六千俵デ
アリマス、是ダケラ買入レマスレバ、必然價格ヲ維持スルコ
トガ出来ルデアラウト云フ豫定ヲ立テタノアリマス、ソコア
愈々會社ヲ設立致シマシテ、買入ノ手續ニ及バウト致シマシ
テ所デ、此金ヲ政府カラ直チニ借用スルコトデナクシテ、政

府ハ興業銀行ヲ中間ニ致シマシテ、帝鑑會社ノ借入ヲ興業銀行カラ融通スルヤウニト云フコトデアリマス、之ニ就キマシテハ頗ル六ヶシイ各種ノ條件ガ附テ、所謂株券ノ書換ハ政府ノ許可ヲ得ナケレバ、書換ヘルコトカ出來ヌ、又ハ生絲ヲ賣却スル時分ニハ、農商務省ノ許可ヲ得ナケレバ賣ルコトガ出來ヌ、又重役ノ就任等ニ於キマシテモ、一々承リマシテ許可ヲ得ナケレバ、重役ノ就任が出來ヌ、又利益配當ノ制限ハ八朱ト云フ制限ニシテ置イテ、ソレヨリ以上ハ儲カタモ配當スルコトハ出來ヌ、又日々監督官ヲ一名乃至二名現場ニ派遣致シマシテ、借入其他一切ノ事ヲ監督スルト云フ、非常ニ六ヶシイ檢査ノ條項ヲ此所ニ置イタノデアリマス、而シテ興業銀行ハ御承知ノ通りニ株式組織ニナシテ居リマスカラ、此銀行トシマシテハ損ノ行シタ時分ニ、政府ガ補償致シテ吳レマスレバ宜シゾガイマスガ、サウ云フコトハ別ニ政府ガ申サヌノデアリマスガ、此銀行カラ借入レマスコトヲ、政府ガ中間ニ立シテ物ヲ言ナテ吳レマシタカラ、其利子ハ五朱六厘是ハ當時ノ相場ト致シマスレバ少々廉ヤウデアリマス、併シ是ハ何レモ手形組織デ之ヲ借ルコトデアリマシテ、此銀行ハ生絲ヲ擔保ニ致シマシテ、七掛デ之ヲ貸スト云フコトニナシタノデアリマス、ソコデ一方ハ救済ノ爲メニ帝鑑會社ヲ作りマシテ、絲ヲ買フト云フコトヲ決メタノデアリマスカラ、製絲家ノ方カラハ之ヲ買ヘト云フ、又會社モ價格ノ維持ノ爲メニ遣シタノデアリマスカラ、買ヒタイノデアリマスガ、拂込フセナケレバ頭金が出来ヌ、興業銀行ハ七掛デ貸サウト云フノデアリマスカラ、三百萬圓ノ拂込ニ對シテ、七百萬圓借りテ來ルト云フコトニナシタノデアリマス、ソコデ其當時カラ今日ニ至ル迄現在ノ所デ申シマスト、此會社ハ詰リ半分拂込ンデ八百万圓拂込ニデ居リマスガ、御承知ノ通り金融が隨分難儀ナ時代ニナリマシテ、絲ヲ買フト云フコトニナレバ直ぐ拂込ヲスルト云フノデ、殆ド毎日々々其拂込ヲシナケレバナラヌヤウナ窮境ニ陥シタノデアリマス、ソコデ帝鑑會社ナルモノハ眞中ニ入りマシテ、非常ナ窮境ニ陥シタノデアリマス、政府ガ五千萬圓金ヲ貸ストカ、又一般ノ聲ノ上ニ於キマシテハ、救助ト云フコトデ大變樂ヲスルガ如キ感ガゴザイマスガ、一方カラハ此條件ニ依リマシテ、銀行ハ七掛デナケレバ貸サヌト云フ、故ニ拂込ヲシテ行キマセヌケレバ、頭金が出來マセヌカラ買フコトカ又一般ノ聲ノ上ニシ真中ニ立シテ窮地ニ陥シタヤウナノデアリマス、是ハ政府カタイト思フ、ツデアリマス、ソコデ借入金ニハ七掛デ頭金ヲ入レナケレバナラヌ、頭金ヲ入レルニハ株金ヲ拂込マナケレ

パナラヌ、ソコデ五千万圓ノ金ヲ貸スト云フコトニナリマシタ
ガ、其貸シマスノハ手形法ニ依ッテ、利子ノ前拂テ拂シテ行カ
ナケレバナラヌト云フコトニナダノアリマス、非常ニ聲ハ救
助トシテ大變有難イ、ヤウデアリマスカ、其事實ニ於キマシテ
餘程窮境ニ陥ダタノアリマス、ソコデ最早到底拂込モ六ヶ
シイ、此儘デ投ダテシマヒマスレバ、是迄骨ヲ折ッタ事柄ガ一
切水泡ニ屬シマスカラ、ソコデ製絲會社ノ中央會ト申シマス
スモト、帝蠶ト申シマス者ガ相密著致、シマシテ、是デモ棄
テ、シマシテハ絲價ノ暴落ヲ來スヤウニナルカラ、其救濟ヲ
乞ヒタイ、ソコデ三千万圓ノ助成金ヲ政府カラ出シテ貰ヒ
タイト云フコトヲ申シタノアリマス、此事モ一寸計算ヲ
幾分明瞭ニ申上ダテ置キマス、此助成金ノ三千万圓ト申
シシマスノハ、四万五千圓ト申シマスル横濱ノ在荷ト、三万
圓ノ地方ノ在荷ト十四万圓ト申シマスモノハ、二月十六日
ヨリ繰業ヲ開始致シマシタカラ、是カラ五月ノ未迄ニ出來マ
ス、合計ヲ凡ソニ十一万圓ト見マシテ、之ヲ儀ニ直シマスト
十二万儀アリマス、之ヲ買ヒマスレバ、是デ絲價ヲ維持サレ
ルダラウ、併シ一面反對カラ申シマスレバ、ソレヲ買ヒテモ尚
ホ下ダテ行キハセヌカト云フコトデアルカモ存ジマセヌガ、其
消化力ノ凡ソニ見込ト申シマスモノハ、二月カラ五月三至リ
マス、是迄賣レマシタ平均數カラ申シマシテモ、凡ソ八万圓
位ハ歐米ニ向テ輸出スルデアラウ、又四万圓ハ輸出ノ不食
格ノ絲が出來ル、一万圓ハ尙ホ是カラ進ミマシテ帝蠶ノ拂
込ヲ爲シマシテ、サウシテ帝蠶ノ買入能力ガアリマセウト云
フコトデ、凡ソ十三万圓ト云フモノハ茲ニ差引キマシテ、御
承知ノ如ク八万五千圓ダケヲ買ヒマスノニ、七千三三四百萬
圓ノ金ヲ要スルノアリマス、故ニ三千万圓ダケノ助成金ヲ
政府カラシテ貰ヒマスレバ、ソレデドウカ斯ウカ此始末ガ付
クテアラウト云フ所カラ、三千万圓ト云フ勘定ガ出タノア
リマス、ソコデ此助成金ニ就キマジテハ政府ガ之ヲ御助ニ
ナルカドウカト云ワコトヲ承リタカラノアリマスガ、既ニ二
月二十二日ノ新聞紙ヲ見マスルト國庫ノ負擔デ以テ二千
万圓ヲ限度トシテ、帝蠶會社ニ助成金ヲ與ヘルト云フコト
ガ既ニ闇議デ決シ、又事實ノ上ニ現ハレテ來ルヤウニゴザイ
マス、故ニハ全ク事實ノ上ニ此事ヲ實行爲サルデアラウト
思ヒマスガ、之ヲ尙ホ確然タル御返答ガ承リタイト存シマス、
ソコデ現在ノ所デハ製絲業者ソレカラ帝國蠶絲會社ト申
シマスル價格ハ、蘭ヲ買入レマス代價ニ致シマスト、六圓三十
助成致シテ貰ヒマシテ、絲價ノ下ダテ參リマセヌヤウニ之ヲ
或程度ニ於テ喰止メヤウ、即チ一俵十五貫目ノ俵ヲ約ソ千
五百圓ト云フ豫算ヲ立テタノアリマス、其千五百圓ト申
シマスモノト聯合致シテ、此助成金ノ三千萬圓ヲ政府カラ
六錢ト云フモノデ蘭ヲ買入レマスレバ、其工費ヲ計算致シ

シマシタ、所ガ昨年ノ八月上旬ニハ是ガ千百圓ニマデ下落致シマシタ、殆ド四分ノ一ト云フ價格ニナクナデアリマス、ソレガ爲メニ二百万戸ノ養蠶家ノ被リマシタ損害ハ實ニ非常ナモノデアリマス、昨年ノ統計ニ依リマスルト、一貫目ノ春蘭ノ總テノ生産費ハ八圓三十五錢ツ、掛テ居リマス、ソレガ昨年ハ此八圓三十五錢掛タ原價ノ蘭ヲ、平均六圓内外デ賣放タナクチヤナラスト云フヤウナ結果ニナツテ居リマス、ソレガ爲メニ各養蠶家ノ被リマシタ損害ト云フモノハ、中々莫大ノ額ニ上ツテ居リマス、此邊ニ政府モ御注意爲サレマシテ、昨年ノ五月低利資金一千萬圓ヲ支出シテ、養蠶家ノ救濟ニ充テラレマシタケレドモ、其借入ノ手續ガ非常ニ面倒デアル、ソレガ爲メニ折角政府ガ一千万圓ノ低利資金ヲ出シマシタケレドモ、之ヲ借入レタノハ僅ニ四百万圓、殘リ六百万圓ハ誰デモ借人ガ無イト云フヤウナ結果ヲ來タシタノアリマス、ソレガ爲メニ夏蘭或ハ秋蘭ノ如キハ非常ニ暴落ヲ致シマシテ、夏蘭ハ殆ド二圓五十錢若クハ三圓五十錢位ニ暴落シマシタ、幸ニシテ政府ノ援助ニ依リマシテ帝蠶會社ナルモノガ出來マシテ、一方此生絲千五百萬圓ヲ賣仕切り、ソレガ爲メニ稍、市價ハ恢復致シマシテ、昨年ノ秋蘭ノ一番終リノ頃ハ、一貫目六七圓ヨリ八九圓マニ騰貴致シマシタ、併シ此帝蠶會社ノコトニ就キマシテハ、先輩早川君ガ詳細ニ述ベラレマシタケレドモ、現在デハ甚ダ悲シムベキ狀況ニ在ルト私ハ思フノデアリマス、何シロ一千六百万圓ノ會社ヲ拵ヘマシテ、八百万圓拂込ンデ、昨年ノ七月以降ニ於テ、此慘澹タル經濟界ノ情勢ニ在ル時ニ八百万圓ノ金ヲ拂込ムコトハ、中々容易ナ事デハナイダラウト思フ、是ハ私ハ帝蠶會社ノ株主ニ對シテ深ク敬意ヲ拂フ一人デアリマス、政府ハ之ニ對シテ五千萬圓ヲ限度トシテ、年五朱六厘ノ利息ヲ以テ、帝蠶會社ノ生絲買入資金ヲ貸出シテヤル、所ガ間キマスルト、マダ二千万圓シカ出シテヤラヌ、ソレガ爲メニ帝蠶會社ハ、千六百万圓ノ半額八百万圓、政府カラ借リマシタ二千萬ト云フコトガ第一ノ目的デアリマシテ、本日ノ新聞ニモアリマス通り、政府當局ガ更ニ帝蠶會社ニ對シテ、三千萬圓ノ助成金ヲ交付セラル、ト云フコトハ、私ハ國家ノ爲メニ、殊ニ二百万戸ノ養蠶業者ノ爲メニ、當局ニ對シテ相當ノ敬意ヲ拂フノデアリマス、此三千万圓貸出シマシタ生絲借入資金ハ、間接ニハ養蠶家ノ矢張利益ニナルノアリマス、諸リ此三千万圓ト云フ助成金ハ、各製絲家ガ春蘭ヲ買入レル資金ニナルノアリマスカラ、是ハ甚ダ製絲家及養蠶家ニ

取リマシアモ、非常ニ好都合ナ事デアリマス、デ私ハ今一步
進ンデ政府ガソレマデ帝國會社ヲ救助シ、此養蠶業ト云フ
コトニ重ヲ置カレルナラバ、今一步進ンデ、何故ニ二百万円
ノ養蠶家ヲ直接ニ救濟スル策ヲ講ジナイノデアルカト云フノ
ガ、私ノ質問ノ大體ノ趣意デアリマス、私ノ希望ト致シマシ
テハ、大正十年度ニ於キマシテモ、昨年ノ一千万圓ヨリ
多ク成ベクハ三千万圓、若クハ四千万圓ノ低利資金ヲ養
蠶業者救濟資金トシテ支出ヲ頗ヒタイ、其手續モ昨年ノヤ
ウニ非常ニ繁雑ニアタナラバ、借入レル人ガアリマセヌカラ
是モ養蠶組合ト云フヤウナモノガ連帶責任ヲ負タナラバ
之ニ對シテ相當ナ信用ヲ拂ヒ、之ニ對シテ相當ナ資金ヲ貸
出シテヤルト云フ、成ベク簡易ナ手續ヲ執テ貰ヒタイト云
ノガ、本員ノ最モ希望スル所デアリマス、先程早川君モ申
サレマシタケレドモ、大正八年度ニ於テハ生絲ノ輸出額ハ六
億三千万圓、絹織物ハ一億六千万圓、合計八億近ク輸出
ヲシテ居リマス、然ルニ大正九年度ニ於テハ生絲ハ三億四
千万圓、絹織物ハ一億六千万圓デ、絹織物ハ殖エテ居リマス
ダ憂フベキ事デアリマス、若シ此大正十年度ニ於キマシテモ、
矢張此請一貫目ノ生産費ハ少クモ六圓八十錢乃至七
圓掛ル計算ニナシテ居リマス、之ヲ又五圓乃至四圓五十錢
位デ賣ルコトニ致シマス、之ガ爲メニ國家ノ爲メニ甚
ダ憂フベキ事デアリマス、之ガ爲メニ今後何年間モ此養蠶業ヲ恢復スルコトが出来
ナイト云フヤウナ甚ダ悲シムベキ狀態ニ陥ルモノデアルト
私ハ此點ヲ竊ニ心配スルノデアリマス、之ガ爲メニ國家トシ
テモ、此養蠶業者ニ對シテ出来得ルダケノ救濟ヨシテ貰ヒ
タイ、又出來得ルダケ助成ヲ願ヒタイ、サウシテ成ベク我國
ノ生絲ヲ外國へ輸出スルコトニスル、若シ此儘ニ放任シテ置
キマスト、近頃ハ支那ニ非常ニ生絲ガ出来ル、日本ノ千五百
百圓スル生絲ハ、支那ハ少シ品質ガ惡ルイガは七百五十
圓デ買ヘル、殊ニ當今ハ銀塊ガ非常ニ暴落シテ居リマスカラ
一相モ出ナイヤウナ狀態ニ立至リハシナイカト云フノ
ガ、尙ホモウ少シ廉イ生絲ヲ支那カラ買入レルコトガ出來
ル、サウナリマスレバ日本ノ養蠶業者ト云フモノハ、將來
常ニ打撃ヲ被ル、日本ノ重要輸出品タル生絲ガ、日本ノ國
資金三千萬圓ナリ四千万圓ナリ出シマシテ、養蠶業者ヲ
救濟シ、成ベク多クノ生絲ヲ造りマシテ、詰リ外國ト日本ト
ノ爲替勘定ニ於テ、何時モ日本ガ受取勘定ニナルヤウニシ
テ貰ヒタイ、又サウスベキガ當然デアルト私ハ考ヘルノデアリ

義勇奉公ノ精神衰退ニ關ス

卷之三

○副議長(柏谷義三君)此場合ニ質問ニ對スル答辯書ニ關シマシテ、意見ノ陳述ヲ保留サレテアリマスル諸君ノ發言ヲ許シマス、田中萬逸君

○田中萬逸君　本員ノ提出ニ係ル所ノ義勇奉公ノ精神衰退ニ關スル質問書ニ對シマシテ、前週ノ火曜日ヲ以テ原總理大臣ヨリノ御答辯ニ接シバシタ、然ルニ其答辯書タルヤ、甚ダ遺憾ナガラ本員質問ノ要旨ニ觸レザル至テ不深切ナルモノデアブ、何等本員ノ疑念ヲ解クニ足ラナイモノアルノミナラズ、一層本員ノ疑念ヲ加ヘマシタガ故ニ、茲ニ極ク簡単ニ此御答辯書ニ對シテ、意見ヲ陳述致シタイト存ズル次第アリマス、敢テ本員カ事新シク申上ゲル迄モナク我が金匱無缺ノ帝國ヲ貫流致シマシテ、千古滌ラザル所ノ國民的精神ノ源ト云フモノハ、此義勇奉公ノ精神ニアブ、此精神ヲ土臺ト致シテ、而シテ我帝國三千年ノ歴史ヲ展開致シテ居ルコトハ、申スマデモナイ次第アリマス、而シテ此義勇奉公ノ精神ノ形トナツエ外ニ露ハルモノハ、即チ忠君デアリ即チ愛國デアル、此忠君愛國ガ我國體ノ精華トシテ我國民性ノ根柢ヲ形造ルコト、是亦謀々俟タザル次第デアリマス、然ルニ此日本獨特ノ大精神ガ、近來若シク我國民ノ間ヨリ減退シ消耗致シタト云フコトハ、國家ニ取フテ實ニ覺フベク洵ニ寒心ニ堪ヘザル次第アルニモ拘ラズ、本員ノ質問ニ對スル御答辯ハ、冷々淡々顧ミテ他ヲ言フカ如キ有様デアルト云フコトハ、國家國民ノ爲甚ダ遺憾ニ堪ヘザル次第アリマス、本員ノ質問ノ要旨ハ誰か見テモ一目瞭然デアラウト思フ、之ヲ二點ニ分ケ得ルコトガ出來ルト考ヘルノデアリマス、即チ其第一點ハ我ガ帝國ノ建國以來ノ傳統的精神トモ謂フベキ所ノ、此義勇奉公ノ精神が衰退シタト云フコトニ關シテ、政府ハ其原因ニ就テ十分研究ナサレタヤ否ヤ、換言スレバ現内閣成立以來、急ニ際立テニ付イテ參リマシタ所ノ愛國心ノ缺乏、即チ此義勇奉公ノ精神ノ衰退ニ關シテ、政府ハ萬遗漏ナク其原因ヲ究メテ、而シテ此大精神ノ振興ヲ策シ、國民性ノ動搖ヲ防イデ、國家ノ隆昌ニ策スル所アツヤ否ヤ、是ガ第一ノ要點デアリマス、次ニ第二ノ要點ハ、近來急ニ衰ヘテ來タ所ノ義勇奉公ノ精神、即チ愛國心ヲ作興致シテ、之ヲ彌倍信

盛ニナラシメルト云フコトハ、國家國民ノ上ニ取テ洵ニ重
要ナル事アリマスルガ、政府ハ如何ナル方法ニ依テ、此精
神ノ旺盛ヲ圖ラントスル御積リデアルカ、其方策ト致シテハ、
既設ノ方法ヲ以テ事足レリトシテ居ラレルノデアルヤ否ヤ、
又ハ新タル所ノ方法ヲ講ゼントセラル、ノデアルカ、ソレヲ
バ具體的ニ承リタイト云フノガ第一ノ要點デアリマス、然ル
ニ總理大臣ノ之ニ對スル所ノ答辯ハ洵ニ驚入タ、モノデア
ル、之ヲ朗讀致シマスレバ「國民ヲシテ義勇奉公ノ精神ニ敦
カラシメンカタメニハ政府ハ常ニ周到ノ注意ヲ怠ラス而シテ
本年初頭ニ際シ我國民ノ間ニ此精神ノ衰退シツ、アルヤ
ノ事實ニ言及シタルハ之ニ依リ國民ノ反省ヲ促サントシタ
ルナリ」洵ニ驚入タ答辯デアズ、俗ニ所謂木デ鼻ア括タ
挨拶トモ謂フベキヤウナ御答辯デアル、而モ此御答辯書ニ
ハ「義勇奉公ノ精神ヲ敦カラシムヘク周到ナル注意ヲ怠ラ
ス」トアリマスカ、倘テ政府從來ノ施設ヲ熟、拜見致シマス
ルノニ、何所ニ此精神ヲ敦カラシムベク周到ノ注意ヲ認メ
得ルコトガ出來マスルカ、又御答辯書中ニハ、此精神ノ衰
退シツ、アルヤノ事實ニ言及シタノハ、國民ノ反省ヲ促サント
ガタメデアルトアリマスルガ、片タル所ノ新年初頭ノ戒言
ニ依シテ——訓戒ノ言葉ニ依シテ、何所ニ國民反省ノ實ヲ見
ルコトガ出來マスカ、本員ハ此點ニ對シテ、明晰ナル所ノ御
答辯ヲ希望致シタニモ拘ラズ、徒ラニ抽象的ノ言辭ヲ臚列
シテ、之ヲ胡麻化シ去ラントスルガ、如キハ、洵ニ遺憾ノ次第
デアルト申サナケレバナリマセヌ、而シテ更ニ御答辯書ヲ拜
見致シマスルノニ、我が國民ノ間ニ此精神ノ衰退シツ、アル
ヤノ事實云々トアズ、何カ本員ガ原總理大臣ガ、我が國民
ノ間ニ此精神カ衰退シタト云フ其事實ニ對シテ、此言葉尻
ヲ捕ヘテ言議スルカラ恐ル、ガ如クソレニ對スル原總理大
臣一流ノ細心ナル注意、是コソ真ノ周到ナル注意ガ、此短
キ答辯ノ間ニ認メルコトガ出來マスルガ、決シテ本員ハ或政
治家ノ常ニ爲サルガ如キ、左様ナ揚足取りヲ爲サントスルノ
デハナイ、眞ニ國家國民ノ重大問題デアルガ故ニ、此精神ノ
旺盛ヲ圖ルベク、果シテ周到ノ注意ヲ爲サレタヤ否ヤ御
聽致シタ次第デアル、即チ本員ハ原總理大臣ガ、本年ノ初
頭ニ當シテ、國民ニ此苦言ヲ呈スルノ已ムヲ得ザルコトヲ遺
憾トスト云フ前提ノ下ニ御述ニナリマシタ所ノ其訓戒ノ言
葉、特ニ聲ヲ大ニシテ國民ノ反省ヲ促スト言シテ、各新聞紙
上ニ御掲ニナリマシタ、其御言葉ニ對シマシテハ、本員等ハ
如何ニモ至言デアルト思テ居リマス、如何ニモ尤デアルト
感トス、國民性ノ一大缺陷ヲ指摘セラレテ、而シ
テ國民ヲ戒飭セラレタコトハ、洵ニ見上ダタコトデアルト感

速記録第十七號 義勇奉公ノ精神衰退ニ關スル質問ノ答

ル理想アルナク、深遠ナク主義定見アルナク、全タ其日暮シノ政治テアリマス、謂ハバ行當リバツタリノ政治テアリマス、而シテ時俗ニ媚ビ、時弊ニ迎合スル所ノ俗惡ナル政治テアリマス、ソレガ故ニ此時俗ニ抽ンデテ一般ノ高處ニ在ラテ、時代思想ヲ導クト云フガ如キコトハ、思モ寄ラナイ事ニアラテ、寧口時代ノ俗惡ナル所ノ潮流ニ掉シテ、此低級俗惡ナル所ノ思想ヲ普及獎勵スルト云フガ如キ政治ノ遺方テアリマス、ソレガ爲メ國家ノ綱紀ハ頽廢ヲ致シ、到ル處ニ官紀紊亂ノ事實ヲ見ルニ至ラタ次第デアル、今ヤ國民ノ多クハ非常ニ憤り、且又非常ニ疑フテ居リマス、多數ノ國民ハ頽々トシテ起ル官權ノ濫用ニ伴フ官紀紊亂ノ事實ヲ目撃致シテ、恰モ現内閣ハ官權濫用、官紀紊亂ノ特權ヲ有セルガ如ク、恰モ現内閣ノ官吏ハ、官權濫用、官紀紊亂ノ特權ヲ附與セラレタルニハ非ズヤト云フ、疑フ存シテ居リマス、斯ル事ハ國家ノ爲メニ大不祥事デアリマス(脱線々々ト呼フ者アリ)隨テ世道人心ニ及ボス影響ハ、洵ニ莫大ナルモノト考ヘマスル、又一方ニ於テハ此失政此惡政ニ對スル所ノ國民不平ノ叫怨嗟ノ聲ト云フモノハ囂々タルモノガアリマス、此怨嗟ノ聲不平ノ叫ガ遂ニ現内閣ノ呪訓トナリ、反抗トナリ、此呪訓此反抗ガ社會道德ノ缺陷ト相俟テ、愛國心ノ缺乏即ニ義勇奉公ノ精神ノ衰退ヲ來シ、我國民性ニ一大龜裂ヲ生ズルト云フカ如キ、眞ニ我國民トシテ、不名譽極マル結果ヲ生ムニ至ラタノテアリマスル、然ルニ此當ノ本人トモ謂フベキ原總理ノ口ヨリ此戒告ヲ聽クニ至ラテハ、吾ニ國民ハ洵ニ異様ノ感ニ打タレザルヲ得ナイノデアリマス、忌憚ナク言ッタナラバ、吾ニガ原總理ノ口ヨリ此戒言ヲ聽クニ至ラタノハ、恰モ鬼ノ念佛ヲ聽クガ如キ感ジテ致シタノデアリマス(拍手起ル)併シ鬼ノ念佛ト雖モ、之ヲ唱ヘルハ唱ヘザルニ優ルコト萬々テアリマス、併ナガラ單ニ之ヲ唱ヘタノミテ此國民思想ヲ善導セントスルガ如キコトハ、頗ル難イ哉ト謂ハネバナラヌ、乃チ翻譯タル所ノ屠蘇機嫌ノ漂ヘル新年初頭ノ所謂開陳ニ依テ、義勇奉公ノ精神ヲ旺盛ナラシメントスルガ如キコトハ、恰モ閻魔ラシテ說教セシメテ、之ニ隨喜渴仰ノ涙ヲ流セヨト云フノト同様デアルト考ヘル次第アリマス、原總理大臣ニシテ眞ニ國家ノ前途ヲ憂ヒ、眞ニ此大精神ヲ旺盛ナラシムルベク熱望セラル、ナラバ、必ズヤ此戒告ト相俟テ、徹底ノ施設ヲ爲サネバナラヌ苦アリマス、然ルニ左様ナ事ヲ爲サラナイノミナラズ、此精神ヲ敦カラシムベク周到ノ注意ヲ拂ヘルナド、ハ、以テノ外ノ御言葉アルト謂ハネバナラヌ、ネ姑息偷安デアッテ、何等徹底的ニ此國家ノ大患トモ謂フ若シ政府が果シテ此精神ヲ旺盛ナラシムベク、周到ナル施

設ヲ爲サレタシタナラバ、如何ナル施設ヲ爲サレタノデア
ルカ、具體的ニ御元ヲ願ヒタイト存ズル次第デアリマス、此際
序ニ附加ヘテ申シタイ事ハ、思想ニ關スル事デアリマスガ、時
間ノ都合上詳シク論ズルコトモ出來マセヌカラ、單ニ思想
ノ取締ニ就テ意見ヲ述べタイト思ヒマス、此思想ノ善導義勇
奉公ノ發揚トハ、非常ニ密接ナル關係ヲ有シテ居ルニモ拘
ラズ、當局ノ思想ノ取締方ト云フモノハ洵ニ遺憾ナル事ガ
多イ、昨年ノ夏丁度臨時議會ノ濟ミマシタ後ニ於テ召集セ
ラレタル地方長官會議三於テ、床次内務大臣ハ、思想ハ決シ
テ權力ヲ以テ壓迫ノ出來ルモノアハナイ、思想ハ思想ヲ以
テ對立善導シナケレバナラヌ、即チ思想ヲ導クニハ、思想ヲ
以テシナケレバナラヌト云フ訓示ヲ與ヘラレマシタ、當時私
共ハ流石ニ床次内務大臣ダケアッテ、隨分分々タコトヲ仰シ
拜見致シマスノニ、此名訓示ヲ裏切ラレタル依然トシテ峻
嚴ナル檢閱主義、依爲トシテ峻烈ナル壓迫干涉主義ヲ執
ラレテ、思想ノ善導トコロデハイ彌ニ倍々之ヲ惡化セシムル
如キ傾向ヲ生スルニ至ラシメ、之ガ爲メニ思想ノ取締ガ、歩一
歩危險ニ導クモノデアルト云フ感ヲ抱カシメルト云フコトノ
遺憾ナ事デアリマス、或ハ床次内務大臣ハ、大臣御咲好ノ
ヤルト感心致シテ居リマシタガ、扱其後ノ取締方針ヲ熟ニ
設立ヲ以テ、思想ノ對立策ノ實行テアルトシテ居ルカモ知
レマセヌガ、若シスルモノヲ以テ思想對立策ト爲スニ至ラ
ハ、滑稽モ亦甚シト謂ハネバナラヌ、即チ我が國民思想ハ、狼
花節ノ如キモノヲ以テ善導セラル、カ如キ、爾ク低級ナモノ
デハアリマセヌ、又民力涵養ノ講演、是ハ必ズシモ惡イトハ
申シマセヌガ、此講演ヲ利用致シテ、黨勢擴張ノ具ニ供セ
ラル、ニ至ラテハ、沟ニ不埒千萬ノ至デアルト謂ハネバナリマ
セヌ、「馬鹿ヲ言フナ」ト呼フ者アリ、決シテ是ハ馬鹿ナ事デ
原因ナリマシテ、此講演會ヲ利用シテ、全國ニ於テ演説サ
セテ居リマス、現ニ北海道其他大阪府又ハ他ノ府縣ニ於
テ此講演會ヲ開クコトハ、徒ラニ地方自治團體ヲシテ政爭
ノ渦中ニ入ラシムルモノト看做シ、此講演會開催ヲ謝絶ヲ
致シタ實例ガアリマス、又國粹會ノ設立ノ如キ、一般思想ヲ
善導スルニ就テハ、決シテ惡イトハ申シマセヌ、併ナカラ之ヲ
以テ或ル厭フベキ主義者——社會主義者ト對立セシメン
トスルダ如キハ、却テ社會主義者ヲシテ、陰惡ナル方面ニ趨
カシムルト云フ傾向ヲ生ゼシメツ、アリハシナイカ、現ニ最近
社會主義者ノ新年宴會ニ於ケル食事ノ亂暴、又自由人聯
盟會ノ演説會場ニ於ケル會員ノ刃傷沙汰、近クハ大阪ニ

於ケル借家人ノ演説會ニ於ケル殴打沙汰、是等ノ事ノ如キハ甚ダ憂フベキ狀態ニアリテ、而モ警官ハ却テ其加害者ヲ買ヒ、更ニ一層陰惡ナル方面ニ趨カシムルト云フガ如キ庇護シタルヤノ疑ガアル、ソレカ爲メニ此厭フベ主義者ノ怒ヲ買ヒ、更ニ一層陰惡ナル方面ニ趨カシムルト云フガ如キ領向ヲ生ゼシメタト云フコトハ、明ニ床次内務大臣ノ專賣ノ思想ノ對立策ノ失敗ヲ示セルモノハアルト申シテ宜カラウト思ヒマス、又一國元氣ノ中心トモ謂フベキ青年指導ハ此指導方針ノ良否ト云フモノハ、義勇奉公ノ精神發揚ニ密接ナル關係ヲ有スルコトハ、言フマデモナキコトデアリマスガ、扱現在ノ有様ハ如何デアリマスカ、其名ハ自主的指導ト云フノデ、如何ニモ時代ニ順應スルカ如キ方針ヲ執ラレバ、テ居リマスケレドモ、徒ラニ名ノミ麗ハシクシテ、實績ハ之ニシテ合致ヲ缺キ、命令ニ途ニ出ル如キコトハアリハシナイカ、伴ハナイ傾ガアリハシナイカ、又青年ノ生命トモ謂フベキ剛健ナル氣風ガ、此指導方法ニ依テ減殺セラル、ト云フガ如キコトハアリハシナイカ、又文部内務兩當局ノ方針が往々ニシテ合致ヲ缺キ、命令ニ途ニ出ル如キコトハアリハシナイカ、殊ニ遺憾ナル事ハ中橋文部大臣ガ此青年指導ニ對シテ、全ダ無理解デ御在デニナルト云フコトデアリマス、之ニ反シテ床次内務大臣ハ相當理解モアリ、又相當ニ御話モナサルヤウデアリマスケレドモ、是ハ又政黨ニ利用サル、ガ如キ疑ガアリマス、此疑ハ反對黨ノ吾ミノ色眼鏡ヲ懸ケテノハナイ、天下衆目ノ視ル所デアル、現ニ閭僚ノ間ニ於テ——閭員ノ間ニ於テ、床次内務大臣ハ、青年團ヲ利用シテ黨勢擴張ノ具ニ供セントスルガ如キ事柄ニ對シテ、大ニ論争ニナッタト云フコトヲ私ハ確聞致シテ居リマス、若シ此事柄ガ私ノ杞憂ニ過ぎナカッタナラバ、國家ノ爲メニ沟ニ幸デアルト謂ハナケレバナリマセヌ、之ヲ要スルニ我ガ國民性ノ基礎タル義勇奉公心ノ衰退シタト云フコトハ、我ガ帝國ノ前途ニ取テ、沟ニ危險千萬十實ニ憂ブベキ次第テアルノミニナラズ、光輝アル歴史ヲ有スル帝國ノ爲メ非常ニ危險千萬ナル現状デアルガ故ニ、國民ハ互ニ相戒メテ、其精神ノ旺盛ニ努メベキハ當然ノ義務デアルノミナラズ、政府ハ格段ノ勇奉公ノ精神ヲ旺盛ナラシムベキ、如何ナル施設ヲ行ハントスルノアルカ、又殊ニ必要ナルベキ所ノ教育方面ニ於テ當然ノ責務デアリマス、然ルニ何等ノ方法ヲ講ゼラレナイノミカ、特ニ必要ナルベキ教育方面ニ於テ何等ノ施設ノ無イノミナラズ、中橋文部大臣ハ其食言的言動ニ依テ、却テ青年學生ヲシテ此弊害ヲ一層募ラシムルト云フ、如キ結果ヲ見ルニ至ッタコトハ、沟ニ痛歎ノ極ニテアリマス、政府ハ此義務ヲ負メテ、如何ナル施設ニ依テ此精神ノ振興ヲ圖ラントスルノアルカ、此二點ニ對シテ答辯アランコトヲ要求致シマシテ、此壇ヲ降ラントスルモノデアリマス(拍手起ル)

水留二郎君ノ意見

福島縣若松市補闕選舉ニ於ケル干渉壓迫ニ關スル件外一件質問ノ答辯ニ對スル清水留三郎君ノ意見

○副議長(柏谷義三君)　清水留三郎君
ニ關スル件外一件質問ノ答辯ニ對スル清
水留三郎君ノ意見
〔清水留三郎君登壇、拍手起ル〕
○清水留三郎君　諸君、本員ハ昨年ノ八月十日ニ於テ
舉行サレマシタ、福島縣第二區若松市ノ補闕選舉ノ當時
ニ於ケル干渉壓迫ノ事實ト、本年一月十五日ニ舉行サレ
マシタル、秋田縣第三區山本郡ノ矢張補闕選舉ニ於テ行
ハレタル干渉壓迫ノ事實ニ就キマシテ、政府當局ニ對シテ
質問書ヲ提出シタノデゴザイマス、併シ其答辯ハ要領ヲ得
ナイ——要領ヲ得ナイガ爲メニ、私ハ遺憾ナカラ茲ニ其意見
ヲ陳述セザルヲ得ザルト云フコトヲ悲シムノデゴザイマス、近
頃ノ歐米選舉界ノ傾向ナルモノヲ視察致シマスルト、選舉
ニ於テ常ニ反對黨が多ク勝テ居ルト云フ風ナ傾向デアル、
昨年十一月二日ニ行ハレタル所ノ亞米利加ノ選舉ニ於テ
モ、又數次行ハレタル所ノ英吉利ノ補闕選舉ニ於テモ、何
時モ反對黨が勝テ居ル、而シテ世界ニ於テ今日反對黨が
負ケル現象ヲ呈シテ居ルト云フノハ、僅ニ日本ト、西班牙ト、
葡萄牙トアルノミデアル、〔成程「ト呼フ者アリ」何ノ爲メニ
日本が負ケルノデアルカ、政府が必ず勝ツノデアルカト申上
ゲマスルト、ソレハ即チ一ツニ、政治教育ノ缺乏ニ因ルコト、
一ツニハ制限選舉ノ結果デアル、彼ノ政友會ノ諸君ハ、普
通選舉ニ對シテ反對シテ居ル——反對シテ居ル理由トシテ
ハ、政治教育ガ缺乏シテ居ルト云フコトヲ論ジテ居ル、併ナ
ガラ今日ノ政治教育ノ缺乏、此缺乏ヲ惹起サシメタノハ何
人ノ手デアルカ、是ハ今日迄ノ官僚閥族ノ政治ト、同時ニ
之ヲ援助シタ所ノ政友會、並ニ今日ノ政友會ノ制度ガ非
常ニ與テ力アルノデアル、〔ノウ「ヒヤー」ト呼フ者ア
リ〕而シテ譬ヘテ見マスルト云フト、或ハ學校ニ於テ教科書ノ
中ニ政治ノ問題ヲ論及スルコトヲ避ケタリ、或ハ議會ニ於
テ婦人ノ傍聴ヲ許スガ、普通ノ政談演説會ニ許サナカッタ
リ、乃至ハ此有ユル問題ニ於テ、今日政治教育ト云フモノ
ヲ事實ニ於テ之ヲ避ケテ居ル、避ケテ居ルヤウナ工合デアッ
テ、ドウシテ此日本ノ選舉界ノ廓清ガ出來マセウヤ、又今一
ツハ制限選舉ノ結果デアル、今日ノ有權者ハ非常ニ少ナシ、
日本六千萬ノ人口ノ中ニ於テ、權利アル者ガ僅カニ三百
万ノ二百萬人アル、三人ノ中一人ハ英國ニ於テ權利ガアル
タル者ハ、英國五千萬ノ人口ノ中ニ男子一千二百萬人、女
子六百萬人アル、二人ノ中一人ハ英國ニ於テ權利ガアル

ヲ策セシメタコトデアリマス、即チ政友派ノ黨員ニ對シマシテ、憲政會ノ奴等ハドンナ事デモ引掛リサウナ事ガアタラ、告發シテヤルカラ、細大トナク報告シテ吳レト云フコトヲ告ゲマシテ、憲政派ノ首領株ニ就テハ悉ク「スペイ」ヲ放ツテ、サシテ之ヲ威喝シタノデアリマス、溝口ト云フ人ハ政友會ノ黨員ト共ニ泊テ居タノミナラズ、殆ド毎晩ノ如クニ若松市ノ料理店ニ政友會ノ黨員ト飲食ヲシテ、盛ニ醜態ヲシタト云フコトデアル、又八月ノ七八日ノ頃ニ於テ、宮田知事、佐藤内務部長、石垣警察部長杯ガ、此東山温泉向瀧樓ニ投宿致シマシテ、干涉方針ヲ謀議シタト云フコトデアル、更ニ川村警保局長デアルトカ、乃至ハ瀧内務大臣秘書官杯モ参リマシテ、北參議ニ加ッタト云フコトデアル、更ニ第二ニ申上ゲタイノハ、若松市ノ米屋質屋、並ニ料理屋等ノ憲政派ト目セラレタル所ノ家ヲ、一舉ニ臨時検査ヲ行々タ事實デアル、是ハ若松市ノ米穀商組合ノ有權者ト云フ者ハ百八名アリマシテ、此米穀商ノ組長ト云フノハ、憲政派ノ候補者デアリマスル高木清次郎ト云フ人ノ實弟高木榮吾ト云フ人デゴザイマシタ、此米穀組合百八人ノ中ニ於テ、此高木組長ノ信望ガ頗ル厚イ爲メ、殆ド全部ハ一致シテ、サウシテ此高木候補ヲ援ケテ居タノデゴザイマス、然ルニ僅ニ政友ト目セラレタ人ハ一人ノミデアル、八月ノ七日ニナリマシテ戰ガ白熱レタ人ハ二人ノミデアル、八月ノ七日ニナリマシテ戰ガ白熱化セントスルニ際シマシテ、若松警察署ハ突如ト致シマシテ量衡竝ニ米質検査ヲ開始スルト言々テ、サウシテ一齊ニ此若松市ニ於ケル所ノ米穀商ノ検査ヲ斷行シタノデアル、此米ノ検査、即チ米ノ中ニ混砂米ガアルヤ否ヤト云フコトヲ検査スルノアリマスカラ、其場ニ於テ、其検査ヲスレバ宜イノデアリマスガ、ソレヲ悉ク少シヅ、家ヘ持歸タ、即チ警察署ヘソレヲ持歸テ検査ヲシタノデアリマス、其爲メニ持歸ラレタ多クノ米屋非常ニ狼狽シタ、狼狽スルト同時ニ、唯ダ政友派ノ運動者ニナニテ居ル一人ノ米屋ニ對シテハ此検査ヲ少シモシナカズ、他ノ憲政派ト目セラレテ居ル者ノ検査ハ、幾分ノ米ヲ警察署ニ持歸シテ、オ前達ニ調上ダテ罰金ヲ科スルト云フ脅シヲヤッテ恐喝ヲヤッタ、而シテ此二人ノ政友派ノ者ニ對シテハ断然シナカズ、若シ此事ニ就キマシテ、シテ何デゴザイマセウカ（拍手起ル）更ニ斯ウ云フ選舉ノ場公平ニ米ノ検査ヲ行フナラバ、全部ニシナケレバナラズ、單ニ政友會ノ運動員ニナニテ居ル所ノ米屋ノミヲ抜イテ、其他ノ者ヲスルト云フノハドウ云フコトデアルカ之ヲ干涉ト言ハズシテ何デゴザイマセウカ（拍手起ル）更ニ斯ウ云フ選舉ノ場合ニ於キマシテハ常ニ流言ガアル、流言ノ結果、若シ憲政派ヲ脱シテ政友會ノ人人ニ入レルナラバ、オ前達ニ此罰金ガ科

セラレナイデアラウト云フヤウナ流言カ盛ニナリテ、而モ其
流言ヲ政友派ノ運動員ガ放シテ、暗ニ憲政派ノ米屋ヲ唆シテ、其結果憲政派ニ堅ク入レヤウト思シタ者ガ、途中デグル
シテハ、此料理店ニ於テモ能ク政友派トカ憲政派トカ云々
テ、憲政派ノ飲ミニ行ク所、政友派ノ主ニ行ク所ガアル、此
憲政派ト目セラレテ居ル料理店ダケヲ、一齊ニ其前夜ニ於
キマシテ臨檢ヲ行シタ、若シ行フ必要ガアルナラバ、全部行ハ
ナケレバナラヌノニ、政友會關係ノ料理屋ニ於キマシテハ何
等臨檢ヲ行ハナイガ、憲政會關係ノ旅館及料理屋ニ行シタ
ト云フコトハ、是ハ確ニ何カ潜ンデ居ナケレバナラヌ、更ニ質
屋、即チ質屋ノ大部分ガ憲政派ト目セラレテ居シタノデ、此
質屋ヲ驚カス爲メニ、此質屋ニ對シテ矢張検査ヲ行シタ、行
フナラバ平素行フ、選舉ノ間際ニナシテ、投票ノ前日トカ前
ト云フコトハ、是ハ確ニ何カ潜ンデ居ナケレバナラバ、是ハ言ハズシテ選
前日ニサウ云フ風ナ査ヲ行ナシタナラバ、
舉干涉ト認メナケレバナラヌノデアル、更ニ第三ニ論ジタノイハ
ハ、憲政派ノ幹部ヲ檢舉シテ、罪ノ無キニ之ヲ留メ置イタ事
實アル、八月ノ八日デゴダイマシタ、若松市南町ノ憲政派
ニ基イタト云フコトデアル、更ニ奇怪ナルハ此檢舉ト同時ニ
ノ運動員デ有力者デアリマシタル所ノ、佐々木源吾、長谷川
正毅、佐藤久馬、坂井長治ト云フ四名ヲ突如シテ警察
署ニ檢舉シタノデアル、勿論縣ハ政友派ノ關係ノ人ノ授書
ニ寧口先ンジテ以テ、檢舉サレルカサレナイカト云フ時ニ於キマ
シテ、何時ノ間にニカ憲政派ノ重鎮デアル此四人が檢舉ヲサ
レタト云フコトノ號外ガ出タノデアル、檢舉サレテ三十分ナ
リ一時間ナリ經シテ、サウシテ檢舉サレタト云フコトノ號外ガ
連絡ガナキレバナラヌ、少クトモ此號外ヲ以テ、選舉界ノ攬
出ルノデアタナラバ不思議デナイガ、檢舉ト殆ド同時ニ、憲
政派ノ幹部某々ガ檢舉サレタト云フ號外ヲ御用新聞ガ發
行シタ、サウスルト檢舉ト號外ト云フモノニ就テハ、何等カ
行シタ、サウシテ檢舉サレタト云フコトノ號外ガ出
田村克己ト云フ人ト、後藤臺代之助ト云フ人ガ警察ニ出
頭致シマシテ、若松警察署長三宅善左衛門ト云フ人ヲ訪
連絡ガナキレバナラヌ、少クトモ此號外ヲ以テ、選舉界ノ攬
出ルノデアタナラバ不思議デナイガ、檢舉ト殆ド同時ニ、憲
政派ノ幹部某々ガ檢舉サレタト云フ號外ヲ御用新聞ガ發
行シタ、サウシテ檢舉サレタト云フコトノ號外ガ出
票ノ間ニ合フヤウニ歸シタト云フコトデアル、更ニ此佐々木
レザル一片ノ投書ニ依シテ憲政派ノ幹部ヲ檢舉スルノハ、餘
リニ偏頗デサウシテ惡辣デアルト云フコトヲ攻撃シタ、サウシ
テ署長カラ急ニ取調ベテ歸ラセルト云フナ留置イテ、漸ク投
票ノ間ニ合フヤウニ歸シタト云フコトノ不平ヲ詰リ、信據セラ
氏ガ此選舉、即チ補闕選舉ニハ何等ノ關係ガ無カタト云
フコトガ後ニ於テ分シタ、事ニ依ルト前田前代議士同時ニ違
犯ノ行爲ガアルト云フ疑デ檢舉シタノデアッテ、而モ其疑ガ

無タクト云フコトデ、裁判所ニ於テ不起訴ニナシ、事實デ
分ルノデアル、同日憲政派ノ若松市上町方面ノ重鎮デ、同
方面ノ嚮背ヲ一身ニ荷ウテ居リマス、博勞町ノ酒造家山口
慶藏ト云フ人ヲ、矢張突如警察署ニ召喚致シマシテ、選舉
ガ激シヤウダカラ、程度ヲ越サヌヤウニナドト署長ガ詰ラヌ
話ヲ仕向ケテ、檢舉同様ニ多クノ時間ヲ警察ニ費サシメタ
ト云フコトデ、更ニ同町ノ有力者アル井上重兵衛ト云フ
人モ同様ノ災難ニ遭タ、斯ノ如ク政友會ニ關係スル人ハ
一人モ檢舉シナシテ、憲政派ノミニ人ヲ、而モ罪ナクシテ選
舉ノ肝要ナル時ニ、此警察署ニ留置イタト云フコトハ何デ
アル、之ヲ干渉ト言ハズシテ何ノ干渉ガゴザイマセウヤ、「拍
手起ル」更ニ若松警察署ニ於テハ、管内全部ノ巡査ヲ召致
シマシタ外、管外ヨリ警察官ノ援助ヲ求ムル口實ノ下ニ、約
二百三十名ノ警察官ヲ集メマシテ、中數名ノ刑事並ニ之
ニ附隨スル所ノ特務巡查ヲ除キマシテ、二百二十餘名ト云
フ警察官全部ヲ、此憲政派ノ運動員並ニ幹部ニ一々尾行
セシメテ、サウシテ政友派ノ幹部並ニ運動員ニ對シテハ、一
人モ尾行セシメナカタノデアル、即チ一二於テハ運動ノ自
由ヲ妨害シ、一二於テ自由ニ運動ヲセシムル方法ヲ執タ、
是ハ干渉ト言ハズシテ何デアリマセウカ「是等ハ單ニ外部ニ
現ハレタ所ノ二三ノ事實ニ過ギナイ——外部ニ現ハレタ二
三ノ事實ニ過ギナインデアリマスガ、尙ホ詳シク申上ダカラ
數限リガアルマイト思フ、以上申上ダタノハ福島縣ノ例デア
ル、次ニ秋田縣ノ第三區ノ補闕選舉ニ於ケル干渉壓迫ノ
事實ニ就テ、極ク簡單ニ之ヲ申上ダタイ、秋田縣ノ此選舉
干涉ノ第一問題ハ、秋田縣ノ山本郡が能代湊町外七箇
村ニ於ケル所ノ投票立會人ハ、全部政友會ヨリ選出シテ憲
政派ヨリノ要求ヲ悉ク拒否シタ所ノ理由デアル、昨年ノ總
選舉ノ時ニ於テ、投票立會人ノ偏頗ト云フ問題ヨリシテ不
正投票ヲ生ジマシテ、現ニ秋田縣ノ第二區ノ如キニ於キマ
シテハ、郡書記が投票用紙ヲ偽造シタト云フノデ、三箇月四
箇月ノ刑ニ處セラレタ、而モ其當時ノ池田龜一君ハ失格シ
テ、今日ハ村山君が當選シタノデアル、又宮城縣ニ於テモ同
政友派ヨリ選出シテ、憲政派ヨリハ一名モ出サナカタノデ
アル、其爲メニ種々ノ風評ガアタ、或ハ投票地内ニ於テ買
收ガ行ハレタトカ、或ハ無記名投票ナリニモ拘ラズ、側ニ附
町村ノ中十七八箇町村ト云フモノハ、投票立會人ヲ全部
イテ居シテ、是ミ書ケト命ジタク云フヤウナ風評ガ非常ニ盛
デアタ、故ニ今回ハサウ云フ風ナ物議ガ起ラヌヤウニ、前以
テ警戒シナケレバナラスト云フノデ、憲政會ニ於テハ總選舉
ノ前三内務大臣ヲ訪問シテ、投票立會人ハ公平ニシテ貰ヒ

タイト云フコトヲ要求シタノデアル、更ニ秋田縣ニ於キマシ
テ、秋田縣知事ニ向テ、同ジク投票立會人ハ公平ニシテ貰
シマシタ外、管外ヨリ警察官ノ援助ヲ求ムル口實ノ下ニ、約
二百三十名ノ警察官ヲ集メマシテ、中數名ノ刑事並ニ之
ニ附隨スル所ノ特務巡查ヲ除キマシテ、二百二十餘名ト云
フ警察官全部ヲ、此憲政派ノ運動員並ニ幹部ニ一々尾行
セシメテ、サウシテ政友派ノ幹部並ニ運動員ニ對シテハ、一
人モ尾行セシメナカタノデアル、即チ一二於テハ運動ノ自
由ヲ妨害シ、一二於テ自由ニ運動ヲセシムル方法ヲ執タ、
是ハ干渉ト言ハズシテ何デアリマセウカ「是等ハ單ニ外部ニ
現ハレタ所ノ二三ノ事實ニ過ギナイ——外部ニ現ハレタ二
三ノ事實ニ過ギナインデアリマスガ、尙ホ詳シク申上ダカラ
數限リガアルマイト思フ、以上申上ダタノハ福島縣ノ例デア
ル、次ニ秋田縣ノ第三區ノ補闕選舉ニ於ケル干渉壓迫ノ
事實ニ就テ、極ク簡單ニ之ヲ申上ダタイ、秋田縣ノ此選舉
干涉ノ第一問題ハ、秋田縣ノ山本郡が能代湊町外七箇
村ニ於ケル所ノ投票立會人ハ、全部政友會ヨリ選出シテ憲
政派ヨリノ要求ヲ悉ク拒否シタ所ノ理由デアル、昨年ノ總
選舉ノ時ニ於テ、投票立會人ノ偏頗ト云フ問題ヨリシテ不
正投票ヲ生ジマシテ、現ニ秋田縣ノ第二區ノ如キニ於キマ
シテハ、郡書記が投票用紙ヲ偽造シタト云フノデ、三箇月四
箇月ノ刑ニ處セラレタ、而モ其當時ノ池田龜一君ハ失格シ
テ、今日ハ村山君が當選シタノデアル、又宮城縣ニ於テモ同
政友派ヨリ選出シテ、憲政派ヨリハ一名モ出サナカタノデ
アル、其爲メニ種々ノ風評ガアタ、或ハ投票地内ニ於テ買
收ガ行ハレタトカ、或ハ無記名投票ナリニモ拘ラズ、側ニ附
町村ノ中十七八箇町村ト云フモノハ、投票立會人ヲ全部
イテ居シテ、是ミ書ケト命ジタク云フヤウナ風評ガ非常ニ盛
デアタ、故ニ今回ハサウ云フ風ナ物議ガ起ラヌヤウニ、前以
テ警戒シナケレバナラスト云フノデ、憲政會ニ於テハ總選舉
ノ前三内務大臣ヲ訪問シテ、投票立會人ハ公平ニシテ貰ヒ

トモ謂フベキ大キナル町村ニ於テハ、其投票立會人ハ悉ク
之ヲ政友會ニ獨占シタノデアル、今政友派ノミニ投票立會
人ヲ選定シタ所ノ町村ヲ讀上ダマスト云フコト、能代湊町、
濱口村、上岩川村、下岩川村、鹿渡村、鶴川村、澤目村、境
川村、此一町七箇村デゴザイマス、能代湊町ニ付テハ、政友
會ノ人ニ於テハ憲政會ノ者モ入ッテ居シタト云フコト、能代湊町、
濱口村ニ於キマシテモ、憲政會ノ者モ入ッテ居ルト
云フコトヲ言シテ來ルノデアル、此警察官ノ行
動ハナイデ、而モ投票ニ於テ一番必要ナル此選舉ノ天目山
シマシタ外、管外ヨリ警察官ノ援助ヲ求ムル口實ノ下ニ、約
二百三十名ノ警察官ヲ集メマシテ、中數名ノ刑事並ニ之
ニ附隨スル所ノ特務巡查ヲ除キマシテ、二百二十餘名ト云
フ警察官全部ヲ、此憲政派ノ運動員並ニ幹部ニ一々尾行
セシメテ、サウシテ政友派ノ幹部並ニ運動員ニ對シテハ、一
人モ尾行セシメナカタノデアル、即チ一二於テハ運動ノ自
由ヲ妨害シ、一二於テ自由ニ運動ヲセシムル方法ヲ執タ、
是ハ干渉ト言ハズシテ何デアリマセウカ「是等ハ單ニ外部ニ
現ハレタ所ノ二三ノ事實ニ過ギナイ——外部ニ現ハレタ二
三ノ事實ニ過ギナインデアリマスガ、尙ホ詳シク申上ダカラ
數限リガアルマイト思フ、以上申上ダタノハ福島縣ノ例デア
ル、次ニ秋田縣ノ第三區ノ補闕選舉ニ於ケル干渉壓迫ノ
事實ニ就テ、極ク簡単ニ之ヲ申上ダタイ、秋田縣ノ此選舉
干涉ノ第一問題ハ、秋田縣ノ山本郡が能代湊町外七箇
村ニ於ケル所ノ投票立會人ハ、全部政友會ヨリ選出シテ憲
政派ヨリノ要求ヲ悉ク拒否シタ所ノ理由デアル、昨年ノ總
選舉ノ時ニ於テ、投票立會人ノ偏頗ト云フ問題ヨリシテ不
正投票ヲ生ジマシテ、現ニ秋田縣ノ第二區ノ如キニ於キマ
シテハ、郡書記が投票用紙ヲ偽造シタト云フノデ、三箇月四
箇月ノ刑ニ處セラレタ、而モ其當時ノ池田龜一君ハ失格シ
テ、今日ハ村山君が當選シタノデアル、又宮城縣ニ於テモ同
政友派ヨリ選出シテ、憲政派ヨリハ一名モ出サナカタノデ
アル、其爲メニ種々ノ風評ガアタ、或ハ投票地内ニ於テ買
收ガ行ハレタトカ、或ハ無記名投票ナリニモ拘ラズ、側ニ附
町村ノ中十七八箇町村ト云フモノハ、投票立會人ヲ全部
イテ居シテ、是ミ書ケト命ジタク云フヤウナ風評ガ非常ニ盛
デアタ、故ニ今回ハサウ云フ風ナ物議ガ起ラヌヤウニ、前以
テ警戒シナケレバナラスト云フノデ、憲政會ニ於テハ總選舉
ノ前三内務大臣ヲ訪問シテ、投票立會人ハ公平ニシテ貰ヒ

タイト云フコトヲ要求シタノデアル、更ニ秋田縣ニ於キマシ
テ、秋田縣知事ニ向テ、同ジク投票立會人ハ公平ニシテ貰
シマシタ外、管外ヨリ警察官ノ援助ヲ求ムル口實ノ下ニ、約
二百三十名ノ警察官ヲ集メマシテ、中數名ノ刑事並ニ之
ニ附隨スル所ノ特務巡查ヲ除キマシテ、二百二十餘名ト云
フ警察官全部ヲ、此憲政派ノ運動員並ニ幹部ニ一々尾行
セシメテ、サウシテ政友派ノ幹部並ニ運動員ニ對シテハ、一
人モ尾行セシメナカタノデアル、即チ一二於テハ運動ノ自
由ヲ妨害シ、一二於テ自由ニ運動ヲセシムル方法ヲ執タ、
是ハ干渉ト言ハズシテ何デアリマセウカ「是等ハ單ニ外部ニ
現ハレタ所ノ二三ノ事實ニ過ギナイ——外部ニ現ハレタ二
三ノ事實ニ過ギナインデアリマスガ、尙ホ詳シク申上ダカラ
數限リガアルマイト思フ、以上申上ダタノハ福島縣ノ例デア
ル、次ニ秋田縣ノ第三區ノ補闕選舉ニ於ケル干渉壓迫ノ
事實ニ就テ、極ク簡単ニ之ヲ申上ダタイ、秋田縣ノ此選舉
干涉ノ第一問題ハ、秋田縣ノ山本郡が能代湊町外七箇
村ニ於ケル所ノ投票立會人ハ、全部政友會ヨリ選出シテ憲
政派ヨリノ要求ヲ悉ク拒否シタ所ノ理由デアル、昨年ノ總
選舉ノ時ニ於テ、投票立會人ノ偏頗ト云フ問題ヨリシテ不
正投票ヲ生ジマシテ、現ニ秋田縣ノ第二區ノ如キニ於キマ
シテハ、郡書記が投票用紙ヲ偽造シタト云フノデ、三箇月四
箇月ノ刑ニ處セラレタ、而モ其當時ノ池田龜一君ハ失格シ
テ、今日ハ村山君が當選シタノデアル、又宮城縣ニ於テモ同
政友派ヨリ選出シテ、憲政派ヨリハ一名モ出サナカタノデ
アル、其爲メニ種々ノ風評ガアタ、或ハ投票地内ニ於テ買
收ガ行ハレタトカ、或ハ無記名投票ナリニモ拘ラズ、側ニ附
町村ノ中十七八箇町村ト云フモノハ、投票立會人ヲ全部
イテ居シテ、是ミ書ケト命ジタク云フヤウナ風評ガ非常ニ盛
デアタ、故ニ今回ハサウ云フ風ナ物議ガ起ラヌヤウニ、前以
テ警戒シナケレバナラスト云フノデ、憲政會ニ於テハ總選舉
ノ前三内務大臣ヲ訪問シテ、投票立會人ハ公平ニシテ貰ヒ

ノ代議士ノ諸君ガアル、——代議士ノ諸君カアルカ、併シス
ノ如キ諸君ハ多ク政府ノ援助ニ依テ、權力全カノ御蔭ニ
依テ當選セラレタル人ガ、大部分ニアリハシナイカト私ハ信ズ
ルノアリマス、吾々ノ主張スルノハ民選議員デアルカ、今日
ノ政友會ノ議員諸君ハ、社會ニ於テ政友會ノ議員諸君ニ
對シテ、アレハ官選議員ナリト云フ風ナ社會ノ噂ノアルト云
ムルモノデアルト云フコトヲ、信ジテ疑ハナイノアリマス、
「生意氣言フナ」ト呼フ者アリ、而シテ今日ニ於テ斯ノ如
ク到ル處ノ選舉ニ於テ干渉壓迫ヲスル、干渉壓迫ヲス
ル結果、民間ニ於ケル所ノ思想界ハ非常ニ混亂ヲ爲
シ、危險思想ガ到ル處ニ派ラントスル所ノ傾向ヲ生ジタ、現
ニ有効ナル所ノ新聞ニ於テ、議會賴ムニ足ラズト云フ風ナ
意見ガチヨイ、見エル、議會賴ムニ足ラズト云フ風ナ
有力ナル新聞ニチヨイ、見エテ居ル、即チ此議會賴ムニ
足ラズト云フノハ一種ノ過激思想デアル、此過激思想ヲ傳
播セシメタト云フコトハ、到ル處ノ選舉ニ於テ今迄干渉壓
迫ガアッタ、干渉壓迫ノ結果漸ク當選セラレタ所ノ人ニハ有
ユル所ノ横暴ヲ極メ、政治ヲ我物顏ニシテ政友會ノ黨利黨
益ヲ慮テ、國家ノ利益ヲ眼中ニ置カザル結果ナリト斷言シ
テ憚ラナイノアリマス、故ニ私ハ茲ニ秋田縣並ニ福島縣ノ
干渉壓迫ノ事實ヲ痛論シナケレバナラヌト云フコトヲ悲シ
デ、サウシテ此壇ヲ降ルモノアリマス

○副議長(柏谷義三君) 山道襄一君
○三浦權兵衛君 議長々々——唯今ノ件ニ就テ一言シタ
イト思ヒマス
〔議長三浦君ガ呼ンデ居リマス」ト呼フ者アリ〕
○副議長(柏谷義三君) 三浦君、何デスカ
○三浦權兵衛君 唯今ノ御論ニ就テ私ハ直接自分ノ一身
ニ關係ガゴザイマスカラ、一應辯明シタイト思ヒマス
○副議長(柏谷義三君) 山道君、一寸御待チ下サイ——
三浦權兵衛君

〔登壇々々「ト呼フ者アリ」

〔三浦權兵衛君登壇〕

○三浦權兵衛君 諸君、私ハ秋田縣ノ一區ヨリ補闕選
舉——三區ヨリ補闕ニ出テ參々タ三浦權兵衛デゴザイマス、
〔謹聽」ト呼フ者アリ〕唯今ノ御論ヲ伺ヒマスレバ、如何ニモ
私ハ官憲ノ援助ニ依テ、出テ參々タヤウニ縷々言ハレマシタ
ガ、甚ダ遺憾ニ堪ヘナイ〔決シテソンナコトハナイ」ト呼フ者
アリ〕併シ事實ハサウデアリマセヌカラ、一寸辯明シマス〔「安
心シテアリ給ヘ」ト呼フ者アリ〕元來秋田縣ノ山本郡ハ、二
十三年以來非常ニ政黨ノ軋轢ノアタ場所デ、餘程早イ時
カラ、政友會ハ殆ド六分以上七分ニナシテ居ル場所デアリマ
ス

ス、「其通り」ト呼フ者アリ」レカ何故ニ是迄ハ憲政會ノ町

田君ニ多數ノ點ヲ比較的取ラレテ居タクト申シマスレバ、
「大隈ノ亂暴ノ結果」ト呼フ者アリ〕第一私共ガ長ク擔
ムコトハ、常ニ選舉ニ於テ政府ノ干渉壓迫ノ事實ガ然ラシ
ムモノデアルト云フコトヲ、信ジテ疑ハナイノアリマス、
「生意氣言フナ」ト呼フ者アリ、而シテ今日ニ於テ斯ノ如
ク到ル處ノ選舉ニ於テ干渉壓迫ヲスル、干渉壓迫ヲス
ル結果、民間ニ於ケル所ノ思想界ハ非常ニ混亂ヲ爲
シ、危險思想ガ到ル處ニ派ラントスル所ノ傾向ヲ生ジタ、現
ニ有効ナル所ノ新聞ニ於テ、議會賴ムニ足ラズト云フ風ナ
意見ガチヨイ、見エル、議會賴ムニ足ラズト云フ風ナ
有力ナル新聞ニチヨイ、見エテ居ル、即チ此議會賴ムニ
足ラズト云フノハ一種ノ過激思想デアル、此過激思想ヲ傳
播セシメタト云フコトハ、到ル處ノ選舉ニ於テ今迄干渉壓
迫ガアッタ、干渉壓迫ノ結果漸ク當選セラレタ所ノ人ニハ有
ユル所ノ横暴ヲ極メ、政治ヲ我物顏ニシテ政友會ノ黨利黨
益ヲ慮テ、國家ノ利益ヲ眼中ニ置カザル結果ナリト斷言シ
テ憚ラナイノアリマス、故ニ私ハ茲ニ秋田縣並ニ福島縣ノ
干渉壓迫ノ事實ヲ痛論シナケレバナラヌト云フコトヲ悲シ
デ、サウシテ此壇ヲ降ルモノアリマス

○副議長(柏谷義三君) 山道襄一君
○三浦權兵衛君 議長々々——唯今ノ件ニ就テ一言シタ
イト思ヒマス
〔議長三浦君ガ呼ンデ居リマス」ト呼フ者アリ〕
○副議長(柏谷義三君) 三浦君、何デスカ
○三浦權兵衛君 唯今ノ御論ニ就テ私ハ直接自分ノ一身
ニ關係ガゴザイマスカラ、一應辯明シタイト思ヒマス
○副議長(柏谷義三君) 山道君、一寸御待チ下サイ——
三浦權兵衛君

〔登壇々々「ト呼フ者アリ」

〔三浦權兵衛君登壇〕

在外朝鮮人ノ取締並朝鮮統治ニ關スル質問

ノ答辯ニ對スル山道襄一君ノ意見

〔山道襄一君登壇〕

○山道襄一君 私ハ在外朝鮮人ノ取締並ニ朝鮮統治ニ
關シマスル質問書ヲ提出致シマスルコト二回アリマス、二
回ニ甚ダ不深切ヲ極メシタル誠意ナキ答辯書ヲ得タコト
ヲ、私ノ爲メテナク國家ノ爲メニ甚ダ遺憾ニ感ズルノアリ
マス、今日ハ餘程時間も經過致シテ居リマシテ、皆サン方ハ
定メシ御迷惑ノコト、御察シ致シテ居リマスルレドモ、此
朝鮮問題ハ今日ノ時局ニ取りマシテハ、極メテ重大ナル事
デアリ、且ツ帝國ノ爲メニハ非常ナル大問題デアルノデス、
カス、其等ノ關係上、比較的町田君ハ多數ノ點ヲ得テ居ラ
シ度毎ニ吾ミガ持出シテ、多少ノ出費ハ自ラ支出シテ助ケタ
レタノアリマス、當リ前ノ人ナラバ、決シテ憲政會ノ方ニガ
人デゴザイマス、一方ハ大金ノ御不自由ノナイ方デアリマス
セヌ〔拍手起ル〕「ノウ——」ト呼フ者アリ〕ノウ——ト言フ御
方ハ何ヲ以テ言ハレルカ知リマセヌガ、私ハ標準トシテ山本
郡ニ二十六箇町村アリマスルガ、其中三箇村ハ組合役場
ニナシテ居リマシテ、詰リ二十三人町村長ガアリマス、其内
十五人ハ政友會デアリマス〔拍手〕又郡會ハ三十二人ア
リマスガ、其内十八人ハ頑トシタ政友會デアリマス〔ヒヤ
ヒヤ〕其町村長ガ二十三人ノ内十五人モアル以上ハ、町村
ニ地盤ガ無クテ、政友會ノ町村長ガ舉テ居ラメセウカ、又
郡會ハ三十二人ノ内十八人ノ政友會ノ同志ガアッテ、ソレ
ガ地盤ガ無クテ舉テ居ラレマセウカ、此前ニ高橋君ト町田
君トノ選舉ノ際ニ、憲政會ノ〔干渉ノ説明ヲシ給ヘ〕ト呼フ
者アリ〕ソレヲ比較シテ言フノアス、ソコテノレガ詰リ地盤ト
云フモノガサウ云フ六分ニモ七分ニモ分テ居ルモノガ、何ノ
爲メニ警察ヤ其他ノ手ヲ借りナケレバ、當選ガ出來ナイト云
フコトガアリマセウカ、〔要點ヲ述ヘ給ヘ〕ト呼フ者アリ〕要點
ヲ述ヘテ居ルノアリ、サウ云フヤウナ事ヲ以テ、地盤が分リ
切タ四分六分以上七分ニモナシテ居ル、ソレニ向テ官權ヲ
藉リナケレバ、當選ガ出來ナイモノ、如ク言ハレルノハ、甚ダ
貴方ガタノ見解ガ違テ居ルノアリマス〔ソレガ辯明ニナ
ルカ〕ト呼フ者アリ〕決シテサウ云フ警察ノ手ヲ藉リタ次第
デハ決シテナイノアリマス、何モ別段ニサウ云フ官權ヲ藉
リナケレバ、出來ナイモノアリマス、決シテ私ハサウ
云フヤウナ、政府ノ干渉ヤ何カモ受ケテ出テ來タモノアハ
リマセヌ〔ヒヤ——」拍手〕サウ云フ譯デアリマスカラ、一應辯
明致シマス

在外朝鮮人ノ取締並朝鮮統治ニ關スル質問
ノ答辯ニ對スル山道襄一君ノ意見
〔山道襄一君登壇〕

○山道襄一君 私ハ在外朝鮮人ノ取締並ニ朝鮮統治ニ
關シマスル質問書ヲ提出致シマスルコト二回アリマス、二
回ニ甚ダ不深切ヲ極メシタル誠意ナキ答辯書ヲ得タコト
ヲ、私ノ爲メテナク國家ノ爲メニ甚ダ遺憾ニ感ズルノアリ
マス、今日ハ餘程時間も經過致シテ居リマシテ、皆サン方ハ
定メシ御迷惑ノコト、御察シ致シテ居リマスルレドモ、此
朝鮮問題ハ今日ノ時局ニ取りマシテハ、極メテ重大ナル事
デアリ、且ツ帝國ノ爲メニハ非常ナル大問題デアルノデス、
カス、其等ノ關係上、比較的町田君ハ多數ノ點ヲ得テ居ラ
シ度毎ニ吾ミガ持出シテ、多少ノ出費ハ自ラ支出シテ助ケタ
レタノアリマス、當リ前ノ人ナラバ、決シテ憲政會ノ方ニガ
人デゴザイマス、一方ハ大金ノ御不自由ノナイ方デアリマス
セヌ〔拍手起ル〕「ノウ——」ト呼フ者アリ〕ノウ——ト言フ御
方ハ何ヲ以テ言ハレルカ知リマセヌガ、私ハ標準トシテ山本
郡ニ二十六箇町村アリマスルガ、其中三箇村ハ組合役場
ニナシテ居リマシテ、詰リ二十三人町村長ガアリマス〔ヒヤ
ヒヤ〕其町村長ガ二十三人ノ内十五人モアル以上ハ、町村
ニ地盤ガ無クテ、政友會ノ町村長ガ舉テ居ラメセウカ、又
郡會ハ三十二人ノ内十八人ノ政友會ノ同志ガアッテ、ソレ
ガ地盤ガ無クテ舉テ居ラレマセウカ、此前ニ高橋君ト町田
君トノ選舉ノ際ニ、憲政會ノ〔干渉ノ説明ヲシ給ヘ〕ト呼フ
者アリ〕ソレヲ比較シテ言フノアス、ソコテノレガ詰リ地盤ト
云フモノガサウ云フ六分ニモ七分ニモ分テ居ルモノガ、何ノ
爲メニ警察ヤ其他ノ手ヲ借りナケレバ、當選ガ出來ナイト云
フコトガアリマセウカ、〔要點ヲ述ヘ給ヘ〕ト呼フ者アリ〕要點
ヲ述ヘテ居ルノアリ、サウ云フヤウナ事ヲ以テ、地盤が分リ
切タ四分六分以上七分ニモナシテ居ル、ソレニ向テ官權ヲ
藉リナケレバ、當選ガ出來ナイモノ、如ク言ハレルノハ、甚ダ
貴方ガタノ見解ガ違テ居ルノアリマス〔ソレガ辯明ニナ
ルカ〕ト呼フ者アリ〕決シテサウ云フ警察ノ手ヲ藉リタ次第
デハ決シテナイノアリマス、何モ別段ニサウ云フ官權ヲ藉
リナケレバ、出來ナイモノアリマス、決シテ私ハサウ
云フヤウナ、政府ノ干渉ヤ何カモ受ケテ出テ來タモノアハ
リマセヌ〔ヒヤ——」拍手〕サウ云フ譯デアリマスカラ、一應辯
明致シマス

ルノハ、政府ハ斯ノ如キ事ヲ申シテ居ラル、ノデアリマス、滿洲方面ナドニ於ケル、或ハ西伯利方面ニ於ケル不逞鮮人ノ取締ニ就テ、何等怠慢モ無イ、過失モ無イト言シテ居ラレマス、斯様ナ答辯書ヲ得テ居リマスケレドモ、併シ私共ヨリスレバ大ナル過失大ナル怠慢ヲ認メザルヲ得ナイノアリマス、私ハ御迷惑デゴザイマセウケレドモ、茲ニ其事實ヲ陳述致サナケレバ、ナラヌ、昨年ノ琿春事件ノ如キ、或ハ問島事件ノ如キ、斯クノ如キ事ハ既ニ一昨年ヨリ政府ニ於テハ、承知シテ居ラレナケレバナラヌ事件デアリマス、一昨年ノ暮ニ朝鮮ノ李王家ノ一族デアル李壇殿下ヲ拐キ出シテ、安東縣マテ連行キマシタル事件ノ如キハ、既ニ一昨年八月二十三日ニ於テ、吉林ニ於テ滿洲及西伯利ニ於ケル所ノ不逞鮮人ノ首領ガ集會ヲ致シマシテ、或ハ問島ヨリ、或ハ柳河ヨリ、或ハ浦鹽ヨリ、或ハニコリスクヨリ、或ハ「イマン」ヨリ、或ハ齊多ヨリ、各方面ノ不逞鮮人カ會議ヲ開キマシタ結果、李壇殿下ヲ奪取シテ、而シテ此人ノ脱出ヲ圖シテ、此人ヲ首領ニ推スト云フコトハ、吾ニノ朝鮮獨立ノ目的ヲ達スル爲メニ、最モ必要ナ事デアルト云フ決議ノ一項ガアル、此事ハ陸軍大臣ハ確カ一昨年九月、乃至十月ノ頃ニ此報告ヲ得テ居ラレル筈デアリマス、而モ其決議ノ條項ハ澤山アリマス、露西亞ノ過激派ト提携スル事、朝鮮ニ決死團ヲ送ル事モ其之ツデアル、此決議ガ萬事ヲ語シテ居リマス、其決議ヲ實行スル爲メニ、吉林ヨリ鄭安立ナル者ガ京城ニ參クノデアリマス、一面ニ於テハ上海ヨリハ全協ナル者ガ京城ニ參クノデアリマス、茲ニ李壇殿下ヲ連レ出スト云フ事ニ就テ、鄭安立ト全協ト所謂上海派ト吉林派ノ間ニ於ケル暗鬭ヲ試ミマシタ結果、遂ニ某ナル警部ガ密偵トシテ使シテ居タ、然ルニ此鄭安立ガ斯告シタ爲メニ漸ク事件ガ總督府ニ判シタノアリマス、此鄭安立ニ對シ京城ノ北部警察ハ相當ナル金ヲ吳レテヤッテ、金メニ奪取ラレタノヲ無念ニ思フア、鄭安立ガ日本ノ警察ニ密告シテ居リナカラ、故ラ此鄭安立ヲ、餘裕ガアルニ拘ラズ捕縛スルコトシナカタ、吉林ニ逃ガシタ斯ノ如クニシテ此大犯罪人ヲ、私ヨリ申シマスレバ寧ロ之ヲ捕縛スルコトガ出来アリマセヌ、彼ヲ捕縛シタシナイト云フコトガ、彼ヲシテ法網ルニ拘ラズ、此者ヲ捕縛セズシテ逃シタト云フコトハ、當局ノ重大ナル責任デナケレバナラヌト信ズルノデアリマス、單ニ此鄭安立ヲ捕縛シナカタト云フダケロ以テ、吾ニハ言フノデハアリマセヌ、彼ヲ捕縛シタシナイト云フコトガ、彼ヲシテ法網ヨリ免レシメ、日本ノ官憲ノ手ヨリ逃レシメタト云フコトハ、是ハ總テ滿洲、或ハ西伯利、上海ニ居リマスル不逞鮮人達ガ或ル方法ニ依ルナラバ、日本官憲與ミシ易シトシテ、彼等ハ益、陰謀ノ鋒ヲ差向ケルノデアリマス、而モ琿春事件或ハ問

島事件三對シテ、私ハ茲ニ時間ガゴザイメセヌカラ極ク僅カニ申上ダマス——私ノ力ニ依テ調査シ得タ其調査ノ範圍ニ於キマシテ、私ノ極ク微力テ調査シタ範圍ニ於キマシテモレバ、ドレ程ノ彼等ガ不穏ノ行爲ヲ執リツ、アルト云フコトハ、明瞭ニ分ンテ居ラナケレバナラヌ筈デアル、今其ノ一二ノ實例ヲ申上ダマスレバ、御承知ノ西伯利ニ於ケル所ノ不逞鮮人ノ巣窟トモ申シマシテ宣シイ、浦鹽ニ近イ所ノ新韓村、其新韓村ニ居リマスル金河吉ナル者ダ、昨年二月ノ二十日米國ノ軍隊ヨリ、九連發拳銃五百挺ト彈藥及爆彈五百箇、其中二百挺ダケハ青年ニ分ニテヤニテ居ル、三月七日ニハ露國式歩兵銃三百挺露國兵ノ警護ニ依テ——過激派ノ警護ニ依テ新韓村ニ持込ンデ居ルノデアリマス、更ニ左記ノ武器ヲ新韓村鮮人ガ購入シテ、自動車ヲ運ンデ居ル、其左記ト云フノハ第一回「ブローニング」銃百二十挺代價百五十万留、第二回西班牙式連發銃三百五十挺代價二百五十万留ニアリマス、無線電信ノ購入モ其當時彼等ガ交渉シテ居タノデアリマス、更ニ又第二ノ尼港事件ダ起ルデアラウト言テ、昨年御同様ガ非常ナル心配致シマシヤ、又二月ニハ浦潮ノ「モルスカヤ」街二十番館ノ「ブリヤシス」カラ左記ノ武器ヲ新韓村鮮人ガ購入シテ、自動車ヲ運ンデ居ル、其左記ト云フノハ第一回「ブローニング」銃百二十挺代價百五十万留、第二回西班牙式連發銃三百五十挺代價二百五十万留ニアリマス、蘇城ノ東方四里許リノ所ニ住居シテ居リマシタ朴西利、韓昌傑等ガ露西亞人ヲ介シテ「チエック」軍カラ小銃千五百挺ト爆弾トヲ購入シテ居リマス、又「シロトワ」革命軍カラ、小銃百挺及弾薬ノ購入ヲ致シテ居リマス、間島ノ二道溝ノ許在明ハ、三月上旬ニ新韓村ニテ露西亞人ヲ介シテ、小銃五百挺、爆弾六千拳銃四百三十挺、機関銃二門、又弾薬ナドヲ購入致シテ居リマス、更ニ又七八月頃ニ浦鹽斯德附近ノ朝鮮人ハ、露西亞軍用速射砲二門ノ購入ヲ致シテ居リマス、又東寧及其對岸ノ露西亞領「ウサホー」ノ朝鮮人ハ、露西亞人ノ世話ニ依テ小銃九十二弾薬一万五千ヲ購入シニ一月六日ニ之ヲ「西間島ニ輸途中馬賊ニ掠奪セラレマシタ、是ハ私ノ極ク足ラナイ所ノ調査ニアッテ、私ノ手ニ入ラダケモ斯様ニ在外ノ不逞鮮人ハ、昨年春カラ夏ニ掛ケテ用意ヲ致シテ居リマシタ、是等ノ用意ハ政府ニハ尙ホ一層明瞭ニ分ニテ居ルベキ筈デアリマス、彼ノ間島ナリ西伯利ニ居リマス朝鮮人、何ノ必要ガアッテ斯様ナ武器ヲ購入致シタノアリマシヤウカ、彼等カ之ヲ使用致シマス所ノ目的ハ言ハズシテ明白デアリマス、而モ政府ハ之ニ對シテ、如何ナル取締方法ヲ講ゼラレテ居リマシタカ、之ニ對シテ如何ナル手段ヲ講ジ如何ナル對策ヲサレテ居リマシタカ、私ノ質問ニ

對スル政府ノ御答辯ニ依リマスレバ、之ニ對シテハ相當ナル手段ヲ執ツタ、殊ニ支那政府ニ向テ其取締ヲ要求致シテ居ルト言シテ居ラレルノアリマスケレドモ、張作霖ニ信賴シ何か出來マスカ、東山省ニ二百万モ朝鮮人ガ居ルアリマセウ、何デ張作霖グ其根據地ニ於テ大勢力ヲ持テ居ル所ニ二百万ノ朝鮮人ノ反感ヲ買フマデモ日本ノ要求ニ應ジマセウ、若シ彼ガ此ノ二百万ノ朝鮮人ノ反感ヲ買ヒマスレバ、彼ハ斷ジテ現在ノ勢力ヲ維持スルコトハ出來ナイソレ故ニ張作霖自身ノ立場カラ申シマシテ、此者ガ我ガ政府ノ一言ノ依賴ニ依リテ、二百万人々ノ朝鮮人ヲ向フ廻ハスヤウナコトヲシマセウカ、取締ヲシナイト云フコトハ明白アル、然ルニ我ガ政府ハ之ニ對シテ、張作霖ニ依賴シテ居ル爲メニ安心シテ居ルト云フノアリマスカラ、是ガ即チ大ナル失策ヲ來シタ本デアリマス、殊ニ間島事件ノ起ル前昨年九月十二日、其頃非常ナル大部隊ノ不逞鮮人、及過激派及馬賊ノ一團が押寄セテ來ルト云フコトガ分ダニモ拘ラズ、政府ハ之ニ對シテ如何ナル態度ヲ執ダカト云フト、僅カ二十一名ノ警察官ト、十名ノ軍人ヲ御役目ニ出シタダケデ、其他ハ是等大部隊ノ襲來ニ對スル方策ヲ講ジテ居ラナイ、之ヲ講ジテ居ラナイ爲メニ遂ニ間島事件ノ如キ、或ハ珲春事件ノ如キ大事變ヲ惹起シ、急遽大軍ヲ出サナケレバナラヌト云フコトニナリ、之ガ爲メニ支那政府トノ間ニ種々面倒ナル交渉問題ヲ惹起シ、更ニ其餘沫トシテ議會ニ於テモ段々質問ニモナシテ居リマスル、水町大佐ノ聲明ナルアノ大失態ヲ演ジタデハアリマセヌカ、水町大佐ガ宣教師ニ與ヘタ所ノ聲明ニ依ルト、明カニ承認セラレタ、如何ナル事ヲ承認シタカト云ハバ、良民ヲ殺シテ居ルト云フコトヲ承認サレテ居ル、無辜ノ良民ガ住居ヲ致シテ居ル建物ヲ燒拂イタト云フコトヲ承認セラレテ居ル、公ノ文書ニハナツテ居リマセヌガ、尙ホ陸軍方面ニ於テ言シテ居ル所ヲ聞キマスレバ、水町大佐カ何故ニ良民ヲ殺シタカト云ヘバ、兵營ヲ移サナケレバナラヌ、駐屯軍ノ兵舎ヲ移ス時ノ邪魔ニナルカラ殺シタ、或ハ良民ガ入テ居タカ知ラス、或ハ無辜ノ民ノ家屋ヲ燒拂シタ云フコトハ、不穏ノ文書ガアタカラ其家ヲ燒拂シタ云コトデアリマス、斯様ナ事ヲ以テ果シテ之ガ水町大佐個人ノ聲明ト致シマシテモ、此水町大佐其人ハ政府ヨリ特派セラレタ人デアル、陸軍省ヨリ特派セラレタ人デアル、斯ノ如キ人ガ斯様ナ聲明ヲ致シマスレバ、之ヲ以テ個人ノ資格ヲ以テ聲明シタト云シテ、其場ヲ遁レルコトハ出來マセヌ、現ニ一月五日デゴザイマス、我當局者ハ此事件ハ無事ニ外國ノ諒解ヲ得タト言ハレテ居リマスガ、確カ一月八日ニハ英國大使ガ外務省三抗議ヲ申込ンデ居

リマス、更ニ十日或ハ十一日ニハ、陸軍大臣ト外務大臣ト
ハ、和蘭公使館ニ於ケル宴會ノ席上ニ於テ種々ナル打合ヲ
セラレ、而モ十二日ニハ陸軍大臣ノ代理トシテ、秦中佐ヲ
遣ハシテ外務省ニ交渉セシメタ、私ハ此事ニ就テ特ニ皆サ
ント共ニ國家ノ爲メニ聽イテ置カナケレバナラヌコトハ、一
昨年ノ春朝鮮ノ大事件、所謂水原事件アリマス、二十何
名ノ朝鮮人ヲ教會堂ノ中ニ入レテ、火ヲ放チテ教會堂ト共
ニ焼イテシマダ、其當時亞米利加ノ政府カラモ此事件ニ
對シテ、若シ日本政府ガ此教會堂ニ朝鮮人ヲ入レテ燒イ
タ、其責任者ヲ早ク處分致シサヘスレバ、是ハ公ノ問題ニハ
致サナイト言ニテ、日本政府ニ忠告シテ吳レタニモ拘ラズ、陸
軍省ト外務省トノ間ニ於テ、丁度今回ノ間島事件ノ如ク
意見ヲ異ニシテ遂巡致シマシタ結果、米國政府モ押ヘ切レ
ズ、此事件ノ顛末ガ世界中ニ宣傳セラマシテ、取返シノ付
カナイコトニナリ、遂ニ憲兵隊長及其副官並ニ守備隊及其
副官ヲ處分シタノミラズ、世界中カラ日本ニ對スル誤解
ヲ招致シタト云フコトハ、詰リ陸軍省ト外務省トノ意見ガ
相違シ、政府内ニ意見ノ杆格ガアル爲メニ、折角事無キニ
終ルベキモノガ世界ニ公表セラレ、日本帝國ノ爲メニ非常
ナル不利益ヲ醸シタノデアル、殊ニ今回ノ事件ノ如キハ、世
界ニ之ヲ明白ニ率直ニ公表シタナラバ、サウ大シタ問題ヲ惹
起サズニ済ンダニ拘ラズ、陸軍省ト外務省トノ間ニ意見ヲ
異ニシテ空シク時日ヲ費シタ爲メニ、帝國ノ爲メニ不利益
ナル誤解ガ世界ニ傳ヘラレテ居ルノデアリマス、何故ニ斯様
ナ事件ニ對シテ有耶無耶ノ中ニ葬リ去ラントスルクト云フ
コトヲ、帝國ノ爲メニ惜ムノデアリマス、更ニ又私ガ質問致
シマシタ昨年ノ春ノ尼港事件ニ對シテモ誠意ナキ答辯ガア
ル、彼ノ尼港ニ在住シテ居リマシタ五百名乃至至千人ノ朝鮮
人ニ對シテ、政府ハ如何ナル取締シテ居リマシタカ、ソレヲ
私ハ伺ヒタインデアリマス、尼港事件ニ對シテ私ノ調査シタ
結果ハ、尼港ニ於テ日本ノ軍人及男ノ中ノ壯年者ヲ慘殺シ
タノハ、多クハ露西亞ノ共產黨員ノ爲メニサレダノアリマ
スガ、小兒デアルトカ婦人ナドガ虐殺セラレマシタノハ、支那
人ト朝鮮人ノ手ニ依クテサレタノデアリマス、此朝鮮人ハ既
ニ大正七年四月、支那人ト露西亞人ト一縁ニナッテ尼港ノ
市中ヲ練歩イテ、資本家ニ對シテ威運動ヲ致シタ、而モ
是等ハ表面ノ口實ア、此朝鮮人ハ尼港ニ於テ既ニ大正七
年四月朝鮮獨立演説ヲ致シ、支那人露西亞人等之ニ加ッ
テ元威運動ヲシタト云フコトハ、諸君モ御存ジテアリマセウ、
タノアリマス、朝鮮ガ白衛軍ナルモノヲ組織致シ、六十名

述記錄第十七號 在外朝鮮人ノ取締並朝鮮統治二關ル質之ニ加入致シ、白衛軍ノ組織ガ出來タノデアリマス、其時彼等ハ日本軍ガ尼港ヲ占領致シマシタ時、過激派カラ沒收致シテアリマスル武器ノ交付ヲ要求シテ來タノデアリス、當時ノ守備隊長ニアリマシタル小林少佐——小林少佐ハ斷乎トシテ、此銃器ノ引渡ヲ拒絕シタノデアリマス、然ルニ何時ノ間ニカ軍司令官ノ手ヲ經テ、——内閣ノ承認ヲ經タカ、軍司令官ガ獨斷デヤラレタカ、ソノ所ハ私ハ明言スル材料ヲ有シマセヌガ、私ハ政府カラ命令ガ行ダト承ズテ居リマス、斯ノ如クニシテ小林少佐ガ拒绝シタニモ拘ラズ、故ラニ百挺ノ武器ヲ、此白衛團ニ渡スコトノ命令ヲ致シテ居ルノデアリマス、此武器ヲ以テ、白衛軍ノ朝鮮人ガ尼港ニ居リマシタル所ノ日本人虐殺ノ一幕ヲ演シタノデアリマス、然ルニ此事實ハ私ハ活キタル證人ヲ何時デモ出スコトガ出来ルデアル、尼港ニ當時在住シテ居リマシタ者ハ、昨年一月カラ五月二十四日マデニ皆ナ殺サレマシタガ、當時日本ニ歸ツテ居ツテ現在生残ツテ居ル所ノ活キタル證人ハ、何時デモ此武器ノ引渡ヲ致シタ事ニ就テノ證人トシテ出スコトニ躊躇致シマセヌ、然ルニ政府ノ答辯書ヲ見てスレバ、本項ニ記載スル所ノ事實ヲ認メズト云フ實ニ不深切ナル答辯、亂暴ナル答辯デアリマス、何故ニ斯様ナ答辯ヨシナケレハナラヌカ疑ハザルヨ得ナイ、尼港事件ニ就キマシテハ今更繰返シテ申シハ致シマセヌガ、何故ニ政府ハ此明々白々ナル所ノ斯様ナ事實ヲ認メナイト稱シテ、我ニヲ瞞著シ去ランスルノデアルカ、斯ノ如キハ誠ニ政治ニ對シテ不深切ナ、一般國民ニ對シテ甚ダンシク誠意ナキ遠方デハゴザイマセヌカ(拍手起ル)次ニ此安東縣ニ居住致シテ居タル英國人「シヨウ」ナル者ヲ、昨年ノ七月朝鮮總督府ガ捕縛ヲ致シタ事件デアリマスガ、此者ヲ捕縛致シタ其犯罪ハ何デアルカ、又其顛末ヲ明ニシテ貲ヒタイト云フ質問ヲ致シタ、然ルニ政府ハ之ニ何ト答ヘテ居ルカト云フニ、安東縣ニ居ル英國人「シヨウ」事件ハ目下審理中ニテ、事實ノ眞相ヲ明言スルコトハ出來ナイト突放シテ居ルノデアル、併ナカラ諸君「シヨウ」事件ハ重大ナル問題デアリマス、帝國政府ハ昨年ノ夏頃ニ於テ、奉天ニ於ケル所ノ英國ノ總領事ニ對シテ、此英國人「シヨウ」ノ引渡ノ要求ニ就テ交渉ヲサレテ居ルデハアリマセヌカ、而モ此「シヨウ」ナル者ガ何故ニ捕縛サレタノデアルカト云フコトハ、一年ノ暮カラ昨年ノ春ニ掛ケテ、議會ノ問題ニナニテ居リマシタ、彼ノ呂運亨一味ノ者ガ、所謂朝鮮ノ獨立ノ目的ヲ達シマスル爲メ政治ノ變革ヲ企圖致シマシテ、安東縣ニ交通部ナルモノヲ設置スルコトニ致シ、此呂運亨一味ノ者ガ相寄リマシテ、安東縣ニ交通部ナルモノヲ設立スル計畫ヲ立て、其交通部ハ即チ「シヨウ」ノ宅ノ怡隆洋行ノ中に其事務所ヲ置カレテアタカラデハナイカ、「シヨウ」ハ自己ガ所有シテ

内ノ客辯ニ對アル山道襄一君ノ意見三六八
居リマスル所ノ汽船ヲ以テ、上海安東縣ノ間ヲ往復スル不
逞鮮人ノ獨立運動ヲ援助致シテ居タルデアル、之カ爲ニ
「ショウ」ハ捕縛セラレタノデアリマス、而モ是ニ於テ私ノ甚ダ
疑ハザルヲ得ヌ事ハ、最近ノ報告ニ依リマスレバ——私ノ最
近ニ得タ報告ニ依リマスレバ、既ニ或ハ今日ハ出發致シテ居
ルカ知レマセヌガ、此英人「ショウ」ハ京城ニ在リマスル住
所ヲ引拂ヒ、今當ニ審理中デアルカラ、答辯ヲ出來ヌト言ハ
レタ英人「ショウ」ハ、英本國ニ向テ——彼ノ妻ハ日本入デ
アリマスガ、其妻ヲ伴レテ英本國ニ向テ旅行スルト云フコ
トニナッテ居リマス、勿論旅行スルト云フノハモンノ名目デゴ
ザイマセウガ、英國ニ向テ立去ラントスル、或ハ既ニ立去テ
居ルコト、考ヘマス、即チ英國人デアレバ、斯様ナ事件ニ就キ
彼が本國ニ立去ル、保釋中ニ英國ニ旅行スルコトヲ許シナ
ガラ、是等ト同ジヤウナ犯罪者デアリマスル所ノ朝鮮人ヲ、
如何ニ取扱シテ居ルノデアルカト云ハベ、中ニ嚴格デアル、此
安東縣ノ交通部ノ長ヲ致シテ居リマシタル洪成益ナル者ニ
對シテハ、既ニ去年一月二十三日ニ捕縛致シタノデアリマ
ス、此交通部ヲ造りマシタ趣意ノ文書ハ、私唯今私ノ机上
ニ置イテ居リマシテ、此處ニ持シテ居リマセヌカラ讀上ゲル譯
ニハ參リマセヌガ、此交通部ノ設立ニ對シテ、所謂政治ノ變
革ヲ目的ト致シマシタル所ノ此陰謀ノ計畫ヲ立テルモノデ
アリマシテ、其張本人ハ上海三居リマスル呂運亨ヲ首メトシ
テ八名程ノ人間デアリマス、其立テタ所ノ人間ハ、洪成益以
下七名許リハ捕縛セラレテ、既ニ牢屋ニ收監サレテ居リマ
ス、唯ダ一人英國人デアリマス所ノ「ショウ」ノミハ既ニ保釋
セラレ、而モ英本國ニ向シテ旅行スルコトヲ許サレテ居ルト
云フコトハ、其結果ガ如何ニ相成ルカト云ハバ、日本ノ總督
ハ、日本ノ政府ハ一視同仁ノ政治ヲスルト稱シ、法ノ權威
ヲ維持スルト稱シナガラ、外國人ニ對シテハ頭ガ上ラナイ、外
國人ニ賴リサヘスレバ、如何ナル事ヲ爲シテモ差支ナイト云
フ觀念ヲ朝鮮人ニ與ヘルノデアリマス、而モ一視同仁ノ聲
明ハ殆ド無意義ナル事ニ相成シテ、一視同仁ト云フ事が果
シテ何ヲ意味サレルカ、唯ダ言葉ノ上ノ一視同仁ニアテ、事
實ニ於テハ決シテ日本ノ政府ハ一視同仁ノ政治ヲ致スノ
デハナイ、是ガ帝國ノ仁慈ナル陛下ノ大御心ニ依シナ行フ
朝鮮統治ニ對スル根本ヲ、朝鮮人ヲシテ疑ハシムルニ至ル
ノアハゴザイマセヌカ、殊ニ此呂運亨ノ如キハ諸君モ御承知
ノ事デアルカラ、重ネテ茲ニ繰返シテハ致シマセヌガ、彼ハ上
ニ立テ居ル此救國冒險團ナルモノハ、爆裂彈ノ製造ヲスル
コトヲ研究シ、而シテ其爆裂彈ヲ行使致シテ、朝鮮獨立ノ目
海ニ於ケル所ノ救國冒險團ノ團長デアル、上海ニ於ケル不

のヲ達シヤウトスルノガ此救國冒險團ノ趣旨デアリマス、呂運亨ハ此救國冒險團ノ團長デアリマス、彼ハ發頭人デアリマス、斯様ナ事ヲ致シテ居ル所ノ呂運亨ハ東京ノ眞中ニ來リ、政府ノ大官ノ招待ヲ受ケ、公然ト政府ノ力ニ依テ、政府ノ手ニ依テ新聞社通信社ヲ集メ、堂々ト演説ヲ試ミ、而モ禁苑ノ拜觀マテ差許サレタ、然ルニ一面ニ於テ洪盛益ナル者ハ捕縛セラレ、其手先タル者モ捕縛セラレ、殊ニ大邱ニ於テ起リマシタ事件ハ、青年外交團、愛國婦人會等ノ青年男女數十名一昨年ノ暮年、牢屋ノ中ニ打込マレ、面モ重大ナル犯罪トシテ之ヲ取扱ハレテ居ルノテアリマスガ、張本人ノ呂ハ何等ノ事モ無イトハ不思議デハナイカ、政府ノセラレル所ハ、如何ニモ一視同仁デアル法ノ權威ヲ有ラシムルヤウニ努メテ居ルヤウニ見エマスケレドモ、事實ニ於テハニ様十事ヲシテ、前後撞著シ、人ニ依テ法ノ用井方ヲ二三ニスルト云フヤウナコトヲ致シテ居ルガ爲メニ、其爲メニ、益朝鮮人ヲシテ思想ノ惡化ヲ來サシメ、今日如何トモスルコトノ出來ナイヤウナコトニナシテ居ル、而モ昨年ノ二月議會ニ於ケル原總理大臣ノ御演説ヲ聽キマスレバ、呂運亨ハ上海ニ歸タ後ト云フモノハ、非常ノ善人トナリ、前ノ排日方針ヲ改メテ、或ル意味ニ於テハ日本ニ向シテ、非常ニ同情ヲ表スル如キ態度ヲ持テ居ル、彼ハ他ニ不心得ノ者がアレバ、之ヲ説諭致シ、不都合ノ行爲ナキヤウニ説諭ヲ致シテ居ルト云フ、御演説ヲ致サレテ居ル、然ルニ確カ三月七日ノ北支那日々新聞ハ、呂運亨ノ歸タ後ノ消息ニ就テ、安昌浩ノ談話ヲ掲載シテ居リマスガ、ソレハ總理大臣ノ言タコトヲ明カニ裏切シテ居リマス、ノミナラズ、昨年九月ニ於テ呂運亨ハ、御承知ノ如ク上海ニ於ケル不逞鮮人ヲ代表シマシテ、亞米利加議員團ガ上海ニ來タ時ニ、亞米利加議員團ヲ訪問シ、上海ニ居リマスル所ノ朝鮮人ノ婦人會ナルモノ造リマシタ大極旗、即チ朝鮮ノ國旗其旗ヲ議員團ニ贈シテ、之ニ依テ朝鮮ノ獨立ノ援助ヲ頼ンデ居ルノデアル、而モ彼ハ昨年西伯利ノチタヲ訪問シ、露西亞ノ過激派ト交渉ヲ遂ゲテ居ル、更ニ昨年ノ暮カラ本年ニ掛ケテ、廣東方面ニ出没シ、本年一月三日ノ廣東ヨリ來タ電報、及一月六日九日ノ兩度香港ヨリ來タ電報ニ依レバ、六時間ニ瓦ル所ノ慷慨悲憤ノ演説ヲ致シ、朝鮮獨立ノ爲メニ非常ナル運動ヲ試ミテ居ルノテアリマス、斯ノ如キ人間ヲ今日ニ至リマスルマデ、依然トシテ放任セラレ、殊ニ昨年ノ如キハ東京ニ參テ非常ニ優待セラレ、而シテ其指揮ヲ受ケ、教唆セラレ、煽動セラレマシタ一部ノ人間ハ、重キヲ刑罰ニ問ハレテ居ルト云フコトハ、是ハ果シテ朝鮮統治ノ目的ヲ達シ、在外不逞鮮人ヲ取締ル上ニ、權威アル所ノ遣方アリマスルヤ否ヤ、疑ハザルヲ得ナイノテアリマス、

(拍手起立)更ニ私ハ先刻申シマシタ如ク、他ノ機会ヲ得マスルガ故ニ多ク申上シマセヌケレドモ、爰ニ一言ダク私ノ附加ヘテ置キタイ事ハ、今日ノ現在ノ状態ニ於テ朝鮮ノ統治ヲ完成致シマヌニハ、何ト致シテモ、朝鮮人ノ教育ノ根本方針ヲ定メナケレバナラヌノアリマス、果シテ現内閣乃至朝鮮總督府ハ、此朝鮮人ノ教育ニ對シテ、確乎タル所ノ根本方針ヲ持ツテ居ラマスルカ否ヤ、之ヲ非常ニ疑ハザルヲ得ヌノアリマス、百ノ法令ヲ作り、千ノ制度ヲ變更セラレニシテモ、此教育ノ根本方針ガ定ラザル限りハ、斷ジテ統治ノ目的ヲ達スルコトハ出來ナイノアリマス、形式ニ因ハレ、末葉更致ストカ、或ハ三面、所謂三村ニ一校ヲ置ク方針デ校舎ノ増設ヲスルトカ、或ハ地理歴史ナドヲ是迄ハ日本ノ讀方ノ一二ハ加ヘテ居タモノヲ、今回ハ改メテ獨立ノ課目トスルトカ云フヤウナコトヲ致シタトテ、教育ノ目的ハ達セラレナイ、斯ノ如キハ抑未デアリマス、朝鮮人ノ教育ノ根本方針ヲセラレル所ニ依レバ、朝鮮人ノ精神教育ニ對シテハ、相當ノニスルカ、若シ朝鮮人ノ同化ノ方針ヲ以テ朝鮮人ヲ統治スルナルバ、其朝鮮人ノ同化ニ對スル教育方針ハ如何スルデアルカ、私ノ第二回ノ質問ニ對シテ政府ノ御答辯ヲ如何ニスルカ、若シ朝鮮人ノ精神教育ニ對シテハ、相當ノニスルカ、此所ニハ略スルコトニ致シマスルケレドモ、根本ニ關係ハ無イ、此一ツノ目的ヲ達スル確乎タル方針ガ建立シテ居ラケレバ、如何ヤウナ事ヲセラレマシテモ、朝鮮ノ統治ハ完成スルコトハ出來ナイノアリマス、而モ施政ノ方針ニ就キマシテモ多大ナ疑ヲ有セザルヲ得ナイ、先刻申シマシタシタ如ク、一視同仁ヲ以テ標準トセラレテ居ルトアリマスガ、ノデアリマス、政治ハ國民ノ幸福、國民ノ利益ヲ增進スル實體デアラネバナラヌ、然ルニ今日ノ朝鮮統治ノ有様ヲ見マスムス、殊ニ驚クベキ事ハ、朝鮮ノ統治ヲ致スノニ、昨年ノ頃ヨリ何カ更ニ方針ヲ改メテ、文化政治ヲ施ク如キコトヲ度ミアル、而モ事實ニ於テハ何等ノ一視同仁、差別撤廢ヲ發揮シテ居ラナイ、其施設ノ見ルベキモノガ無イノハ遺憾ニ思ヒマス、殊ニ驚クベキ事ハ、朝鮮ノ統治ヲ致スノニ、昨年ノ頃ヨリ御聲明ニナリマス、然ルニ此新總督ノ政治以來、昨年ノ九月新政治ニ入シテ以來、警備機關ヲ非常ニ增大セラレタ、是迄ニ警備ニ對シテ、幾多非難ノアリマシタ憲兵政治ニ對シ

テ非難ガアリマシタガ、今日ニ於テハ寺内伯爵ノ總督ヲセラ
レマシタ當時ノ警備機關ニ對シテ、殆ド人員カラ云ヘバ倍
數以上ニ達シテ居リマス、警察官ダケデモ今日二万幾千、
國境方面ニ於テハ憲兵ガ居ル、而モ非常ニ軍隊ヲ增派シテ
居ルノミナラズ、今日又騎兵ノ一箇旅團ノ北鮮方面ニ向ケ
ナケレバナラストニコトニナッテ居ル、恐らくハ西伯利ノ徹
兵ヲスルナラバ、其兵ノ大部分ハ、朝鮮國境ニ残リハシナイ
カトニ云フコトヲ、心配スルノアリマス、實ニ一面ニ於テ文化
政治ヲ施クト聲明シ、文化政治ガ警察官ヲ二倍ニモ三倍ニ
モシナケレバ行ハレヌトニヤウナコトデ、何ノ文化政治ニア
リマスカ、斯ノ如キ滑稽ガ世界何レノ處ニアリマスカ、(簡
單「下呼フ者アリ)私ハ意見ノ陳述ヲ許サレテ居リマス、私共
ハ之ニ對シテ非常ナ疑ヲ抱カザルヲ得ナイノデアル、最後ニ
私ハ統治ノ根本ニ就テ、ツノ大キナル疑惑アリマス、ソレ
ハ朝鮮ノ統治、産業方針ニ對シテ、此内閣ハ如何ナル方針
ヲ持テ居ラレルカ疑ハザルヲ得ナイ、昨年ノ夏議會ニ於テ
貴族院ニ於テ、唯一ツノ否決セラレマシタモノハ言ノマデモ
ナク農事改良株式會社ノ費用デアリマス之ヲ政府ハ今日
議會ニ出ス意思アルコトヲ、答辯書ニ於テ明白ニ言テ居ラ
ル、而モ政府ハ之ヲ言ハル、ニ當テ、朝鮮人多數ノ希望
デアルカラ乙ヲ出シタ、又將來提案スルト言ハル、ガ、驚入ツ
タル事デアル、私ハ寧ロ是ハ胡麻化シト謂ハナケレバナラズ、
何故ナラバ六十幾名ノ發起人、是ハ何者ガ發起人ヲ定メタ
ノデアリマスカ、朝鮮各道ニ亘テ、一人或ハ三人ノ發起人
ヲ定メラレタ、何デ定メラレタカト云フト、此定メ方ハ各道廳
ノ長官ガ人選ヲシテ、而モ此會社ノ内容ガ何物デアルカ知ラ
ズニ、發起人ハ記名調印シタノデアル、若シ「ノウ」ト言ハル、
ナラバ、私ハイツ何時デモ其人間ヲ舉グマス、其朝鮮人ソレ自
身カ當時私ニ言シテ居ル、判ヲ捺ササレタ朝鮮人ソレ自身が
言シテ居ル、ドウ云フ會社デアルカ知ラヌカ、長官ガ判ヲ捺セト
ナラバ、政治ヲ行シテ捺シタ言フテ居ル、官ノ干涉ニ依シテ、官ノ人選ニ
依シテ、官分指定シテ作リ上ゲテ判ヲ捺サセタモノ以テ、民意
デアルト云フコトガ何レノ所ニアリマスカ、(拍手起ル)斯様ナ民意
意ト云フコトガ世界何レノ處ニ在リマスカ、斯様ナ事ヲ申シ
マスカラ、政治ヲ行シテ種々ナ間違タ事ガ出來ルノアリマス、
レ、特ニ日本人ノ或ル一部ノ者ガ土地ノ拂下ヲ受ケ、或ヘ貸
贈賄ガ行ハレテ、今ノ荒無地ノ拂下、賣下、貸下、致シテ、現

ニ裁判事件ナドモ惹起シテ居ル、斯様ナ事ヲ致サレテ居ル、
朝鮮統治ニ對シテハ幾多ノ忌ムベキ事ガアリマシタガ、長谷
川總督ノ居ラレマシタ時迄ニハ、朝鮮ニ於ケル利權屋ナル
者ノ横行ニ對シテハ、相當ニ防ギ得テ居タノアリマス、然
ルニ所謂文化政治ガ布カレテ以來、朝鮮人ノ生活ノ安定
ヲ曾カシ、日本人ノ或ル一部ノ者ノ權利ヲ失ハシムヤウナ
コトガ出來マシタ、奇怪ナ文化政治アル、而モ此事ガ原因
シテ、朝鮮人ノ思想ノ惡化ト云フモノハ、單ニ政治上ノ目
的ニ非ズ、政治上ノ惡化ニ非ズ、所謂生活ノ根抵ヲ脅カサ
レルト云フコトカラ、朝鮮人ハ今日ニ於テ非常ニ獨立ノ事
ヲ叫ブヤウニナフタノアリマス、所謂人心ノ變動惡化ト云
フコトハ是レデアリマス、要スルニ此人心ノ惡化、根本的ニ
喰入テ居ル所ノ弊害ヲ今日ニ於テ除去スルニ非ザレバ、朝
鮮ノ統治ハドレ程金ヲ出し、吾ミガ一視同仁、差別撤廢ヲ
唱ヘ善政ヲ施クトカ叫ンダ所ガ駄目デアル、所謂朝鮮ハ紛
糾ノ巷ニ彷徨ヒ、邊ニ大事態ヲ惹起シハセヌカ、甚ダ心外ニ
思フノアリマス、此事件ハ決シテ政黨派ニ關係シタモノ
デハアリマセヌ、重大ナル——帝國ガ百年ノ大計ヲ定メ、帝
國ノ國防ノ基礎、帝國ノ東洋平和ヲ確立スル上ニ於テ重
大ナル關係デアリマスカラ、頗クハ諸君モ共ニ此内閣ニ向シテ
十分ナル聲明ト、眞面目ナ政治ヲ致スコトノ要求ヲ致サレ
ンコトヲ願ヒタイノアリマス

○副議長(柏谷義三君) 田中武雄君

(田中武雄君登壇、拍手起ル)

○田中武雄君 本員ハ去一月八日浦潮ニ於キマシテ、我
十一師團ノ歩哨ガ、米國軍艦「オルバニー」號ノ機關長「ラ
ングトン」大佐ニ對シマシテ、自分ノ任務ヲ正當ニ執行シタ
ルニ、憲兵隊ハ之ヲ有罪ト認メマシテ、軍法會議ニ附シタト
云フ報道ニ對スル所ノ意見ヲ陳述スル者デゴザイマス、所ガ
今日ハ陸軍大臣ガ之ニ就テノ一切ノ經過ヲ、議會ノ開會
ト共ニ御報告ニ相成ルト云フコトヲ聞イテ居リマシタガ、下
ウ云フ御都合カ、陸軍大臣ノ之ニ對スル御説明ガ無カタ
ノアリマス、私ハ更ニ懸見ノ陳述ヲせざルヲ得サルニ至タ
ノアゴザリマシタガ、唯今參リマシタル報道ニ依リマシテ、私
ガ是マデ確信ヲシテ居リマシタ如ク、總テ私ノ得マシタ報告
調査材料ニ依テ、何所マテモ此歩哨ハ無罪トナラナケレバ
ナラスト云フコトヲ確信致シテ居タノデゴザイマスガ、此確
信ノ通り、軍法會議ハ審議ノ結果此歩哨ニ無罪ノ宣告ヲ
致シマシタ(拍手起ル)此判決ニ依リマシテ、總テ私ノ考へ
テ居リマシタ所ノ正當トル解釋ハ、正當ニ解釋セラレタルコ
トヲ洵ニ満足致シマシテ、私ハ意見ノ陳述ヲ止メマス(拍手
起ル)

○副議長(柏谷義三君) 早川龍介君

米價調節ニ關スル質問ノ答辯ニ對スル早川龍介君ノ意見

(早川龍介君登壇、拍手起ル)

○早川龍介君 私ハ極メテ簡單ニ短クヤリマス、先刻一

十此處デ申シテ置キマシタ通り、私ノ質問ハ二月三日ニ出

シマシタ、其三日ニ出シマシタ質問ハ御手許ヘ廻シテ居リマ

スガ、尙ホ念ノ爲メニ一應讀シテ見マス、極ク半分許り讀ミ

マス(米價ノ急落スルヲ以テ農家ノ苦痛袖手スルニ忍ヒス

今ヤ農家ノ精算期タル陰曆年末ニ迫リ其ノ窮迫容易ナラ

ス政府ハ相當ノ施設ヲ爲シ救濟スルノ意アリヤ否ヤ(是ガ

私ノ質問致シマシタ要旨デゴザイマス、昨年來米價ノ激落

ニ就キマシテ、非常ニ各地方ノ農民ハ苦シニ居リ色ニノ說

ガアリマスガ、免ニ角賣止ラシテ、一切賣ラヌヤウニシロト云

フコトヲ同盟的ニ申合シタノモアリ、又種々ナル事ヲヤッテ

其農業者ノ運動ガ、非常ニ或方面カラハ非難ヲ受ケタコト

モ澤山アリマスケレドモ、是ハ要スルノニ總テノ物價ガ未ダ

低落ヲ致シマセヌノニ、單リ米價激落ヲ致シテ、サウシテ生

産ニ掛リマス所ノ經費ガ非常ニ多イノデ、差引勘定ガ合ハ

ヌ、故ニ沟ニ差迫テ居ルカラ、ドウゾ之ヲ助ケテ貰ヒタイ、ド

ウカ米價ヲ需要者ノ方ノ事マデハ考及ボサズニ、米價ガ騰

リマシタナラバ、農家ハ非常ニ樂ヲスルノデアラウカラ、之ヲ

救濟シテ吳レト云フコトヲ非常ニ各地方カラ追シテ參ッタ、

ソコデ此質問書ヲ出シマシタハ二月三日デアリマシテ、マ

ダ陰曆カラシマスト暫ク四五日——五六日ノ間ガアッタノデ

アル、故ニ此差迫テ居ル所ノ比ノ農民ヲドウ云フ風ニ助ケテ

御遣リニナルノカ、救濟ヲシテ御遣リニナラナケレバナラヌコ

トデハナイカ、ソレニ就テドウ云フ御考グアルカト云フコトヲ

聽イタノアリマス、然ルニ私ノ此質問ニ關シマシテハ政府

ハ「米穀ノ需要供給が均衡ヲ失シ爲メニ米價ノ甚シキ騰落

ヲ惹起スルコトハ農家經濟ニモ亦至大ノ影響ヲ及ホスヘシ、

仍テ政府ハ需給調節ノ目的ヲ以テニ關スル法案ヲ提出

セントス」ト云フノデアル、而シテ又茲ニ米穀法案ト申シマス

モノガ出テ參リマシタ、ソコデ農家ノ米穀ヲ調節スル、斯ウ

云フコトヲ詰リ政府ガヤラレルト云フノアルカ、昨年來農

家ガ困窮ラシ、私ノ主眼トシテ承リタイ政府ノ方法——至

急ニ救濟ノ方法ヲ講ジテ貰ヒタイト云フノハ、極ク差當タ

應急ノ手段デ何トカ始末ヲシテ貰ハネバ、農業者ハ非常ニ

迷惑ヲスル之ヲ警ヘテ申シマスレバ、非常ニ俄ニ腹痛カシテ

テ居リマシタ所ノ正當トル解釋ハ、正當ニ解釋セラレタルコ
トヲ洵ニ満足致シマシテ、私ハ意見ノ陳述ヲ止メマス(拍手
起ル)第一條 新規ナル工業的發明ヲ爲シタル者ハ其ノ發明
ニ付特許ヲ受クルコトヲ得

第一條 特許法改正法律案

第一 條款(政府提出)

○副議長(柏谷義三君) 御異議ガナケレバ、其通リニ取計
ヒマス、日程第一特許法改正法律案、日程第三實用新案
法改正法律案、日程第五意匠法改正法律案、日程第七
商標法改正法律案、日程第九辦理士法律案、以上五件ヲ
一括シテ第一讀會ヲ開キマス、山本農商務大臣

ウシテ是ハ當リ前ニ滋養的ノ方法ヲ執ラレルト云フコトデ
アリマス、全ク私ノ承リマシタ意味ト、此質問ニ對スル返事
トハ全ク相違シテ居ル譯アリマス、ソレ故ニ今ハ陰曆ノ年
末期ト申スモノハ既ニ過ギマシタケレドモ、併シ此急難ノ場
合ニ政府ハ救ヒ得ルコトガ出來ヌト云フコトハ、實際ノ上ニ
シマシタ所ヲ申出シタノデアルカラ、若クハソレ程
困窮デハナイモノ、無暗ニワイヤー言フテ政府ニ迫シテ來タ
ト政府ハ認メルカラ、之ヲ冷眼視シテ救ハナンダト云フノカ、
ソレ承リタイト云フ要旨ヲ申出シタノデアル(拍手)然ル
ニ政府ハ之ニ對シテハ、腹ノ痛イノハ其時ガ濟ンデシマツカ
ラ、詰リ滋養ノ成タケ健康ニナルヤウナ藥ヲヤルト云フヤウ
ナ意味ノ方面ニ轉ジタノデス、全ク是ハ非常ニ農民ガ困窮
シマシタ所ヲ救濟スルノ意思ナク、唯ダ其時ヲ過シテ傍観シ
テ、各方面ニ非常ニ多イノデ、差引勘定ガ合ハ
ヌ、故ニ沟ニ差迫テ居ルカラ、ドウゾ之ヲ助ケテ貰ヒタイ、ド
ウカ米價ヲ需要者ノ方ノ事マデハ考及ボサズニ、米價ガ騰
リマシタナラバ、農家ハ非常ニ樂ヲスルノデアラウカラ、之ヲ
救濟シテ吳レト云フコトヲ非常ニ各地方カラ追シテ參ッタ、
ソコデ此質問書ヲ出シマシタハ二月三日デアリマシテ、マ
ダ陰曆カラシマスト暫ク四五日——五六日ノ間ガアッタノデ
アル、故ニ此差迫テ居ル所ノ比ノ農民ヲドウ云フ風ニ助ケテ
御遣リニナルノカ、救濟ヲシテ御遣リニナラナケレバナラヌコ
トデハナイカ、ソレニ就テドウ云フ御考グアルカト云フコトヲ
聽イタノアリマス、然ルニ私ノ此質問ニ關シマシテハ政府
ハ「米穀ノ需要供給が均衡ヲ失シ爲メニ米價ノ甚シキ騰落
ヲ惹起スルコトハ農家經濟ニモ亦至大ノ影響ヲ及ホスヘシ、
仍テ政府ハ需給調節ノ目的ヲ以テニ關スル法案ヲ提出
セントス」ト云フノデアル、而シテ又茲ニ米穀法案ト申シマス
モノガ出テ參リマシタ、ソコデ農家ノ米穀ヲ調節スル、斯ウ
云フコトヲ詰リ政府ガヤラレルト云フノアルカ、昨年來農
家ガ困窮ラシ、私ノ主眼トシテ承リタイ政府ノ方法——至

第二條 特許権者又ハ特許出願者ハ其ノ發明ノ改良又ハ擴張ニ係ル新規ノ發明ニ付獨立ノ特許三代へ追加ノ特許ヲ受クルコトヲ得セス

第三條 左ニ掲クル發明ニ付テハ之ヲ特許セス
一 飲食物又ハ嗜好物

二 醫藥又ハ其ノ調合法

三 化學方法ニ依リ製造スヘキ物質

四 秩序若ハ風俗ヲ紊リ又ハ衛生ヲ害スルノ虞アルモノ

第四條 本法ニ於テ發明ノ新規ト稱スルハ發明カ左ノ各號ノ一二該當スルコトナキヲ謂フ

一 特許出願前帝國內ニ頒布セラレタル刊行物ニ容用井ラレタルモノ

二 特許出願前帝國內ニ頒布セラレタル刊行物ニ容易ニ實施スルコトヲ得ヘキ程度ニ於テ記載セラレタルモノ

第五條 特許ヲ受クルノ權利ヲ有スル者カ試驗ノ爲其ノ發明ヲ前條各號ノ一二該當スルニ至ラシメタルノ者ノ特許ヲ受クルノ權利ヲ冒認シタル者ノ爲シテタルモノナルニ因リ特許ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル場合ニ於テ其ノ日ヨリ六十日ヲ、

一 特許出願前帝國內ニ於テ公然知ラレ又ハ公然特許出願ノ時ニ於テ之ヲ爲シタルモノト看做ス但シ

用井ラレタルモノ

二 特許出願前帝國內ニ頒布セラレタル刊行物ニ容易ニ實施スルコトヲ得ヘキ程度ニ於テ記載セラレタ

ルモノ

三 試驗ノ爲其ノ發明ヲ前條各號ノ一二該當スルニ至ラシメタルノ者カ特許ヲ出願シタルトキハ其ノ者ノ特許ヲ受クルノ權利ヲ有スル者ノ意ニ反シテ其ノ者ノ發明カ前條各號ノ一二該當スルニ至ラシタル場合ニ於テ之ヲ爲シタルモノナルニ因リ其ノ特許ヲ無効トスル審決確定シ又

做ス

特許ヲ受クルノ權利ヲ有スル者ノ發明カ前條各號ノ一二該當スルニ至ラシタル場合ニ於テ之ヲ爲シタルモノナルニ因リ其ノ特許ヲ受クルノ權利ヲ冒認シタル者ノ爲シタルモノナルニ因リ特許ヲ受クルノ權利ヲ冒認シタル者ノ爲シタルモノナルニ因リ其ノ特許ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル場合ニ於テ其ノ日ヨリ六十日ヲ、

一 特許出願ノ時ニ於テ之ヲ爲シタルモノト看做ス但シ其ノ特許ヲ受クルノ權利ハ之ヲ移轉スルコトヲ

テ其ノ日ヨリ六十月以内ニ其ノ者カ特許ヲ出願シタルトキ亦前項ニ同シ

第六條 特許ヲ受クルノ權利ヲ有スル者カ政府ノ開設シ道府縣若ハ之ニ準スヘキモノノ開設シ若ハ政府ノ認可ヲ得ア開設スル博覽會又ハ工業所有權保護同盟條約國ノ版圖内ニ開設スル官設若ハ官許ノ萬國博覽會ニ出品ノ爲其ノ考ノ發明ヲ第四條各號ノ一二該當スルニ至ラシメタル場合ニ於テ其ノ開會ノ日ヨリ六月以内ニ其ノ者カ特許ヲ出願シタルトキハ其ノ者ノ發明カ前條各號ノ一二該當スルモノト看做ス

第七條 特許出願ハ一發明每ニ之ヲ爲スベシ但シニ以上ノ發明カ牽連シテ利用上一發明ヲ爲スモノト認メ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八條 同一發明ニ付テハ最先ノ出願者ニ限り特許スルノ發明カ牽連シテ利用上一發明ヲ爲スモノト認メ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九條 二以上ノ發明ヲ包含スル特許出願ヲ二以上

ノ出願ト爲シタルトキハ各出願ハ最初出願ノ時ニ於テ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第十條 特許出願カ特許ヲ受クルノ權利ノ承繼人ニ非サル者又ハ特許ヲ受クルノ權利ヲ冒認シタル者ノ爲シタルモノナルニ因リ特許ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル場合ニ於テ其ノ特許出願ノ後ニ爲シタル正當權利者ノ出願ハ其ノ特許ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル

特許出願ノ時ニ於テ之ヲ爲シタルモノト看做ス但シ

特許ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル後ノ出願公告ノ日ヨリ六十日ヲ、

十日ヲ經過シタル後ノ出願ニ係ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 特許カ特許ヲ受クルノ權利ノ承繼人ニ非サル者又ハ特許ヲ受クルノ權利ヲ冒認シタル者ノ受クルモノナルニ因リ其ノ特許ヲ無効トスル審決確定シ又

ハ判決アリタル場合ニ於テ其ノ特許ノ出願ノ後ニ爲シタル正當權利者ノ出願ハ其ノ無効ト爲リタル特許ノ出願ノ時ニ於テ之ヲ爲シタルモノト看做ス但シ其ノ特

許ノ出願公告ノ日ヨリ五年ヲ經過シタル後ノ出願又ハ其ノ審決確定シ若ハ判決アリタル日後ノ出願ニ係ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 特許ヲ受クルノ權利ハ之ヲ移轉スルコトヲ得但シ擔保ニ供スルコトヲ得ス

特許ヲ受クルノ權利カ共有ニ係ル場合ニ於テハ各共

有者ハ他ノ共有者ノ同意アルニ非サレハ其ノ持分ヲ讓渡スルコトヲ得ス

特許ヲ受クルノ權利ノ承繼ハ承繼人力カ特許出願前ニ在リテハ特許ヲ出願シ特許出願後ニ在リテハ出願人

名義ニ變更ヲ届出ツルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス但シ同日ノ出願又ハ届出ニ係ルトキハ關係者ノ協議ニ依リ協議調ハサルトキハ共ニ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十三條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル法定又ハ指定ノ期間ノ計算ハ左ノ規定ニ依ル

トキハ關係者ノ協議ニ依リ協議調ハサルトキハ共ニ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

一 零時ヨリ始ルトキハ此ノ限ニ在ラス

二 期間ヲ一定ムニ二月又ハ年ヲ以テシタルトキハ曆ニ從フ月又ハ年ノ始ヨリ期間ヲ起算セサルトキハ其ノ期間ハ最後ノ月又ハ年ニ於テ其ノ起算日ニ應當スル日ノ前日ヲ以テ満了ス但シ最後ノ月ニ應當日ナ

キトキハ其ノ月ノ末日ヲ以テ満了ス

特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ニ付テノ法定又

ハ指定ノ期間ノ末日カ日曜日又ハ一般ノ祝祭日ニ當ルヘキトキハ其ノ日ノ翌日ヲ以テ其ノ期間ノ末日トス

第十四條 被用者、法人ノ役員又ハ公務員ノ其ノ勤務員ノ任務ニ屬スル場合ノモノヲ除クノ外豫メ使用者、

法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ヲシテ特許ヲ受クルノ者ノ出願ハ其ノ特許ヲ受クルノ權利ノ承繼人ニ非

サル者又ハ特許ヲ受クルノ權利ヲ冒認シタル者ノ爲シタルモノナルニ因リ特許ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル場合ニ於テ其ノ特許出願カ特許ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル

特許ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル後ノ出願公告ノ日ヨリ六十日ヲ、

十日ヲ經過シタル後ノ出願ニ係ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 特許出願ニ係ル發明カ軍事上祕密ヲ定ムニ付之ヲ斟酌スルコトヲ得

本條ニ於テ法人ノ役員ト稱スルハ法人ノ業務ヲ執行セシムル者ヲシテ承繼セシタル場合ニ於テ相當ノ補償金ヲ受クルノ權利ヲ有ス

使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ニ於テ既ニ支拂ヒタル報酬アルトキハ裁判所ハ前項ノ補償金ヲ定ムニ付之ヲ斟酌スルコトヲ得

本條ニ於テ法人ノ役員ト稱スルハ法人ノ業務ヲ執行セシムル者ヲシテ承繼セシタル場合ニ於テ相當ノ補償金ヲ受クルノ權利ヲ有ス

使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ニ於テ既ニ支拂ヒタル報酬アルトキハ裁判所ハ前項ノ補償金ヲ定ムニ付之ヲ斟酌スルコトヲ得

又ハ軍事上若ハ公益上必要ナルモノナルトキハ特許ヲ與ヘス、特許ヲ受クルノ權利ヲ政府ニ於テ收用シ又ハ制限ヲ附シテ特許ヲ與フルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ特許ヲ與ヘス、權利ヲ收用シ又ハ制限ヲ附シテ特許ヲ與フル場合ニ於テハ政府ハ相當ノ補償金ヲ支給ス

收用及補償金支給ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

十六條 帝國內ニ住所ヲモ居所ヲモ有セサル者ハ命令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外帝國內ニ住所又ハ居所ヲ有スル代理人ニ依ルニ非サレハ特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲シ又ハ特許權若ハ特許ニ關スル權利ヲ主張スルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ依リ出願若ハ請求又ハ主張ヲ爲ス代理

人ハ特ニ授ケラレタル權限ノ外本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル手續並民事訴訟、私訴及告訴ニ付

特許權者又ハ特許權ニ關シ登録シタル權利ヲ有スル者ノ代理人ニシテ第一項ノ規定ニ依リ手續又ハ主張ヲ爲スモノノ選任若ハ變更又ハ代理權若ハ其ノ變更消滅ハ登録ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十七條 特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ス者ノ代理人ニシテ第一項ノ規定第三項ニ規定スル代理人ニ非サルモノノ選任若ハ變更又ハ代理權若ハ其ノ變更消滅ハ特許局ニ届出ツルニ非サレハ之ヲ以テ特許局ニ對抗スルコトヲ得ス

第十八條 特許ニ關スル代理人數人アルトキハ特許局ニ對シテハ共同又ハ各別ニ本人ヲ代表ス

第十九條 特許局長ニ於テ特許ニ關スル代理人ヲ適當ナラスト認ムルトキハ其ノ改任ヲ命スルコトヲ得特許局長ハ又審判長ニ於テ當事者、參加人若ハ特許異議申立人又ハ其ノ代理人手續又ハ演述ヲ爲スノ能力ナシト認ムルトキハ辨理士ヲ以テ代理セシムヘキコトヲ命スルコトヲ得

前二項ニ規定スル命令アリタル後第一項ノ代理人又ハ前項ノ當事者、參加人、特許異議申立人若ハ代理人ノ特許局ニ對シ爲シタル行爲ハ之ヲ無効ト爲スコト得

第二十條 特許局ニ對シ爲スヘキ事項ノ代理業ハ辨理士ニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス
第二十一條 數人共同シテ特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ス者又ハ特許權ノ共有者ハ特許局ニ對シ各人互ニ代表スルモノトス但シ特ニ代表者ヲ定メ特許局ニ届出テアルトキハ此ノ限ニ在ラス
第十七條 ニ規定ハ前項但書ノ代表者ニ付之ヲ準用ス

第二十二條 特許權者帝國內ニ住所ヲモ有セサルトキハ第十六條第二項ノ代理人ノ住所又ハ居所、其ノ代理人ナキモノニ在リテハ特許局ノ所在地ヲ以テ民事訴訟法第十七條ノ財產所在地ト看做ス
第二十三條 特許局長ハ外國又ハ遠隔若ハ交通不便ノ地ニ在ル者ノ爲請求ニ依リ又ハ職權ヲ以テ特許局ニ對シ手續ヲ爲スヘキ法定ノ期間ヲ延長スルコトヲ得
第二十四條 出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲シタル者之タルスル爾後ノ行爲ニ付指定ノ期間ヲ解消シタルトキ又ハ登録ヲ受クル際納付スヘキ特許料ノ納付ヲ怠リタルトキハ本法ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外特許

局長ハ其ノ出願請求其ノ他ノ手續ヲ無効ト爲スコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ出願、請求其ノ他ノ手續ヲ無効ト爲シタル場合ニ於テ其ノ期間ノ懈怠カ宥恕スヘキ障礙ニ因ルモノト認ムルトキハ其ノ障礙ノ止ミタル日ヨリ十四日以内ニシテ其ノ期間満了後一年以内ノ請求ニ依リ特許局長ハ懈怠ノ結果ヲ免レシムルコトヲ得

第二十五條 天災其ノ他避クヘカラサル事變ニ因リ法定ノ期間ヲ懈怠シタル場合ニ於テ其ノ障礙ノ止ミタル日ヨリ十四日以内ニシテ其ノ期間満了後一年以内ノ請求ニ依リ特許局長ハ懈怠ノ結果ヲ免レシムルコトヲ得

第二十六條 特許局ニ差出スヘキ書類其ノ他ノ物件ニ付差出ノ效力ヲ生スヘキ時期ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十七條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ特許權者又ハ特許ニ關スル權利ヲ有スル者ノ爲シタル又ハ其ノ者ニ對シ爲サレタル手續ノ效力ハ其ノ特許權又ハ特許ニ關スル權利ノ移轉アリタルトキハ特許局ハ承繼人ニ對シ手續ヲ續行スルコトヲ得

第二十八條 特許局ニ事件ノ繫屬中ニ於テ特許權又ハ特許ニ關スル權利ノ移轉アリタルトキハ特許局ハ承續ノ中斷中止及中斷中止シタル手續ノ續行ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十條 特許ニ關シ證明、特許證ノ複本、書類ノ謄本若ハ圖面ノ調製ヲ求メ又ハ書類ノ閱覽若ハ勝寫ヲ爲サムトスル者ハ特許局長ニ之ヲ申請スルコトヲ得但シ特許局長ニ於テ秘密ヲ要スト認ムルモノニ付テハ之ヲ許可セス

第三十一條 軍事上祕密ヲ要スル發明ニ付テハ本法ニ規定スルモノノ外命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第三十二條 外國人ニシテ帝國內ニ住所ヲモ營業所有セサルモノハ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ規定アル場合ヲ除クノ外特許權又ハ特許ニ關スル權利ヲ享

第三十三條 特許ニ關シ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ別段ノ規定アルトキハ其ノ規定ニ從フ

第三十四條 特許權ハ登録ニ依リ發生ス

第三十五條 特許權者ハ物ノ特許發明ニ在リテハ其ノ物ヲ製作、使用、販賣又ハ擴布スルノ權利ヲ專有シ

方法ノ特許發明ニ在リテハ其ノ方法ヲ使用シ及其ノ權利ヲ專有ス
新規ナル同一ノ方法ニ依リテ製作シタル特許權力其ノ出願ノ日前ノ出願ニ係ル實用新案權ト抵觸スル場合又ハ特許發明カ其ノ出願ノ日前ノ出願ニ係ル登録實用新案權者ノ實施スルモノナル場合ニ於テハ特許權者ハ實用新案權者ノ實施許諾アルニ非サレハ其ノ特許發明ヲ實施スルコトヲ得ス

第三十六條 特許權ノ效力ハ左ノ各號ノ一二該當スルモノニ及ハス
一 研究又ハ試驗ノ爲ニスル特許發明ノ實施
二 單ニ帝國內ヲ通過スルニ過キサル運輸具又ハ其ノ裝置

第三十七條 特許出願ノ際ヨリ帝國內ニ在ル物又ハ第一號ノ實施ニ依リ製作シタル物

第三十八條 特許出願ノ際現ニ善意ニ帝國內ニ於テ其ノ發明實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業設備ヲ有スル者ハ其ノ特許發明ニ付事業ノ目的タル發明範圍内ニ於テ實施權ヲ有ス

第三十九條 特許ノ無効審判請求ノ登錄前善意ニシテ左ノ各號ノ一二該當シ帝國內ニ於テ其ノ發明實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業設備ヲ有スル者ハ其ノ特許發明ニ付事業ノ目的タル發明範圍内ニ於テ實施權ヲ有ス

第四十條 特許ノ無効トシ同一發明ニ付正當權利者ニ特許ヲ與ヘタル場合ニ於ケル登錄ヲ受ケタル原特許權者

第四十一條 前二號ニ掲ケタル場合ニ於テ其ノ無効ト爲リタル特許權ニ付實施權ヲ得テ其ノ登錄ヲ受ケタル者

第四十二條 但シ實施權力登錄ナキモ第五十二條第一項ノ效力ヲ有スル場合ハ登錄アルヲ要セス

第四十三條 特許出願ノ日前又ハ之ト同日ノ出願ニ係リ其ノ特許權ト抵觸スル實用新案權ノ存續期間満了シタル場合ニ於テ其ノ實用新案權ニ付實施權ヲ得テ登錄ヲ受ケタル者ハ其ノ特許發明ニ付原實施權ノ範圍内ニ於テ實施權ヲ有ス但シ原實施權力登錄ナキモ實用新案法セス

第四十四條 特許權者ハ前二項ノ規定ニ依ル實施權者ヨリ相當ノ

(一〇)

補償金ヲ受クルノ権利ヲ有ス
第三十九條 特許出願ノ日前又ハ之ト同日ノ出願ニ
係リ其ノ特許權ト抵觸スル實用新案權ノ存續期間
滿了後ニ於ケル原實用新案權者ハ其ノ特許發明ニ
付原權利ノ範圍内ニ於テ實施權ヲ有ス

第四十條 特許發明カ軍事上祕密ヲ要シ又ハ軍事
上若ハ公益上必要ナルモノナルトキハ特許權ヲ制限シ
若ハ政府ニ於テ收用シ特許ヲ取消シ又ハ政府ニ於テ
特許發明ヲ實施スルコトヲ得

特許權ノ收用アリタルトキハ其ノ特許發明ニ關スル特
許權以外ノ權利消滅ス

第一項ノ規定ニ依ル制限、收用、取消又ハ實施ノ場
合ニ於テハ政府ハ相當ノ補償金ヲ特許權者又ハ實施
權者ニ支給ス

收用、實施及補償金支給ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ
定ム

第四十一條 特許アリタル後ニ於テ引續キ三年以上正
當ノ理由ナクシテ其ノ發明カ帝國內ニ適當ニ實施セ
ラレサル場合ニ於テ公益上必要アルトキハ特許局長
ハ利害關係人ノ請求ニ依リ其ノ實施權ヲ許與シ若ハ
其ノ特許ヲ取消シ又ハ職權ヲ以テ其ノ特許ヲ取消ス
コトヲ得

特許權者又ハ請求人ハ前項ノ規定ニ依ル實施權許
與若ハ特許取消ノ處分又ハ前項ノ請求ノ却下ニ對シ
不服アルトキハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ實施權ヲ許與スル場合ニ於テハ
特許局長ハ補償金ニ付テモ亦之カ決定ヲ爲スヘシ
第四十二條 前條ノ規定ニ依リ實施權ヲ取得シタル者
適當ニ其ノ特許發明ヲ實施セサル場合ニ於テハ特許
局長ハ利害關係人ノ請求ニ依リ又ハ職權ヲ以テ其ノ
實施權ヲ取消スコトヲ得

特許權者ハ他人ノ特許發明又ハ登錄實
用新案ヲ實施スルニ非サレハ自己ノ特許發明ヲ實施
スルコト能ハサル場合ニ於テ其ノ他人力正當ノ理由ナ
クシテ實施ヲ許諾セサルトキ又ハ其ノ他人ノ實施許
諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ審判ヲ請求スルコトヲ得
但シ他人ノ特許發明ヲ實施ヲ要スル場合ニ於テハ其
ノ實施セラルヘキ發明ノ特許權發生ノ日ヨリ三年ヲ
経過セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十三條 特許權ノ存續期間ハ出願公告アリタル
場合ニ在リテハ其ノ出願公告ノ日ヨリ、出願公告ナカ
リシ場合ニ在リテハ特許ノ日ヨリ十五年ヲ以テ終了
ス

第十條ノ規定ニ依リ正當権利者ニ特許ヲ與ヘタル場
合ニ於テ特許ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル特許出
願ニ付出願公告アリタルトキハ前項ノ十五年ノ期間
ハ其ノ出願公告ノ日ヨリ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第十一條ノ規定ニ依リ正當権利者ニ特許ヲ與ヘタル
トキハ第一項ノ十五年ノ期間ハ無效ト爲リタル特許

/出願公告ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

追加ノ特許權カ獨立ノ特許權ト爲リタルトキハ其ノ
存續期間ハ原特許權ノ殘期間トス第五十三條第二
項ノ規定ニ依ル各別ノ特許權ノ存續期間ニ付亦同シ
特許權ノ存續期間ハ勅令ノ定期ム所ニ依リ三年以
上十年以下之ヲ延長スルコトヲ得

第四十四條 特許權ハ制限ヲ附シ又ハ附セシテ之ヲ
移轉スルコトヲ得

特許權カ共有ニ係ル場合ニ於テハ各共有者ハ他ノ共
有者ノ同意アルニ非サレハ其ノ持分ヲ讓渡スルコトヲ得ス
更、消滅若ハ處分ノ制限ハ其ノ登録ヲ受クルニ非サレ
ハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得

第四十六條 追加ノ特許權ハ原特許權ニ附隨ス
第四十七條 特許權カ共有ニ係ル場合ニ於テハ各共
有者ハ契約ヲ以テ別段ノ定期ヲ爲ササルトキハ他ノ共有
者ノ同意ヲ要セシテ特許發明ヲ實施スルコトヲ得
諾スルコトヲ得

第四十八條 特許權者ハ特許發明ノ實施ヲ他人ニ許
諾スルコトヲ得
有者ノ同意アルニ非サレハ特許發明ノ實施ヲ他人ニ
許諾スルコトヲ得ス

第四十九條 特許權者ハ他人ノ特許發明又ハ登錄實
用新案ヲ實施スルニ非サレハ自己ノ特許發明ヲ實施
スルコト能ハサル場合ニ於テ其ノ他人力正當ノ理由ナ
クシテ實施ヲ許諾セサルトキ又ハ其ノ他人ノ實施許
諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ審判ヲ請求スルコトヲ得
トヲ得

第一特許請求範圍ノ減縮
二 誤記ノ訂正

三 不明瞭ナル記載ノ釋明
特許權者ハ錯認ニ因リニ以上ノ發明ヲ一特許出願
ニ包含セシメタルコトヲ疏明シタル場合ニ限り各發明
毎ニ各別ノ特許權ト爲スノ許可ノ審判ヲ請求スルコト
ヲ得

第五十三條 特許權者ハ特許發明ノ明細書又ハ圖面
ノ規定ニ依ル實施權ハ其ノ登録前設定ノ質權ヲ有ス
處分ノ制限又ハ實施權ヲ目的トスル質權ノ設定、移
轉、變更、消滅、若ハ處分ノ制限ニ付之ヲ準用ス

第四十九條 第二項又ハ第三十七條乃至第三十九條
ノ規定ニ依ル實施權ハ其ノ登録ナキ場合ト雖前項ノ
效果ヲ有ス

第五十四條 第一號ノ場合ニ於テハ其ノ殘部、前項ノ場合
ニ於テハ其ノ各發明カ特許出願ノ際獨立シテ新規ノ
發明ナルコトヲ得ス

第五十五條 特許權者ハ制限附移轉ノ特許權ヲ有ス
ル者、質權者又ハ第十四條第三項若ハ第四十八條
ノ規定ニ依ル實施權者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ特許
權ヲ拋棄シ又ハ第五十三條ノ規定ニ依ル許可ノ審
判ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第五十六條 先取特權又ハ質權ハ本法ニ依リ受クヘ
キ補償金其ノ特許權ノ對價又ハ特許發明ノ實施
權ヲ拋棄シ又ハ第五十三條ノ規定ニ依ル許可ノ審
判ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第五十七條 第四十一條又ハ前條ノ規定ニ依ル實施
權者ハ特許權者又ハ實用新案權者ニ對シ相當ノ補
償金ヲ支拂フヘシ
第五十八條 第五十六條ノ規定ニ依リ受クヘキ補償金
又ハ特許發明又ハ登錄實用新案權者ニ對シ受クヘキ金錢若ハ金錢以外ノ物ニ對シテモ之
ヲ行フコトヲ得但シ其ノ拂渡又ハ引渡前三差押ヲ爲
スヘシ

供託シタルトキハ實施スルコトヲ得

第五十一條 第四十九條ノ規定ニ依ル實施權ハ其ノ
特許權ニ附隨ス

特許發明ノ實施權ニシテ前項ノ實施權ニ非サルモノ
ハ其ノ實施ノ事業ト共ニスル場合又ハ特許權者ノ承
諾アル場合ニ於テハ之ヲ移轉スルコトヲ得

第五十二條 特許發明ノ實施權ハ之ヲ登録シタルトキ
ハ其ノ特許權ヲ爾後取得シタル者及其ノ特許權ヲ目
的トスル爾後設定ノ質權ヲ有スル者ニ對シテモ其ノ
效果ヲ生ス

第五十三條 特許權者ハ特許發明ノ明細書又ハ圖面
ノ規定ニ依ル實施權ハ其ノ登録ナキ場合ト雖前項ノ
效果ヲ有ス

第五十四條 第二項又ハ第三十七條乃至第三十九條
ノ規定ニ依ル實施權ハ其ノ登録前設定ノ質權ヲ有ス
處分ノ制限又ハ實施權ヲ目的トスル質權ノ設定、移
轉、變更、消滅、若ハ處分ノ制限ニ付之ヲ準用ス

第五十五條 特許權者ハ特許發明ノ明細書又ハ圖面
ノ各號ノ一二掲タル事項ヲ目的トスル場合ニ限り其
ノ明細書又ハ圖面ノ訂正ノ許可ノ審判ヲ請求スルコ
トヲ得

第五十六條 第一號ノ場合ニ於テハ其ノ殘部、前項ノ場合
ニ於テハ其ノ各發明カ特許出願ノ際獨立シテ新規ノ
發明ナルコトヲ得ス

第五十七條 特許權者ハ制限附移轉ノ特許權ヲ有ス
ル者、質權者又ハ第十四條第三項若ハ第四十八條
ノ規定ニ依ル實施權者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ特許
權ヲ拋棄シ又ハ第五十三條ノ規定ニ依ル許可ノ審
判ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第五十八條 第五十六條ノ規定ニ依リ受クヘキ補償金
又ハ特許發明又ハ登錄實用新案權者ニ對シ受クヘキ金錢若ハ金錢以外ノ物ニ對シテモ之
ヲ行フコトヲ得但シ其ノ拂渡又ハ引渡前三差押ヲ爲
スヘシ

第五十七條 特許カ左ノ各號一一ニ該當スルトキハ審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ

一 特許カ第一條乃至第三條、第八條又ハ第三十
二條ノ規定ニ違反シテ與ヘラレタルトキ

二 特許カ特許ヲ受クルノ權利ノ承繼人ニ非サル者
又ハ特許ヲ受クルノ權利ノ冒認シタル者ニ對シテ
與ヘラレタルトキ

三 特許發明ノ明細書又ハ圖面ニ其ノ實施ニ必要
ナル事項ヲ故意ニ記載セス又ハ其ノ實施ヲ不能若
ハ困難ナラシムル爲必要ナラサル事項ヲ故意ニ記
載シタルトキ

四 特許カ第三十三條ニ規定スル條約又ハ之ニ準
スヘキモノニ違反シテ與ヘラレタル場合ニ於テ其ノ
違反カ第一號乃至前號ニ掲タルモノニ準スヘキモ
ノナルトキ

五 特許カ第三十二條ノ規定ニ違反スルニ至リタル
トキ又ハ特許カ第三十三條ニ規定スル條約若ハ之
ニ準スヘキモノニ違反スルニ至リタル場合ニ於テ其
ノ違反カ第一號乃至第三號ニ掲タルモノニ準スヘ
キモノナルトキ

第六條 特許カ同條第三項又ハ第五十四條ノ
規定ニ違反シタルトキハ審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘ
シ

第七條 特許又ハ第五十三條ノ許可ハ特許權消滅後ト雖前
二項ノ規定ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ

第八條 特許カ無効ト爲リタルトキハ特許權ハ初
ヨリ存在セサリシモノト看做ス但シ前條第一項第五
號ノ規定ニ依リ特許カ無効ト爲リタルトキハ特許權
可ナカリシモノト看做ス

第九條 特許カ同號ニ該當スルニ至リタル時ヨリ存在セサリ
シモノト看做ス

第十條 特許又ハ第四十二條ノ規定ニ依ル實施權ノ
取消アリタルトキハ特許權又ハ實施權ハ爾後其ノ效
力ナキモノトス

第十一條 特許權ハ相續人ナキトキハ消滅ス

第十二條 特許カ取消サレ若ハ無効ト爲リ又ハ特許
權カ消滅シタル場合ニ於テ追加ノ特許權アルトキハ
其ノ追加ノ特許權ハ獨立ノ特許權ト爲ル第六十九
條第二項ノ規定ニ依リ特許權カ消滅シタルトキハ同
條第一項ニ規定スル追納期間ノ満了ノ時獨立ノ特
許權ト爲ル

前項ノ場合ニ於テ獨立ノ特許權ト爲リタルモノニ係
ル追加ノ特許權アルトキハ其ノ追加ノ特許權ハ獨立
前項ノ場合ニ於テ獨立ノ特許權ト爲リタルモノニ係
ル追加ノ特許權アルトキハ其ノ追加ノ特許權ハ獨立

ト爲リタル特許權ノ追加ノ特許權ト爲ル

前二項ノ場合ニ於テ其ノ日ヨリ六十日以内ニ變更
ノ登録ヲ申請スルニ非サレハ第一項ノ特許權又ハ前
項ノ追加ノ特許權ハ消滅ス

第三章 登錄、特許證、公報及明細書、特許標記
並特許料

第六十一條 特許局ニ特許原簿ヲ備ヘ特許權及實施
權並之ヲ目的トスル質權ノ設定、保存、移轉、變更、
消滅、處分ノ制限其ノ他法令ニ定ムル事項ヲ登錄ス
登錄ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十二條 特許スヘシトノ査定若ハ審決確定シ又ハ
判決アリタルトキハ之ヲ特許原簿ニ登錄シ特許證ヲ
下付ス第五十三條ノ許可ノ審決確定シ又ハ判決ア
リタルトキ亦同シ

第六十三條 特許局ハ特許公報及特許發明明細書
ヲ發行シ本法ニ規定スル事項其ノ他特許發明ニ關ス
ル必要ナル事項ヲ之ニ記載スヘシ但シ軍事上祕密ヲ
要スル特許發明ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第六十四條 特許標記ハ特許ニ係ル物ニ之ヲ附スヘシ
物ノ性質ニ依リ其ノ物ニ附スルコト能ハサルトキハ其
ノ物ノ容器包装ノ類ニ之ヲ附スヘシ

第六十五條 特許權者ハ實施權又ハ第三十六條第一號ノ實施
ヲ爲ス者ニ對シ特許標記ヲ附スヘキコトヲ請求スルコ
トヲ得

第六十六條 特許標記ヲ附セサリシ爲特許ニ係ル物ナルコトヲ知ラ
シテ特許權ヲ侵害シタル者ニ對シテハ損害賠償ノ
請求ヲ爲スコトヲ得ス

第六十七條 特許料トシテ第四十三條第一項ニ規定スル十五
年ノ各年ニ付毎件左ノ金額ヲ納付スヘシ

第六十八條 既納ノ特許料ハ之ヲ還付セス
代リ納付スルコトヲ得

第六十九條 特許證主ハ特許料ヲ納付スヘキ期限ヲ
超過シタル後ト雖六月間ヲ限り特許料ヲ追納スルコ
トヲ得此ノ場合ニ於テハ第六十五條ニ規定スル特許
料ノ二倍ニ相當スル金額ヲ特許料トシテ納付スヘシ

前項ニ規定スル追納期間内ニ特許料ヲ追納セサルト
キハ特許料ヲ納付スヘキ期限經過ノ時ニ遡リ特許權
ハ消滅シタルモノト看做ス

第七十條 特許ノ出願アリタルトキハ審查官ヲシテ
之ヲ審査セシム

第七十一條 第九十一條ノ規定ハ審査官ノ審査ノ干
與ヨリ除斥ニ付之ヲ準用ス

第七十二條 審査官ハ出願ヲ拒絶スヘキモノト認メタ
ルトキハ出願人ニ對シ拒絕ノ理由ヲ示シ期間ヲ指定
シテ之ニ意見書提出ノ機會ヲ與フヘシ

第七十三條 審査官ハ出願拒絶ノ理由ヲ發見セサル
前項ノ規定ニ依ル決定アリタルトキハ特許局ハ出願

特許權存續期間延長ノ場合ニ於テ追加ノ特許權ア
ルトキハ其ノ登錄ヲ受クル時特許料トシテ毎件一時

ニ六十圓ヲ納付スヘシ

第五十三條第二項ノ規定ニ依ル各別ノ特許權ノ登
錄ヲ受クル者又ハ特許證主ハ各別ノ特許權ニ付原

特許權ノ當該年分ヨリノ特許料ヲ納付スヘシ但シ既
納ノ特許料ノ金額ハ納付スヘキ特許料ノ金額中ニ之
ヲ充當ス

追加ノ特許權カ獨立ノ特許權ト爲リタル場合又ハ第
十條ノ規定ニ依リ正當權利者ニ特許ヲ與ヘタル場
合ニ於テハ特許權ノ登錄ヲ受クル者又ハ特許證主ハ

原特許權ノ當該年分ヨリノ特許料ヲ納付スヘシ

第六項ノ規定ハ國ニ屬スル特許權ニ付之ヲ適用セス
特許權ノ當該年分ヨリノ特許料ヲ納付スヘシ

第六十六條 前條第一項ノ規定ニ依ル第一年乃至第
三年ノ特許料ハ一時ニ之ヲ前納シ其ノ第四年以後
ノ特許料及前條第二項ノ規定ニ依ル特許料ハ前年
ニ之ヲ納付スヘシ但シ數年分ヨリ前納スルコト妨ケス
特許局長ハ前條第一項ノ規定ニ依ル第一年乃至第
三年ノ特許料又ハ前條第三項ノ規定ニ依ル特許料
ヲ納付スヘキ者カ其ノ特許發明ノ發明者又ハ其ノ相
續人ナル場合ニ於テハ此ノ納付スルノ資力ナシト認ムル
トキハ一年以内之カ納付ヲ猶豫シ又ハ之ヲ減免スル
コトヲ得

第六十七條 利害關係人ハ特許料ヲ納付スヘキ者ニ
代リ納付スルコトヲ得

第六十八條 既納ノ特許料ハ之ヲ還付セス
代リ納付スルコトヲ得

第六十九條 特許證主ハ特許料ヲ納付スヘキ期限ヲ
超過シタル後ト雖六月間ヲ限り特許料ヲ追納スルコ
トヲ得此ノ場合ニ於テハ第六十五條ニ規定スル特許
料ノ二倍ニ相當スル金額ヲ特許料トシテ納付スヘシ

前項ニ規定スル追納期間内ニ特許料ヲ追納セサルト
キハ特許料ヲ納付スヘキ期限經過ノ時ニ遡リ特許權
ハ消滅シタルモノト看做ス

第七十條 特許ノ出願アリタルトキハ審査官ヲシテ
之ヲ審査セシム

第七十一條 第九十一條ノ規定ハ審査官ノ審査ノ干
與ヨリ除斥ニ付之ヲ準用ス

第七十二條 審査官ハ出願ヲ拒絶スヘキモノト認メタ
ルトキハ出願人ニ對シ拒绝ノ理由ヲ示シ期間ヲ指定
シテ之ニ意見書提出ノ機會ヲ與フヘシ

第七十三條 審査官ハ出願拒絶ノ理由ヲ發見セサル
前項ノ規定ニ依ル決定アリタルトキハ特許局ハ出願

年月日發明者ノ氏名、出願人ノ氏名、名稱及住所並出願ノ要旨ヲ特許公報ニ掲載シテ出願公告ヲ爲スシ
出願公告ノ時ヨリ特許權ノ效力ヲ生シタルモノト看做ス
特許局ハ出願公告ト同時ニ出願書類及其ノ附屬物件ヲ特許局ニ於テ立命令ノ定ムル所ニ依リ出願書類及其ノ附屬物件ヲ其ノ他ノ場所ニ於テ公衆ノ閱覽ニ供スヘシ

特許局ハ出願人ノ請求ニ依リ出願公告ノ決定アリタル日ヨリ六月以内出願公告ヲ猶豫スルコトヲ得軍事上祕密ヲ要スル發明ノ出願ニ付テハ出願公告ノ決定ヲ爲サヌシテ査定ヲ爲スヘシ

第七十四條 出願公告アリタルトキハ何人ト雖出願公告ノ日ヨリ二月以内ニ特許局ニ特許異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得特許異議ノ申立ハ特許異議申立書ヲ提出シテ之ヲ爲シ理由ヲ之ニ記載スヘシ

特許異議ノ申立ハ特許異議申立書ヲ提出シテ之ヲ爲シ理由ヲ之ニ記載スヘシ

第七十五條 特許異議ノ申立アリタルトキハ審查官ハ利害關係人ハ特許異議ノ決定アル迄其ノ特許異議ニ參加スルコトヲ得特許異議ノ參加ニ關シテハ審判ノ參加ニ關スル規定ヲ準用ス

第七十六條 特許異議申立書ノ副本ヲ出願人ニ送達シ期間ヲ指定期間ノ期間ノ經過後特許異議ノ決定ヲ爲シ同時ニ其ノ出願ニ對シ特許スヘキヤ否ヲ査定スヘシ

特許異議ノ決定ニハ理由ヲ附スヘシ

特許異議ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得審査官ハ前條第一項ニ規定スル特許異議申立期間及前項ノ期間ノ經過後特許異議ノ決定ヲ爲シ同時ニ其ノ出願ニ對シ特許スヘキヤ否ヲ査定スヘシ

特許異議ノ決定ニハ結果必要アルトキハ特許發明ノ明細書又ハ圖面ノ訂正ヲ命スルコトヲ得

第七十七條 特許異議ニ關シ爲シタル證據調ノ費用ニ付テハ審判ニ關スル費用ノ規定ヲ準用ス

第七十八條 出願公告後出願ノ拋棄、取下若ハ無效處分アリタルトキ又ハ第五十八條第一項但書ノ場合特許異議ノ申立ナキトキハ審査官ハ査定ヲ爲スヘシ

第七十九條 第百條及第百十八條第一項ノ規定ハ特許局ハ出願公告ト同時ニ出願書類及其ノ附屬物件ヲ特許局ニ於テ立命令ノ定ムル所ニ依リ出願書類及其ノ附屬物件ヲ其ノ他ノ場所ニ於テ公衆ノ閱覽ニ供スヘシ

第七十九條 第十條又ハ第十一條ニ規定スル正當權利者ノ出願アリタルトキハ審査官ハ既ニ出願公告ヲ爲シタルモノニ付テハ更ニ出願公告ヲ爲スコトナク査定ヲ爲スヘシ

第八十條 第百條及第百十八條第一項ノ規定ハ密査ニ付之ヲ準用ス

第八十一條 査定ニハ理由ヲ附スヘシ

第八十二條 本法ニ規定スルモノノ外審査ニ關スル書類ニシテ送達スヘキモノ及送達ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十三條 民事又ハ刑事ノ訴訟ニ於テ必要アルトキハ裁判所又ハ特許又ハ拒絕査定確定アル迄其ノ訴訟手續ヲ中止スルコトヲ得

第五章 審判、抗告、審判及出訴

第八十四條 審判ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ規定スルモノノ外左ニ掲タル事項ニ付之ヲ請求スルコトヲ得

一 第五十七條ノ規定ニ依ル特許又ハ許可ノ無效二特許權ノ範圍ノ確認

前項第一號ノ無效ノ審判ハ利害關係人及審查官ニ限り之ヲ請求スルコトヲ得但シ審査官ハ第八條ノ規定ニ違反シ又ハ第五十七條第一項第二號ニ該當ストノ理由ニ依ル無效ノ審判ヲ請求スルコトヲ得

斯第一項第二號ノ確認ノ審判ハ利害關係人ニ限り之ヲ請求スルコトヲ得

第八十五條 前條第一項第一號ノ無效ノ審判ハ特許又ハ第五十三條ノ許可ノ登錄ノ日ヨリ五年ヲ超過シタルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

斯第一項第二號ノ確認ノ審判ハ利害關係人ニ限り之ヲ請求スルコトヲ得

第八十六條 審判ノ請求スル期間ハ第五十七條第一項第五號ニ該當ストノ理由ニ依ル無效ノ審判ノ請求ニ付テハ同號ニ該當スルニ至リタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

斯第一項第二號ノ確認ノ審判ハ利害關係人ニ限り之ヲ請求スルコトヲ得

第八十七條 審判請求書ニハ一定ノ申立及理由ヲ記載スヘシ

第八十八條 審判ノ請求カ判然許スヘカラサルモノ、ヨリ除斥セラルトキ又ハ偏頗ノ審判ヲ爲スノ虞アルトキハ當事者又ハ參加人ヨリ之ヲ忌避スルコトヲ得

第九條 第九十一條ノ規定ニ依リ審判ノ干與ヨリ除斥セラルヘシトシテ爲ス審判官ノ忌避ノ申請ハ審判ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス之ヲ爲スコトヲ得

第九十三條 第九十一條ノ規定ニ依リ審判ノ干與ヨリ除斥セラルヘシトシテ爲ス審判官ノ忌避ノ申請ハ審判ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス之ヲ爲スコトヲ得

第九十二條 審判官カ前條ノ規定ニ依リ審判ノ干與ヨリ除斥セラルトキ又ハ偏頗ノ審判ヲ爲スノ虞アルトキハ當事者又ハ參加人カ其ノ覺知シタル忌避ノ原因ヲ主張セスシテ申立ヲ爲シ又ハ相手方ノ申立ニ對シ陳述ヲ爲シタル後ハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第九十四條 忌避ノ申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

忌避ノ原因ハ之ヲ疏明スヘシ忌避ヲ申請セラレタル

ヲ以テ之ヲ定ム

審判、抗告審判及出訴ニ關スル費用ノ額ハ請求ニ依リ特許局長之ヲ決定ス

費用ノ負擔及額ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一百二十條 審判、抗告審判及出訴ニ關スル費用ノ額ノ決定並本法ニ規定スル補償金額ノ確定ノ決定及

審決ハ強制執行ニ關シテハ民事訴訟法第五百五十

九條第一號ノ規定ニ依ル債務名義ト看做ス但シ其

ノ執行力アル正本ハ特許局官吏之ヲ付與ス

第六章 再審

第一百二十一條 左ニ掲タル審判若ハ抗告審判又ハ出

訴ニ付爲シタル確定審決又ハ判決ヲ以テ終結シタル事件ハ取消ノ請求又ハ原狀回復ノ請求ニ依リ之ヲ再審スルコトヲ得

第一百二十二條 特許若ハ第五十三條ノ許可ノ效力、特許権ノ範圍又ハ實施権ノ取得ニ關スル審判

二 前號ノ審判ノ審決ニ對スル抗告審判

三 前號ノ抗告審判ノ審決ニ對スル出訴

民事訴訟法第四百六十八條ノ規定ハ取消ノ請求ニ付、同法第四百六十九條及第四百七十條ノ規定ハ原狀回復ノ請求ニ付之ヲ準用ス

第一百二十二條 再審ハ當事者カ不服ノ理由ヲ知リタル日ヨリ六十日以内ニ限り之ヲ請求スルコトヲ得

審決ノ確定又ハ判決ノ前ニ當事者カ不服ノ理由ヲ知リタルトキハ前項ニ規定スル期間ハ審決確定シ又ハ判決アリタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第一百二十三條 審判、抗告審判又ハ出訴ノ手續ニ於テ當事者カ法律ノ規定ニ從ヒ代理セラレサリシコトヲ理由トシテ再審トキハ再審ノ請求スルコトヲ得ス

第一百二十四條 審判、抗告審判又ハ出訴ニ於テ爲ス再審ノ請求及其ノ後ノ手續ニ付テハ本章ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外各其ノ審級ノ手續ニ關スル規定ヲ準用ス

第一百二十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百三十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百三十一條 第四百七十一條、第四百七十二條第一項第二項及第四百七十五條乃至第四百八十二條ノ規定ハ審判、抗告審判又ハ出訴ニ於テ爲ス再審ニ關シテ準用ス

第一百三十五條 左ノ各號ノ一二該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百三十六條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定

再審請求ノ登録前善意ニ輸入若ハ移入シ又ハ帝國内ニ於テ製作若ハ取得シタル物ニ及ハス

一 無效ト爲リタル特許権カ再審ニ依リ回復シタルトキ

アリタルモノニ付再審ニ依リ之ニ反スル審決確定シ又ハ判決アリタルトキ

アリタル後ニシテ再審請求ノ登録前善意ニシテ

アリタル後ニ反スル審決確定シ又ハ判決アリタル場合ニ於テ再審請求ノ登録前善意ニシテ

二 特許ニ係ラサル物又ハ其ノ物ノ容器包装ノ類ニ特許標記ヲ附シ又ハ特許標記ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

器包装ノ類ニ特許標記ヲ附シ又ハ特許標記ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタルモノヲ販賣又ハ擴布シタル者

四 特許ニ係ラサル物又ハ特許ニ係ラサル方法ニ依リ製作シタル物ヲ製作若ハ使用セシムル爲又ハ販賣若ハ擴布スル爲廣告看板、引札ノ類ニ其ノ物若ハ方法カ特許ニ係ルコトヲ表示シ又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

五 特許ニ係ラサル方法ヲ使用セシムル爲又ハ販賣若ハ擴布スル爲廣告看板、引札ノ類ニ其ノ方法カ特許ニ係ルコトヲ表示シ又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

六 特許ニ係ラサル方法ヲ使用セシムル爲又ハ販賣若ハ擴布スル爲廣告看板、引札ノ類ニ其ノ方法カ特許ニ係ルコトヲ表示シ又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

七 特許ニ係ラサル方法ヲ使用セシムル爲又ハ販賣若ハ擴布スル爲廣告看板、引札ノ類ニ其ノ方法カ特許ニ係ルコトヲ表示シ又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

八 特許ニ係ラサル方法ヲ使用セシムル爲又ハ販賣若ハ擴布スル爲廣告看板、引札ノ類ニ其ノ方法カ特許ニ係ルコトヲ表示シ又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

九 特許ニ係ラサル方法ヲ使用セシムル爲又ハ販賣若ハ擴布スル爲廣告看板、引札ノ類ニ其ノ方法カ特許ニ係ルコトヲ表示シ又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

十 特許ニ係ラサル方法ヲ使用セシムル爲又ハ販賣若ハ擴布スル爲廣告看板、引札ノ類ニ其ノ方法カ特許ニ係ルコトヲ表示シ又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

十一 特許ニ係ラサル方法ヲ使用セシムル爲又ハ販賣若ハ擴布スル爲廣告看板、引札ノ類ニ其ノ方法カ特許ニ係ルコトヲ表示シ又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

十二 特許ニ係ラサル方法ヲ使用セシムル爲又ハ販賣若ハ擴布スル爲廣告看板、引札ノ類ニ其ノ方法カ特許ニ係ルコトヲ表示シ又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

十三 特許ニ係ラサル方法ヲ使用セシムル爲又ハ販賣若ハ擴布スル爲廣告看板、引札ノ類ニ其ノ方法カ特許ニ係ルコトヲ表示シ又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

十四 特許ニ係ラサル方法ヲ使用セシムル爲又ハ販賣若ハ擴布スル爲廣告看板、引札ノ類ニ其ノ方法カ特許ニ係ルコトヲ表示シ又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

十五 特許ニ係ラサル方法ヲ使用セシムル爲又ハ販賣若ハ擴布スル爲廣告看板、引札ノ類ニ其ノ方法カ特許ニ係ルコトヲ表示シ又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

十六 特許ニ係ラサル方法ヲ使用セシムル爲又ハ販賣若ハ擴布スル爲廣告看板、引札ノ類ニ其ノ方法カ特許ニ係ルコトヲ表示シ又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

十七 特許ニ係ラサル方法ヲ使用セシムル爲又ハ販賣若ハ擴布スル爲廣告看板、引札ノ類ニ其ノ方法カ特許ニ係ルコトヲ表示シ又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

十八 特許ニ係ラサル方法ヲ使用セシムル爲又ハ販賣若ハ擴布スル爲廣告看板、引札ノ類ニ其ノ方法カ特許ニ係ルコトヲ表示シ又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

十九 特許ニ係ラサル方法ヲ使用セシムル爲又ハ販賣若ハ擴布スル爲廣告看板、引札ノ類ニ其ノ方法カ特許ニ係ルコトヲ表示シ又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

二十 特許ニ係ラサル方法ヲ使用セシムル爲又ハ販賣若ハ擴布スル爲廣告看板、引札ノ類ニ其ノ方法カ特許ニ係ルコトヲ表示シ又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

二十一 特許ニ係ラサル方法ヲ使用セシムル爲又ハ販賣若ハ擴布スル爲廣告看板、引札ノ類ニ其ノ方法カ特許ニ係ルコトヲ表示シ又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

二十二 特許ニ係ラサル方法ヲ使用セシムル爲又ハ販賣若ハ擴布スル爲廣告看板、引札ノ類ニ其ノ方法カ特許ニ係ルコトヲ表示シ又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

二十三 特許ニ係ラサル方法ヲ使用セシムル爲又ハ販賣若ハ擴布スル爲廣告看板、引札ノ類ニ其ノ方法カ特許ニ係ルコトヲ表示シ又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

二十四 特許ニ係ラサル方法ヲ使用セシムル爲又ハ販賣若ハ擴布スル爲廣告看板、引札ノ類ニ其ノ方法カ特許ニ係ルコトヲ表示シ又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

二十五 特許ニ係ラサル方法ヲ使用セシムル爲又ハ販賣若ハ擴布スル爲廣告看板、引札ノ類ニ其ノ方法カ特許ニ係ルコトヲ表示シ又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

第百三十七條 舊法ニ依ル特許、特許権ノ改訂又ハ分割ノ許可、處分及手續ハ本附則ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本法ニ依リ爲シタルモノト看做ス

舊法ニ依リ特許ニ關シ爲シタル出願、請求其ノ他ノ手續ニ付亦前項ニ同シ

第百三十八條 本法施行ノ際現ニ繁屬スル特許又ハ特許権ノ改訂若ハ分割ノ許可ノ出願ノ處理ニ付テハ仍舊法ニ依ル但シ其ノ出願ニ係ル發明カ本法ニ依ル特許出願ニ係ル發明ニ抵觸スルトキハ其ノ發明者ハ之ヲ先ニ發明ヲ爲シタル者ト看做ス

第百三十九條 特許ヲ受クルノ權利ヲ有スル者カ試驗ノ爲其ノ者ノ發明ヲ本法施行前第四條各號ノ一二該當スルニ至該當スルニ至ラシタル場合ニ於テ其ノ日ヨリ二年以内ニシテ本法施行ノ日ヨリ六月以内ニ其ノ者カ特許ヲ出願シタルトキハ其ノ者ノ發明ハ之ヲ新規ナルモノト見做ス

特許ヲ受クルノ權利ヲ有スル者ノ意ニ反シテ其ノ者ノ發明カ本法施行前第四條各號ノ一二該當スルニ至リタル場合ニ於テハ第五條第二項ノ規定ヲ適用セス

第一百四十條 舊法ニ依ル使用權ハ第四十八條又ハ第四十九條ノ規定ニ依ル實施權ト看做ス

第一百四十一條 本法施行前發生シタル特許權ニ關シテハ舊法第二十九條第一號ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ第三十七條ノ規定ハ之ヲ適用セス

第一百四十二條 本法施行前發生シタル特許權ニ關シテハ舊法第三十五條乃至第三十七條ノ規定ハ之ヲ適用セス

特許ヲ舊法施行前無効ト爲リタル場合ニ付テハ第三十八條ノ規定ヲ適用セス

第一百四十三條 舊法施行前發生シタル實施權ニ關シテハ第五十一條第二項ノ規定ヲ適用セス仍從前ノ例ニ依ル

第一百四十四條 舊法ニ依ル特許權ノ存續期間ニ付テハ仍舊法ニ依ルシタル特許料及追加特許料又ハ追加特許料ヲ納付スヘキ期限ヲ經過タル場合ニ於テ本法施行前既ニ納メタル又ハ納付ス但シ同日ヨリ六月間ヲ限り特許料又ハ追加特許料ヲ追納スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ舊法ニ依ル特許料又ハ追加特許料ノ二倍ニ相當スル金額ヲ特許料又ハ追加特許料

トシテ納付スヘシ

前項ニ規定スル追納期間内ニ特許料又ハ追加特許料ヲ追納セサルトキハ本法施行ノ時ニ週リ特許権又ハ追加特許権ハ消滅シタルモノト看做ス

第百四十六條 舊法ニ依ル特許又ハ特許権ノ改訂若ハ分割ノ許可ニ關シテハ本法施行後ニ特許又ハ特許アリタル場合ト雖舊法第四十九條ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ特許又ハ特許三掲タル舊法ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ特許又ハ特許カ同條第一項各號ノ一二該當スル場合ニ限りト得ス

審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ

第百四十七條 前條ノ規定ニ依ル無効ノ審判ハ本法施行前登録セラレタル特許又ハ許可ニ關シテハ本法施行ノ日ヨリ五年ヲ經過シタルトキハ之ヲ請求スルコト得ス

第百四十七條 前條ノ規定ニ依ル無効ノ審判ハ本法施行前登録セラレタル特許又ハ許可ニ關シテハ本法施行ノ日ヨリ五年ヲ經過シタルトキハ之ヲ請求スルコト得ス

第百四十七條 實用新案法改正法律案(政府提出) 第一讀會 實用新案法

第三條 實用新案法改正法律案(政府提出) 第一讀會 實用新案法

第一條 物品ニ關シ形狀、構造又ハ組合ハセニ係ル實用新規ノ型ノ工業的考案ヲ爲シタル者ハ其ノ物品ノ型ニ付實用新案ノ登録ヲ受クルコトヲ得

第二條 左ニ掲タル實用新案ニ付テハ之ヲ登録セスモノ

一 菊花御紋章ト同一又ハ類似ノ形狀ヲ有スルモノ

二 秩序若ハ風俗ヲ柰リ又ハ衛生ヲ害スルノ虞アルモノ

第三條 本法ニ於テ實用新案ノ新規ト稱スルハ實用新案カ左ノ各號ノ一二該當スルコトナキヲ謂フ

一 登錄出願前帝國內ニ於テ公然知ラレ若ハ公然用キラレタルモノ又ハ之ニ類似スルモノ

二 登錄出願前帝國內ニ頒布セラレタル刊行物ニ容易ニ實施スルコトヲ得ヘキ程度ニ於テ記載セラレタルモノ又ハ之ニ類似スルモノ

第四條 同一又ハ類似ノ實用新案ニ付テハ最先ノ出願者ニ限リ登録ス但シ同日ノ各別ノ出願者アルトキタル場合ニ於テ本法施行ノ際未タ其ノ特許又ハ追加特許ノ取扱又キモニ付テハ本法施行ノ日ヨリ六月

本法施行前既ニ納メタル又ハ納付スヘキ期限ヲ超過シタル特許料又ハ追加特許料ニ付亦前項ニ同シ

第一百四十五條 特許料又ハ追加特許料ノ納付ヲ急リタル場合ニ於テ本法施行ノ際未タ其ノ特許又ハ追加特許ノ取扱又キモニ付テハ本法施行ノ日ヨリ六月

第一百四十五條 特許料又ハ追加特許料ニ付急リタル場合ニ於テ本法施行ノ際未タ其ノ特許又ハ追加特許料ノ取扱又キモニ付テハ本法施行ノ日ヨリ六月

タル場合ニ於テハ最初ノ査定ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ三十日ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六條 實用新案權ハ登録ニ依リ發生ス

實用新案權者ハ其ノ登録實用新案ニ係ル物品ヲ業トシテ製作、使用、販賣又ハ擴布スルノ權利ヲ專有ス

若ハ分割ノ許可ニ關シテハ本法施行後ニ特許又ハ特許アリタル場合ト雖舊法第四十九條ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ同條ノ規定ノ適用ノ範圍内ニ於テ同

ノ效力ヲ有シ同條ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ特許又ハ特許三掲タル舊法ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ特許又ハ特許カ同條第一項各號ノ一二該當スル場合ニ限りト得ス

第七條 實用新案登録出願ノ際現ニ善意ニ帝國內ニ各號ノ一二該當シ帝國內ニ於テ其ノ實用新案實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業設備ヲ有スル者ハ其ノ登録實用新案ノ付事業ノ目的タル

實用新案範圍内ニ於テ實施権ヲ有ス

第八條 登録ノ無効審判請求ノ登録前善意ニシテ左ノ各號ノ一二該當シ帝國內ニ於テ其ノ實用新案實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業設備ヲ有スル者ハ其ノ登録實用新案ノ付事業ノ目的タル

實用新案範圍内ニ於テ實施権ヲ有ス

一 同一又ハ類似ノ實用新案ニ對スルニ以上ノ登録中其ノ一カ無効ト爲リタル場合ニ於ケル登録ヲ受ケタル原實用新案權者

二 登錄ヲ無効トシ同一又ハ類似ノ實用新案ニ付正當權利者ノ爲ニ登錄ヲ爲シタル場合ニ於ケル登錄ヲ受ケタル原實用新案權者

三 前二號ニ掲タル場合ニ於テ其ノ無効ト爲リタル實用新案權ニ付實施權ヲ得テ其ノ登錄ヲ受ケタル者但シ實施權カ登錄ナキモ第十三條第一項ノ效

力ヲ有スル場合ハ登錄アルヲ要セス

實用新案登録出願ノ日前又ハ之ト同日ノ出願ニ出願又ハ意匠登録出願又ハ意匠登録出願ノ時ニ於テ

利實用新案權ト抵觸スル特許權又ハ意匠權ノ存續期間滿了シタル場合ニ於テ其ノ特許權又ハ意匠權ニ付實施權ヲ得テ登錄ヲ受ケタル者ハ其ノ登錄實用新案ニ付原實施權カ登錄ナキモ特許法第五十一條第一項ノ

付實施權ヲ得テ登錄ヲ受ケタル者ハ其ノ登錄實用新案ニ付原實施權ノ範圍内ニ於テ実施権ヲ有ス但シ

付實施權ヲ得テ登錄ヲ受ケタル

於テ實施権ヲ有ス

第十條 實用新案権ノ存續期間ハ登録ノ日ヨリ十年

ヲ以テ終了ス

第二十六條 規定ニ依リ準用スル特許法第十一條

ノ規定ニ依リ正當権利者ノ爲ニ登録ヲ爲シタルトキハ

前項ノ十年ノ期間ハ無効ト爲リタル登録ノ爲サレタ

ル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第十一條 實用新案権者ハ他人ノ登録實用新案又ハ

登録意匠ヲ實施スルニ非サレハ自己ノ登録實用新案

ヲ實施スルコト能ハサル場合ニ於テ其ノ他人力正當ノ

理由ナクシテ實施ヲ許諾セサルトキ又ハ其ノ他人ノ實

施許諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ審判ヲ請求スルコト

ヲ得但シ其ノ實施セラルヘキ實用新案又ハ意匠ノ實

用新案権又ハ意匠権發行ノ日ヨリ一年ヲ經過セサル

トキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ登録實用新案又ハ登録意匠ヲ實

施セラル者其ノ實施ヲ必要トスル相手方ノ登録實

用新案ニ付實施ノ許諾ヲ求メタル場合ニ於テ其ノ相

手方カ正當ノ理由ナクシテ實施ヲ許諾セサルトキ又ハ

其ノ相手方ノ實施許諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ審判

ヲ請求スルコトヲ得

第十二條 前條ノ規定ニ依ル實施権者ハ實用新案権

者又ハ意匠権者ニ對シ相當ノ補償金ヲ支拂フヘシ

前項ノ實施権者ハ補償金ノ支拂ヲ爲シ又ハ支拂ヲ

爲スコト能ハサル場合ニ於テハ供託ヲ爲スニ非サレハ

其ノ登録實用新案又ハ登録意匠ヲ實施スルコトヲ得

ス但シ審決又ハ判決ノ確定前ト雖審決又ハ判決ニ依

ル補償金ニ相當スル金額ヲ供託シタルトキハ實施スル

コトヲ得

第十三條 登録實用新案ノ實施権ハ之ヲ登録シタルト

キハ其ノ實用新案権ヲ爾後取得シタル者及其ノ實用

新案権ヲ目的トスル後設定ノ質権ヲ有スル者ニ對

シテモ其ノ效力ヲ生ス

第七條乃至第九條又ハ第二十六條ノ規定ニ依リ準

用スル特許法第十四條第二項ノ規定ニ依ル實施権

ハ其ノ登録ナキ場合ト雖前項ノ效力ヲ有ス

第七條乃至第九條又ハ第二十六條ノ規定ニ依リ準

用スル特許法第十四條第二項ノ規定ニ依ル實施権

ノ規定ニ依ル補償金ノ額ノ審決ニ付テハ此ノ限ニ在ラ

ス

第十四條 許可カ同條第二項又ハ前條ノ規定ニ違

反シタルトキハ審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ

一號乃至第三號ニ掲タルモノニ準スヘキモノナルト

キ

第十五條 許可カ同條第二項又ハ前條ノ規定ニ違

反シタルトキハ審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ

二前項ノ規定ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ

第十六條 特許局ニ實用新案原簿ヲ備ヘ實用新案権

及實施権並之ヲ目的トスル質権ノ設定、保存、移轉、消

滅、處分ノ制限其ノ他法令ニ定ムル事項ヲ登

第十七條 特許局ニ實用新案原簿ヲ備ヘ實用新案権

及實施権並之ヲ目的トスル質権ノ設定、保存、移轉、消

滅、處分ノ制限其ノ他法令ニ定ムル事項ヲ登

第十八條 登録スヘシトノ査定若ハ審決確定シ又ハ判

決アリタルトキハ之ヲ實用新案原簿ニ登録シ實用新

案登録證ヲ下付ス第十四條ノ許可ノ審決確定シ又

ハ判決アリタルトキ亦同シ

第十九條 特許局ハ實用新案公報ヲ發行シ登録實用

新案ニ關スル必要ナル事項ヲ之ニ記載スヘシ但シ軍

事上秘密ヲ要スル登録實用新案ニ付テハ此ノ限ニ在

ラス

第二十條 實用新案ノ登録ヲ受クル者又ハ登録證主ハ登録料トシテ毎件左ノ金額ヲ納付スヘシ

二 第四年乃至第六年 每年 一十五圓

三 第七年乃至第十年 每年 七圓

四 第一年乃至第三年 每年 二十圓

五 第二十二條 審判ハ本法又ハ本法ニ基ギテ發スル

獨立シテ新規ノ實用新案ナルコトヲ要ス

上擴張シ又ハ實質上變更スルコトヲ得ス

官ヲシテ之ヲ審査セシム

第二十三條 前條第一項第一號ノ無効ノ審判ハ實用

新案ノ登録又ハ第十四條ノ許可ノ登録ノ日ヨリ三

年ヲ經過シタルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

二 實用新案権ノ範圍ノ確認

前項第一號ノ無効ノ審判ハ利害關係人及審查官ニ

限リ之ヲ請求スルコトヲ得但シ審査官ハ第四條ノ規

定ニ違反シ又ハ第十六條第一項第三號ニ該當スト

ノ理由ニ依ル無効ノ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

三 登錄カ第二十六條ノ規定ニ依リ準用スル特許

シテ爲サレタルトキ

法第三十二條ノ規定ニ違反シテ爲サレタルトキ

又ハ登録ヲ受クルノ權利ヲ冒認シタル者ノ爲ニ爲

サレタルトキ

四 登錄カ第二十六條ノ規定ニ依リ準用スル特許

法第三十三條ニ規定スル條約又ハ之ニ準スヘキモ

ノニ違反シテ爲サレタルトキハ之ヲ違反カ第一

號乃至前號ニ掲タルモノニ準スヘキモノナルトキ

五 登錄カ第二十六條ノ規定ニ依リ準用スル特許

法第三十二條ノ規定ニ違反スルニ至リタルトキ又ハ特

許法第三十三條ニ規定スル條約若ハ之ニ準スヘキ

モノニ違反スルニ至リタル場合ニ於テ其ノ違反カ第

一號乃至第三號ニ掲タルモノニ準スヘキモノナルト

キ

六 登錄カ第二十六條ノ規定ニ依リ準用スル特許

法第三十二條ノ規定ニ違反スルニ至リタルトキ又ハ特

許法第三十三條ニ規定スル條約若ハ之ニ準スヘキ

モノニ違反スルニ至リタル場合ニ於テ其ノ違反カ第一

號乃至前號ニ掲タルモノニ準スヘキモノナルトキ

六 登錄カ第二十六條ノ規定ニ依リ準用スル特許

法第三十二條ノ規定ニ違反スルニ至リタルトキ又ハ特

許法第三十三條ニ規定スル條約若ハ之ニ準スヘキ

モノニ違反スルニ至リタル場合ニ於テ其ノ違反カ第一

號乃至前號ニ掲タルモノニ準スヘキモノナルトキ

七 登錄カ第二十六條ノ規定ニ依リ準用スル特許

法第三十二條ノ規定ニ違反スルニ至リタルトキ又ハ特

許法第三十三條ニ規定スル條約若ハ之ニ準スヘキ

モノニ違反スルニ至リタル場合ニ於テ其ノ違反カ第一

號乃至前號ニ掲タルモノニ準スヘキモノナルトキ

八 登錄カ第二十六條ノ規定ニ依リ準用スル特許

法第三十二條ノ規定ニ違反スルニ至リタルトキ又ハ特

許法第三十三條ニ規定スル條約若ハ之ニ準スヘキ

モノニ違反スルニ至リタル場合ニ於テ其ノ違反カ第一

號乃至前號ニ掲タルモノニ準スヘキモノナルトキ

九 第二十一條 實用新案登録ノ出願アリタルトキハ審査セシム

十 第二十二條 審判ハ利害關係人ニ付之ヲ請求スルコトヲ得

十一 第二十三條 前條第一項第一號ノ無効ノ審判ハ利害關係人ニ付之ヲ得

十二 第二十四條 第二十一條ノ規定ニ依リ準用スル特許

法第三十二條ノ規定ニ依リ準用スル特許

同一又ハ類似ノ意匠ニ對スルニ以上ノ登録中

其ノ一カ無効ト爲リタル場合ニ於ケル登録ヲ受ケタル原意匠権者

二 登録ヲ無効トシ同一又ハ類似ノ意匠ニ付正當権利者ノ爲ニ登録ヲ爲シタル場合ニ於ケル登録ヲ受ケタル原意匠権者

三 前二號ニ掲タル場合ニ於テ其ノ無効ト爲リタル意匠権ニ付實施権ヲ得テ其ノ登録ヲ受ケタル者但シ実施権カ登録ナキモ第十五條第一項ノ效力ヲ有スル場合ハ登録アルヲ要セス

意匠登録出願ノ日前又ハ之ト同日ノ出願ニ係リ其ノ意匠権ト抵觸スル實用新案権ノ存續期間満了シタル場合ニ於テ其ノ實用新案権ニ付實施権ヲ得テ登録ヲ受ケタル者ハ其ノ登録意匠ニ付原實施権ノ範圍内ニ於テ實施権ヲ有ス但シ原實施権カ登録ナキモ實用新案法第十三條第一項ノ效力ヲ有スル場合ハ登録アルヲ要セス

意匠権者ハ前二項ノ規定ニ依ル實施権者ヨリ相當ノ補償金ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第十二條 意匠権ノ存續期間ハ登録ノ日ヨリ十年ヲ以テ終了ス

第十一條 意匠登録出願ノ日前又ハ之ト同日ノ出願ニ係リ其ノ意匠権ト抵觸スル實用新案権ノ存續期間満了後ニ於ケル原實施権カ登録ナキモ實用新案法第十一條又ハ第二十五條ノ規定ニ依リ其ノ登録出願ノ日前又ハ之ト同日ノ出願ニ係リ其ノ意匠権ノ存續期間ハ登録ノ日ヨリ十年ヲ以テ終了ス

第十五條 登録意匠ノ實施権ハ之ヲ登録シタルトキハス但シ審決又ハ判決ノ確定前ト雖審決又ハ判決ニ依ル補償金ヲ相當スル金額ヲ供託シタルトキハ實施

ス但シ審決又ハ判決ノ確定前ト雖審決又ハ判決ニ依ル補償金ヲ相當スル金額ヲ供託シタルトキハ實施

スルコトヲ得

第十五條 登録意匠ノ實施権ハ之ヲ登録シタルトキハス但シ審決又ハ判決ノ確定前ト雖審決又ハ判決ニ依ル補償金ヲ相當スル金額ヲ供託シタルトキハ實施

ス但シ審決又ハ判決ノ確定前ト雖審決又ハ判決ニ依ル補償金ヲ相當スル金額ヲ供託シタルトキハ實施

スルコトヲ得

第十五條 登録意匠ノ實施権ハ之ヲ登録シタルトキハス但シ審決又ハ判決ノ確定前ト雖審決又ハ判決ニ依ル補償金ヲ相當スル金額ヲ供託シタルトキハ實施

ス但シ審決又ハ判決ノ確定前ト雖審決又ハ判決ニ依ル補償金ヲ相當スル金額ヲ供託シタルトキハ實施

スルコトヲ得

第十五條 登録意匠ノ實施権ハ之ヲ登録シタルトキハス但シ審決又ハ判決ノ確定前ト雖審決又ハ判決ニ依ル補償金ヲ相當スル金額ヲ供託シタルトキハ實施

スルコトヲ得

者又ハ意匠権者ニ對シ相當ノ補償金ヲ支拂フヘシ

前項ノ實施権者ハ補償金ノ支拂ヲ爲シ又ハ支拂ヲ

爲スコト能ハサル場合ニ於テハ供託ヲ爲スニ非サレハ

其ノ登録實用新案又ハ登録意匠ノ實施スルコトヲ得

ス但シ審決又ハ判決ノ確定前ト雖審決又ハ判決ニ

依ル補償金ヲ相當スル金額ヲ供託シタルトキハ實施

スルコトヲ得

第十九條 登録スヘシトノ查定若ハ審決確定シ又ハ判

決アリタルトキハ之ヲ意匠原簿ニ登録シ意匠登録證

ヲ下付ス

第二十條 意匠ノ登録ヲ受クル者又ハ登録證主ハ登

錄料トシテ毎件左ノ金額ヲ納付スヘシ

一 第一年乃至第三年 每年 三圓

二 第四年乃至第十一年 每年 五圓

三 自己ノ登録意匠ニ類似スル意匠ノ登録ヲ受クル者ハ

其ノ登録ヲ受クル時登録料トシテ毎件一時ニ三圓ヲ

力ヲ生ス

第九條乃至第十一條又ハ第二十五條ノ規定ニ依リ

準用スル特許法第十四條第二項ノ規定ニ依ル實施

権ハ其ノ登録ナキ場合ト雖前項ノ效力ヲ有ス

第十三條ノ規定ニ依ル實施権ハ其ノ登録前設定ノ

質權ヲ有スル者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ス

特許法第四十五條ノ規定ハ實施権ノ移轉、變更、消滅若ハ處分ノ制限又ハ實施権ヲ目的トスル質權ノ設

定、移轉、變更、消滅若ハ處分ノ制限ニ付之ヲ準用ス

ノ規定ニ依リ正當権利者ノ爲ニ登録ヲ爲シタルトキハス

ハ前項ノ十年ノ期間ハ無効ト爲リタル登録ノ爲サレタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第十三條 意匠権者ハ他人ノ登録實用新案又ハ登録

意匠ヲ實施スルニ非サレハ自己ノ登録意匠ヲ實施ス

ルコト能ハサル場合ニ於テ其ノ正當ノ理由ナクシテ實施ヲ許諾セサルトキ又ハ其ノ他人ノ實施許諾

ヲ得ルコト能ハサルトキハ審判ヲ請求スルコトヲ得但シ其ノ實施セラルヘキ實用新案又ハ意匠ノ實用新案権又ハ意匠権發生ノ日ヨリ二年ヲ經過セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ登録實用新案又ハ登録意匠ヲ實施セラル者其ノ實施ヲ必要トスル相手方ノ登録意匠ニ付實施ノ許諾ヲ求タル場合ニ於テ其ノ相手方

カ正當ノ理由ナクシテ實施ヲ許諾セサルトキ又ハ其ノ相手方ノ實施許諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ審判ヲ

請求スルコトヲ得

第十八條 特許局ニ意匠原簿ヲ備ヘ意匠権及實施権

反対第一號乃至第三號ニ掲タルモノニ準スヘキモ

ノナルトキ

第十九條 登録カ第二十五條ノ規定ニ違反スルトキハ之ヲ受クルノ權利ノ承繼人ニ非サル者

又ハ登録ヲ受クルノ權利ヲ冒認シタル者ノ爲ニ爲

サレタルトキ

四 登録カ第二十五條ノ規定ニ依リ準用スル特許

法第三十三條ニ規定スル條約又ハ之ニ準スヘキモ

ノニ違反シテ爲サレタル場合ニ於テ其ノ違反カ第

一號乃至前號ニ掲タルモノニ準スヘキモノナルトキ

反対第一號乃至第三號ニ掲タルモノニ準スヘキモ

ノナルトキ

第十九條 登録カ第二十五條ノ規定ニ依リ準用スル特許

法第三十二條ノ規定ニ違反シテ爲サレタルトキハ

之ヲ受クルノ權利ノ承繼人ニ限ニ之

又ハ登録ヲ受クルノ權利ノ承繼人ニ非サル者

又ハ登録ヲ受クルノ權利ヲ冒認シタル者ノ爲ニ爲

サレタルトキ

第二十條 意匠ノ登録ヲ受クル者又ハ登録證主ハ登

錄料トシテ毎件左ノ金額ヲ納付スヘシ

一 第一年乃至第三年 每年 三圓

二 第四年乃至第十一年 每年 五圓

三 自己ノ登録意匠ノ登録料ヲ納付スヘシ

其ノ登録ヲ受クル時登録料トシテ毎件一時ニ三圓ヲ

力ヲ生ス

者又ハ意匠権者ニ對シ相當ノ補償金ヲ支拂フヘシ

前項ノ實施権者ハ補償金ノ支拂ヲ爲シ又ハ支拂ヲ

爲スコト能ハサル場合ニ於テハ供託ヲ爲スニ非サレハ

其ノ登録實用新案又ハ登録意匠ノ實施スルコトヲ得

ス但シ審決又ハ判決ノ確定前ト雖審決又ハ判決ニ

依ル補償金ヲ相當スル金額ヲ供託シタルトキハ實施

スルコトヲ得

第十九條 登録スヘシトノ查定若ハ審決確定シ又ハ判

決アリタルトキハ之ヲ意匠原簿ニ登録シ意匠登録證

ヲ下付ス

第二十條 意匠ノ登録ヲ受クル者又ハ登録證主ハ登

錄料トシテ毎件左ノ金額ヲ納付スヘシ

一 第一年乃至第三年 每年 三圓

二 第四年乃至第十一年 每年 五圓

三 自己ノ登録意匠ノ登録料ヲ納付スヘシ

其ノ登録ヲ受クル時登録料トシテ毎件一時ニ三圓ヲ

力ヲ生ス

第九條乃至第十一條又ハ第二十五條ノ規定ニ依リ

準用スル特許法第十四條第二項ノ規定ニ依ル實施

権ハ其ノ登録ナキ者又ハ登録證主ハ其ノ意匠権ヲ付原

特許法第四十五條ノ規定ハ實施権ノ移轉、變更、消滅若ハ處分ノ制限又ハ實施権ヲ目的トスル質權ノ設

定、移轉、變更、消滅若ハ處分ノ制限ニ付之ヲ準用ス

ノ規定ニ依リ正當権利者ノ爲ニ登録ヲ爲シタルトキハス

ハ前項ノ十年ノ期間ハ無効ト爲リタル登録ノ爲サレタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第十三條 意匠権者ハ他人ノ登録實用新案又ハ登録

意匠ヲ實施スルニ非サレハ自己ノ登録意匠ヲ實施ス

ルコト能ハサル場合ニ於テ其ノ正當ノ理由ナクシテ

シテ實施ヲ許諾セラルヘキ實用新案又ハ意匠ノ實用新案

権又ハ意匠権發生ノ日ヨリ二年ヲ經過セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第一項及第一百四條乃至第二百二十八條ノ規定ハ

意匠ニ關シ之ヲ準用ス

第二十六條 左ノ各號ノ一二該當スル者ハ三年以下

ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 他人ノ登錄意匠ニ係ル物品ト同一ノ物品ヲ業

トシテ製作、使用、販賣又ハ擴布シタル者

二 他人ノ登錄意匠ニ係ル物品ト類似ノ物品ヲ業

トシテ製作、使用、販賣又ハ擴布シタル者

三 他人ノ登錄意匠ニ係ル物品ト同一又ハ類似ノ

物品ヲ業トシテ輸入又ハ移入シタル者

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二十七條 左ノ各號ノ一二該當スル者ハ一年以下

ノ懲役又ハ一千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 詐偽ノ行為又以テ意匠ノ登錄ヲ受ケ又ハ審決

若ハ判決ヲ受ケタル者

二 登錄意匠ニ係ラサル物品又ハ其ノ物品ノ容器

包装ノ類ニ意匠登錄標記ヲ附シ又ハ意匠標記ニ

紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

三 登錄意匠ニ係ラサル物品ニシテ其ノ物品又ハ其

ノ物品ノ容器包装ノ類ニ意匠登錄標記ヲ附シ又ハ

ハ意匠登錄標記ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタルモノヲ

販賣又ハ擴布シタル者

四 登錄意匠ニ係ラサル物品ヲ製作若ハ使用セシム

ル爲又ハ販賣若ハ擴布スル爲廣告、看板、引札ノ

類ニ其ノ物品カ登錄意匠ニ係ルコトヲ表示シ又ハ

之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

第五條 第二十八條第一項ニ掲クル行爲ヲ組成

九條ノ規定ニ依リ沒收スルコトヲ得ヘキモノニ付判決

言渡前被害者ノ請求アリタルトキハ其ノ物ヲ沒收シ之

ヲ被害者ニ交付スルノ言渡ヲ爲スヘシ

被害者ハ前項ノ規定ニ依ル物ノ交付ヲ受ケタル場

合ニ於テハ其ノ物ノ價額ヲ超過スル損害ノ額ニ限り

賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第二十九條 法律ニ依リ宣誓シタル證人若ハ鑑定人

又ハ通事特許局又ハ其ノ囁託ヲ受ケタル裁判所若ハ

官廳ニ對シ虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以上十

年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者事件ノ査定又ハ審決ニ至ラサ

ル前自白シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第三十條 特許局職員又ハ其ノ職ニ在タル者故に

其ノ職務上知得タル意匠登錄出願中ノ考案又ハ意匠登錄出願者ノ事業上ノ祕密ヲ漏泄シ又ハ竊用シ

タルトキハ一年以下ノ懲役又ハ一千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 特許局ヨリ證人、鑑定人又ハ通事トシテ呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セヌ又

ハ其ノ義務ヲ盡ササルトキハ五十圓以下ノ過料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付之ヲ準用ス

第三十二條 辨理士ニ非シテ特許局ニ對シ意匠ニ關シ爲スベキ事項ノ代理業ヲ營ミタル者ハ一年以下

ノ懲役又ハ一千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十三條 附 則

第三十三條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條 舊法ニ依ル意匠ノ登錄、處分及手續ハ本附則ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本法ニ依リ爲

シタルモノト看做ス

舊法ニ依リ意匠ニ關シ爲シタル出願請求其ノ他ノ手續ニ付亦前項ニ同シ

第三十五條 本法施行ノ際現ニ繫屬スル意匠登錄ノ出願ノ處理ニ付テハ仍舊法ニ依ル

第三十六條 本法施行前發生シタル意匠權ニ關シテハ舊特許法第二十九條第二號ノ規定ハ仍其ノ效力

ヲ有シ同號ノ規定ヲ準用シ第九條ノ規定ハ之ヲ適用セス

第三十七條 意匠ノ登錄カ舊法施行中無效ト爲リタル場合ニ付テハ舊法第十條ノ規定及同條ノ規定ニ基キ準用スル舊特許法ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ第十條ノ規定ハ之ヲ適用セス

第三十八條 本法施行前既ニ納メタル又ハ納付スヘキ期限ノ經過シタル意匠料ニ付テハ仍舊法ニ依ル

第三十九條 意匠料ノ納付ヲ怠リタル場合ニ於テ本法施行ノ際未タ其ノ意匠登錄ノ取消ナキモノニ付ハスコトヲ得此ノ場合ニ於テハ舊法ニ依ル意匠料ノ二倍ニ相當スル金額ヲ意匠料トシテ納付スベシ

前項ニ規定スル追納期間内ニ意匠料ヲ追納セサルトキハ本法施行ノ時ニ遡リ意匠權ハ消滅シタルモノト看做ス

第三十條 舊法ニ依ル意匠ノ登錄ニ關シテハ本法施行ニ後ニ登錄名爲サレタル場合ト雖舊法第十二條ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ同條ノ規定ノ適用ノ範圍内ニ

テ同條ニ掲クル舊法ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ登錄カ同條ノ規定ニ該當スル場合ニ限リ審判ニ依リ之ヲ無效ト爲スベシ

第七章 商標法改正法律案 第一讀會

商標法改正法律案

商標法

ハ販賣ノ營業ニ係ル商品ナルコトヲ表彰スル爲商標ヲ專用セムトスル者ハ商標ノ登錄ヲ受クルコトヲ得

又ハ其ノ結合ニシテ特別顯著ナルモノナルコトヲ要ス商標ハ之ニ施スベキ色ヲ限定シテ登錄ヲ受クルコトヲ得

第三條 自己ノ生產、製造、加工、選擇、證明、取扱又

ハ販賣ノ營業ニ係ル商品ナルコトヲ表彰スル爲商標

ノ登錄ヲ受クルコトヲ得ヘキ商標ハ文字、圖形若ハ記號

又ハ其ノ結合ニシテ特別顯著ナルモノナルコトヲ得

三 白地ニ赤十字ノ記章又ハ赤十字若ハ「ジエヌ

一 菊花御紋章ト同一又ハ類似ノ圖形ヲ有スルモノ

二 國旗、軍旗、勳章、褒章、記章又ハ外國ノ國旗ト

同一又ハ類似ノモノ

三 白地ニ赤十字ノ記章又ハ赤十字若ハ「ジエヌ

四 秩序又ハ風俗ヲ素ルノ虞アルモノ

五 他人ノ肖像、氏名名稱又ハ商號ヲ有スルモノ但シ其ノ他人ノ承諾ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラス

六 同一又ハ類似ノ商品ニ慣用スル標準章ト同一又ハ類似ノモノ

七 政府ノ開設シ道府縣若ハ之ニ準スベキモノノ開設シ若ハ政府ノ認可ヲ得テ開設スル博覽會又ハ外國ニ於ケル官設若ハ官許ノ博覽會ノ賞牌、賞狀又ハ褒狀ト同一又ハ類似ノ圖形ヲ有スルモノ但シ其ノ賞牌、賞狀又ハ褒狀ヲ受領シタル者カ其ノ商標ノ一部トシテ其ノ圖形ヲ使用セムトスルトキハ此ノ限ニ在ラス

八 取引者又ハ需要者ノ間ニ廣く認識セラル他人ノ標準章ト同一又ハ類似ニシテ同一又ハ類似ノ商品ニ使用スルモノ

九 他人ノ登錄商標ト同一又ハ類似ニシテ同一又ハ類似ノ商品ニ使用スルモノ

十 登錄失效ノ日ヨリ一年ヲ經過セサル他人ノ商標ト同一又ハ類似ニシテ同一又ハ類似ノ商品ニ使用スルモノ但シ其ノ他人ノ商標カ登錄失效前一年以上

十一 商品ノ誤認又ハ混同ヲ生セシムルノ虞アルモノ

商標ノ要部ト認メラルルノ虞アル部分カ分離シテハ前項ニ規定スル特別顯著ノ要件ヲ具備セサル爲

又ハ前項第六號ニ該當スル爲登錄ヲ受クルコトヲ得

サルモノナル場合ト雖出願人カ其ノ部分自體ニ付權利ヲ要求セサル旨ヲ申出テタルトキハ其ノ商標ヲ登録ス

第三條 同一商品ニ使用スヘキ自己ノ商標ニシテ相類似スルモノ又ハ類似ノ商品ニ使用スヘキ自己ノ商標ヲ登録シテ同一ノモノ若ハ相類似スルモノハ聯合ノ商標トシテ出願シタル場合ニ限り之ヲ登録ス

第四條 同一又ハ類似ノ商品ニ使用スヘキ同一又ハ類似ノ商標ニ付各別ノ登録出願力競合スルトキハ最先ノ出願者ニ限り登録ス但シ同日ノ各別ノ出願者アルトキハ出願者ノ協議ニ依リ登録シ協議調ハサルトキハ共ニ登録セス

政府ノ開設シ道府縣若ハ之ニ準スヘキモノノ開設シ若ハ政府ノ認可ヲ得テ開設スル博覽會又ハ工業所有權保護同理條約國ノ根據國內ニ開設官許ノ萬國博覽會ニ出品シタル商品ニ使用シタル商品許ノ萬國博覽會ニ出品シタル商品ニ使用シタル商品ノ出願シタルトキハ其ノ開會ノ

標ニ付其ノ開會ノ日ヨリ六月以内ニ其ノ商標ノ使用者カ其ノ商標ニ登録ヲ出願シタルトキハ其ノ開會ノ日ニ於テ出願シタルモノト看做ス

前項ノ規定ハ命令ヲ以テ前項ニ規定スル出品ニ付豫メ届出ツヘキコトヲ規定シタル場合ニ於テ其ノ届出ヲ怠リタル者ニ付之ヲ適用セス

第二項ニ掲タル萬國博覽會ヲ除クノ外國ノ版圖内ニ開設スル官設又ハ官許ノ博覽會ニ出品スル商品ニ使用スル商標ニ付保護ヲ與フルノ必要アルトキハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 商標登録出願者ノ命令ニ定ムル類別内ニ於テ其ノ商標ヲ使用スヘキ商品ヲ指定スベシ

第六條 商標ノ登録出願ヨリ生シタル權利ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限り之ヲ移轉スルコトヲ得

商標登録出願ヨリ生シタル權利カ共有ニ係ル場合ニ於テハ各共有者ハ他ノ共有者ノ同意アルニ非サレハ其ノ持分ヲ譲渡スルコトヲ得ス

商標ノ登録出願ヨリ生シタル權利ノ承繼ハ承繼人カ出願人名義ニ變更ヲ届出ツルニ非サレハ之ヲ以テ第

三者ニ對抗スルコトヲ得ス但シ同日ノ届出ニ係ルトキハ關係者ノ協議ニ依リ協議調ハサルトキハ共ニ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

商標ノ登録出願ヨリ生シタル權利ノ承繼ハ承繼人カ出願人名義ニ變更ヲ届出ツルニ非サレハ之ヲ以テ第

三者ニ對抗スルコトヲ得ス但シ同日ノ届出ニ係ルトキハ關係者ノ協議ニ依リ協議調ハサルトキハ共ニ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

商標ノ登録出願ヨリ生シタル權利カ其ノ登録

第三條 同一商品ニ依リ指定シタル商品ニ付

其ノ商標ヲ専用スルノ權利ヲ有ス商標權カ其ノ登録

商標ノ使用ノ態様ニ依リ其ノ出願ノ日前ノ出願ニ係ル意匠權ト抵觸スル場合ニ於テハ商標權者ハ意匠權者ノ實施許諾アルニ非サレハ其ノ態様ニ於テ登録商

標ヲ使用スルコトヲ得ス

第八條 商標權ノ效力ハ普通ニ使用セラル方法ヲ以テ自己ノ氏名名稱若ハ商號又ハ其ノ商品ノ普通名稱、產地、品位、品質、效能、用途、製法、時期、數量、後惡意ヲ以テ氏名名稱又ハ商號ヲ使用シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

商標權ノ效力ハ第二條第二項ノ規定ニ依リ権利ヲ要求セサル旨ヲ申出テタル部分自體ニ及ハス

第九條 他人ノ登録商標ノ登録出願前ヨリ同一又ハ類似ノ商品ニ付取引者又ハ需要者ノ間ニ廣ク認識セラレタル同一又ハ類似ノ標章ヲ善意ニ使用スル者ハ其ノ他人ノ商標ノ登録ニ拘ラス其ノ使用ヲ繼續スルコトヲ得營業又ハ業務ト共ニ其ノ標章ノ使用ヲ承継シタル者亦同シ

前項ノ場合ニ於テ商標權者ハ標章使用者ニ對シ商品ノ混同ヲ防クニ適當ナル表示ヲ爲スヘキコトヲ請求スルコトヲ得

第十條 商標權ノ存續期間ハ登録ノ日ヨリ二十年ヲ以テ終了ス

第十一條 前條ノ存續期間ハ更新登録ノ出願ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得但シ其ノ更新登録ノ出願ニ係ル商標カ第一條第二項第一號乃至第四號第六號第七號又ハ第十一號ニ該當スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 商標權ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限り之ヲ移轉スルコトヲ得

商標權ハ第五條ノ規定ニ依リ指定シタル商品ニ依リ之ヲ分割シテ移轉スルコトヲ得

聯合ノ商標ノ商標權ハ分離シテ之ヲ移轉スルコトヲ得ス

商標權カ共有ニ係ル場合ニ於テハ各共有者ハ他ノ共有者ノ同意アルニ非サレハ其ノ持分ヲ譲渡スルコトヲ得ス

商標權ハ第五條ノ規定ニ依リ指定シタル商品ニ依リ之ヲ分割シテ移轉スルコトヲ得

聯合ノ商標ノ商標權ハ分離シテ之ヲ移轉スルコトヲ得ス

商標權カ共有ニ係ル場合ニ於テハ各共有者ハ他ノ共有者ノ同意アルニ非サレハ其ノ持分ヲ譲渡スルコトヲ得ス

商標權ハ第五條ノ規定ニ依リ指定シタル商品ニ依リ之ヲ分割シテ移轉スルコトヲ得

聯合ノ商標ノ商標權ハ分離シテ之ヲ移轉スルコトヲ得ス

商標權ハ第五條ノ規定ニ依リ指定シタル商品ニ依リ之ヲ分割シテ移轉スルコトヲ得

聯合ノ商標ノ商標權ハ分離シテ之ヲ移轉スルコトヲ得ス

商標權ハ第五條ノ規定ニ依リ指定シタル商品ニ付

其ノ商標ヲ専用スルノ權利ヲ有ス商標權カ其ノ登録

商標ノ使用ノ態様ニ依リ其ノ出願ノ日前ノ出願ニ係ル意匠權ト抵觸スル場合ニ於テハ商標權者ハ意匠權者ノ實施許諾アルニ非サレハ其ノ態様ニ於テ登録商

引續キ三年間其ノ商標ノ使用ヲ中止シタルトキ但シ第五條ノ規定ニ依リ指定シタル商品中其ノ一二

使用シ又ハ聯合ノ商標中其ノ一ヲ使用シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

二 商標權ノ移轉アリタル場合ニ於テ其ノ相續ニ依ルモノヲ除クノ外移轉アリタル日ヨリ一年以内ニ商標移轉ノ登録ヲ申請セサルトキ

外國ノ登録商標トシテ登録ヲ受ケタル商標ニ付テハ前項第一號ノ規定ヲ適用セス

商標權者又ハ請求人ハ第一項ノ規定ニ依ル登録取消ノ處分又ハ第一項ノ請求ノ却下ニ對シ不服アルトキハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第十五條 商標者故意ニ其ノ登録商標ニ商品ノ誤認又ハ混同ヲ生セシムルノ虞アル附記又ハ變更ヲ爲シテ之ヲ使用シタルトキハ審判ニ依リ商標ノ登録ヲ取消スヘシ

前項ノ規定ニ依リ商標ノ登録ヲ取消セラレタルトキハ審議確定シ又ハ判決アリタル日ヨリ五年間同一又ハ類似ノ商品ニ付同ニハ類似ノ商標ノ登録ヲ受クノコトヲ得

第十六條 商標ノ登録カ左ノ各號ノ一一該當スルコトハ審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ

第十七條 商標ノ登録カ第一條乃至第四條又ハ前條第二項ノ規定ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ

第十八條 商標ノ登録カ左ノ各號ノ一一該當スルコトハ審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ

第十九條 商標ノ登録カ左ノ各號ノ一一該當スルコトハ審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ

第二十條 商標カ第二十四條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第三十二條ノ規定ニ違反シテ爲サレタルトキ

三 登錄カ商標ノ登録出願ヨリ生シタル權利ノ承繼ハ審判ニ依リ之ヲ無効ト爲サレタルトキ

四 登錄カ第二十四條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第三十三條ニ規定スル條約又ハ之ニ準スヘキモニ違反シテ爲サレタルトキ

五 登錄カ第二十四條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第三十二條ノ規定ニ違反スルニ至リタルトキ又ハ特許法第三十三條ニ規定スル條約若ハ之ニ準スヘキモノニ違反スルニ至リタルトキ

反カ第一號乃至第三號ニ掲タルモノニ準スヘキモノニ違反スルニ至リタルトキ

法第三十二條ノ規定ニ違反スルニ至リタルトキ又ハ特許法第三十三條ニ規定スル條約若ハ之ニ準スヘキモノニ違反スルニ至リタルトキ

商標權存續期間更新ノ登錄カ左ノ各號ノ一二該當スルトキハ審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ

二 登錄カ商標權者ニ非サル爲ニ爲サレタルトキ

商標又ハ商標權存續期間更新ノ登錄ハ商標權消滅後ト雖前二項ノ規定ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ

第十七條 特許局ニ商標原簿ヲ備ヘ商標権ノ設定、移轉、變更、消滅其ノ他法令ニ定ムル事項ヲ登録ス。登録ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム。

第十八條 登録スヘシトノ查定若ハ審決確定シ又ハ判決アリタルトキハ之ヲ商標原簿ニ登録ス。

第十九條 特許局ハ商標公報ヲ發行シ本法ニ規定スル事項其ノ他登録商標ニ關スル必要ナル事項ヲ之ニ記載スヘシ。

第二十條 商標ノ登録ヲ受クル者ハ其ノ登録ヲ受クル時登録料トシテ每件一時ニ三十圓ヲ納付スヘシ。

商標権存續期間更新ノ登録ヲ受クル者ハ其ノ登録ヲ受クル時登録料トシテ每件一時ニ五十圓ヲ納付ス。

第二十一條 商標又ハ商標権存續期間更新ノ登録出願アリタルトキハ審査官ヲシテ之ヲ審査セシム。

第二十二條 審判ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ規定スルモノノ外左ニ掲タル事項ニ付之ヲ請求スルコトヲ得。

第二十三條 商標又ハ商標権存續期間更新ノ登録出願アリタルトキハ審査官ヲシテ之ヲ審査セシム。

第二十四條 特許法第十三條、第十六條乃至第三十條、第三十二條第三十三條、第四十五條第五十一条第一項第三項、第六十八條、第七十一條第七十二條第七十三條第一項第二項第四項、第七十依ル場合ハ此ノ限ニ在ラス。

第二十五條 特許法第十三條、第十六條乃至第三十條、第三十二條第三十三條、第四十五條第五十一条第一項第三項、第六十八條、第七十一條第七十二條第七十三條第一項第二項第四項、第七十依ル場合ハ此ノ限ニ在ラス。

第二十六條 商標又ハ商標権存續期間更新ノ登録出願アリタルトキハ審査官ヲシテ之ヲ審査セシム。

第二十七條 商標又ハ商標権存續期間更新ノ登録出願アリタルトキハ審査官ヲシテ之ヲ審査セシム。

第二十八條 商標又ハ商標権存續期間更新ノ登録出願アリタルトキハ審査官ヲシテ之ヲ審査セシム。

第二十九條 商標又ハ商標権存續期間更新ノ登録出願アリタルトキハ審査官ヲシテ之ヲ審査セシム。

第三十條 商標又ハ商標権存續期間更新ノ登録出願アリタルトキハ審査官ヲシテ之ヲ審査セシム。

第三十一條 商標又ハ商標権存續期間更新ノ登録出願アリタルトキハ審査官ヲシテ之ヲ審査セシム。

第三十二條 商標又ハ商標権存續期間更新ノ登録出願アリタルトキハ審査官ヲシテ之ヲ審査セシム。

第三十三條 商標又ハ商標権存續期間更新ノ登録出願アリタルトキハ審査官ヲシテ之ヲ審査セシム。

第三十四條 商標又ハ商標権存續期間更新ノ登録出願アリタルトキハ審査官ヲシテ之ヲ審査セシム。

第三十五條 商標又ハ商標権存續期間更新ノ登録出願アリタルトキハ審査官ヲシテ之ヲ審査セシム。

百二十八條ノ規定ハ商標ニ關シ之ヲ準用ス但シ第73條第一項第一項第四項及第七十四條乃至第七十七條ノ規定ハ商標権存續期間更新ノ登録出願ニ付之ヲ準用セス。

第二十五條 登錄無効ノ審決確定シ又ハ判決アリタル後ニシテ再審請求ノ登錄前ヨリ同一又ハ類似ノ商品ニ付取引者又ハ需要者ノ間ニ廣く認識セラレタル

同一又ハ類似ノ登錄商標ヲ善意ニ使用スル者ハ其ノ登錄商標カ再審ニ依リ登錄ヲ回復シタル商標ニ抵觸

品ニ付取引者又ハ需要者ノ間ニ廣く認識セラレタルス爲第一條第一項第九號ノ規定ニ違反ストノ理由ニ依リ其ノ登錄ヲ無効トセラレタル場合ニ於テモ其ノ商標ヲ使用ヲ繼續スルコトヲ得營業ト共ニ其ノ商

標ノ使用ヲ承繼シタル者亦同シ

第二十六條 営利ヲ目的トセサル業務ニ係ル商品品ノ標章ヲ專用セムトスル者ハ標章ヲ受クルコトヲ得

前項ノ標章ハ之ヲ商標ト看做シ本法中商標ニ關スル規定ヲ之ニ適用ス

第二十七條 同業者及密接ノ關係ヲ有スル營業者ノ團體標章ハ本法ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外之ヲ設立シタル法人ニシテ團體員ノ營業上ノ共同ノ利益但シ審査官ハ第一條第一項第五號第八號乃至第十號第三條若ハ第四條ノ規定ニ違反シ又ハ第十六條第一項第三號若ハ第二項第二號ニ該當ストノ理由ニ依ル無効ノ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

第一項第三號ノ確認ノ審判ハ利害關係人ニ限り之ヲ請求スルコトヲ得

前項第一號ノ取消ノ審判又ハ第二號ノ無効ノ審判ハ利害關係人及審査官ニ限り之ヲ請求スルコトヲ得

但シ審査官ハ第一條第一項第五號第八號乃至第十號第三條若ハ第四條ノ規定ニ違反シ又ハ第十六條第一項第三號若ハ第二項第二號ニ該當ストノ理由ニ依ル無効ノ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

第一項第三號ノ確認ノ審判ハ利害關係人ニ限り之ヲ請求スルコトヲ得

前項第一號ノ取消ノ審判又ハ第二號ノ無効ノ審判ハ利害關係人及審査官ニ限り之ヲ請求スルコトヲ得

但シ審査官ハ第一條第一項第五號第八號乃至第十號第三條若ハ第四條ノ規定ニ違反シ又ハ第十六條第一項第三號若ハ第二項第二號ニ該當ストノ理由ニ依ル無効ノ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

第一項第三號ノ確認ノ審判ハ利害關係人ニ限り之ヲ請求スルコトヲ得

前項第一號ノ取消ノ審判又ハ第二號ノ無効ノ審判ハ利害關係人及審査官ニ限り之ヲ請求スルコトヲ得

但シ審査官ハ第一條第一項第五號第八號乃至第十號第三條若ハ第四條ノ規定ニ違反シ又ハ第十六條第一項第三號若ハ第二項第二號ニ該當ストノ理由ニ依ル無効ノ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

第一項第三號ノ確認ノ審判ハ利害關係人ニ限り之ヲ請求スルコトヲ得

前項第一號ノ取消ノ審判又ハ第二號ノ無効ノ審判ハ利害關係人及審査官ニ限り之ヲ請求スルコトヲ得

但シ審査官ハ第一條第一項第五號第八號乃至第十號第三條若ハ第四條ノ規定ニ違反シ又ハ第十六條第一項第三號若ハ第二項第二號ニ該當ストノ理由ニ依ル無効ノ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

セシメ又ハ團體員ニ非サル者ノ使用ヲ放任シタルトキヲ得ス此ノ場合ニ於テハ第十六條及第二十二條ノ規定ヲ準用ス

第一項ノ規定ニ依リ團體標章ノ登錄ヲ取消サレタル法人ハ取消アリタル日ヨリ五年間同一又ハ類似ノ商品ニ付同一又ハ類似ノ團體標章ノ登錄ヲ受クルコトヲ得ス

第一項ノ規定ニ依リ團體標章ノ登錄ヲ受クル者ハ其ノ登錄商標カ再審ニ依リ登錄ヲ回復シタル商標ニ抵觸

同一又ハ類似ノ登錄商標ヲ善意ニ使用スル者ハ其ノ登錄商標ヲ使用ヲ繼續スルコトヲ得營業ト共ニ其ノ商

標ノ使用ヲ承繼シタル者亦同シ

第二十六條 営利ヲ目的トセサル業務ニ係ル商品品ノ標

前項ノ規定ニ依リ團體標章ハ之ヲ商標ニ關スル規定ヲ之ニ適用ス

第二十七條 同業者及密接ノ關係ヲ有スル營業者ノ團體標章ハ本法ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外之ヲ設立シタル法人ニシテ團體員ノ營業上ノ共同ノ利益但シ審査官ハ第一條第一項第五號第八號乃至第十號第三條若ハ第四條ノ規定ニ違反シ又ハ第十六條第一項第三號若ハ第二項第二號ニ該當ストノ理由ニ依ル無効ノ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

第一項第三號ノ確認ノ審判ハ利害關係人ニ限り之ヲ請求スルコトヲ得

前項第一號ノ取消ノ審判又ハ第二號ノ無効ノ審判ハ利害關係人及審査官ニ限り之ヲ請求スルコトヲ得

但シ審査官ハ第一條第一項第五號第八號乃至第十號第三條若ハ第四條ノ規定ニ違反シ又ハ第十六條第一項第三號若ハ第二項第二號ニ該當ストノ理由ニ依ル無効ノ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

第一項第三號ノ確認ノ審判ハ利害關係人ニ限り之ヲ請求スルコトヲ得

前項第一號ノ取消ノ審判又ハ第二號ノ無効ノ審判ハ利害關係人及審査官ニ限り之ヲ請求スルコトヲ得

但シ審査官ハ第一條第一項第五號第八號乃至第十號第三條若ハ第四條ノ規定ニ違反シ又ハ第十六條第一項第三號若ハ第二項第二號ニ該當ストノ理由ニ依ル無効ノ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

第一項第三號ノ確認ノ審判ハ利害關係人ニ限り之ヲ請求スルコトヲ得

前項第一號ノ取消ノ審判又ハ第二號ノ無効ノ審判ハ利害關係人及審査官ニ限り之ヲ請求スルコトヲ得

但シ審査官ハ第一條第一項第五號第八號乃至第十號第三條若ハ第四條ノ規定ニ違反シ又ハ第十六條第一項第三號若ハ第二項第二號ニ該當ストノ理由ニ依ル無効ノ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

第一項第三號ノ確認ノ審判ハ利害關係人ニ限り之ヲ請求スルコトヲ得

前項第一號ノ取消ノ審判又ハ第二號ノ無効ノ審判ハ利害關係人及審査官ニ限り之ヲ請求スルコトヲ得

一 詐偽ノ行爲ヲ以テ商標若ハ商標權存續期間更
新ノ登錄ヲ受ケ又ハ審決若ハ判決ヲ受ケタル者
二 登錄ヲ受ケサル商標ニシテ商標登錄標記ヲ附シ
賣シ若ハ交付、販賣ノ目的ヲ以テ所持スル者
三 登錄ヲ受ケサル商標ニシテ商標登錄標記ヲ附シ
若ハ商標登錄標記ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタルモノ
ヲ營業ニ用キル廣告看板、引札、物價表ノ類又ハ
取引書類ニ使用シタル者

第三十六條 法律ニ依リ宣誓シタル證人若ハ鑑定人
又ハ通事特許局又ハ其ノ嘱託ヲ受ケタル裁判所若ハ
官廳ニ對シ虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以上
十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者事件ノ査定又ハ審決ニ至ラサ
ル前項ノ事件ノ過料ニ付之ヲ準用ス

第三十七條 特許局ヨリ證人、鑑定人又ハ通事トシテ
呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セヌ又ハ
其ノ義務ヲ盡ササルトキハ五十圓以下ノ過料ニ處ス
非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規
定ハ前項ノ過料ニ付之ヲ準用ス

第三十八條 辨理士ニ非スシテ特許局ニ對シ商標ニ
關シ爲スヘキ事項ノ代理業ヲ營ミタル者ハ一年以下
ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十條 舊法ニ依ル商標又ハ商標權存續期間更
新ノ登錄、處分及手續ハ本附則ニ別段ノ規定アル場
合ヲ除クノ外本法ニ依リ爲シタルモノト看做ス

舊法ニ依リ商標ニ關シ爲シタル出願、請求其ノ他ノ
手續ニ付亦前項ニ同シ

第四十一條 本法施行ノ際現ニ繫屬スル商標若ハ商
標權存續期間更新ノ登錄出願又ハ商標登錄ノ取消
ニ關スル事項ノ處理ニ付テハ仍舊法ニ依ル

第四十二條 舊法ニ依ル商標又ハ商標權存續期間更
新ノ登錄ニ關シテハ本法施行後ニ登錄カ爲サレタル
場合ヲ雖舊法第十一條ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ
同條ノ規定ノ適用ノ範圍内ニ於テ同條ニ掲クル舊法
ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ登錄カ同條ノ規定ニ該當
スル場合ニ限り審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ此ノ
場合ニ於テ舊法附則第二項ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ
有シ同項ノ規定ノ適用ノ範圍内ニ於テ同項ニ掲クル
舊法ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有ス

第九 辨理士法案(政府提出)
第一 読會

第九辨理士法案(政府提出) 辨理士法案

第一條 辨理士ハ特許、實用新案、意匠又ハ商標ニ關シ特許局ニ對シ爲スヘキ事項ノ代理ヲ爲スコトヲ業トスルモノトス

第二條 左ノ條件ヲ具フル者ハ辨理士タル資格ヲ有ス
一 帝國臣民又ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依リ外國ノ國籍ヲ有スル者ニシテ私法上ノ能力者タルコト
二 帝國內ニ住所ヲ有スルコト
三 辨理士試験ニ合格シタルコト
辨理士試験ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第三條 左ノ各號ノ一二ニ該當スル者ハ前條第一項第三號ニ規定スル條件ヲ要セシテ辨理士タル資格ヲ有ス
一 辯護士法ニ依リ辯護士タル資格ヲ有スル者
二 高等試験ノ行政科試験若ハ司法科試験又ハ判事檢査登用試験ニ合格シタル者
三 特許局ニ於テ高等官ニ在職シテ二年以上審判若ハ審査ノ事務ニ從事シタル者又ハ判任以上ノ官ニ在職シテ五年以上審査ノ事務ニ從事シタル者
第四條 左ニ掲タル者ハ辨理士タルコトヲ得ス
一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者但シ六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者ニシテ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ起算シ三年ヲ經過シタルモノハ此ノ限ニ在ラス
二 前號ニ該當スル者ヲ除クノ外第二十一條、特許法第百二十九條、第百三十條、第百三十三條若ハ三百三十五條、實用新案法第二十七條、第二十八條第三十一條若ハ第三十三條、意匠法第二

第十六條 第二十七條、第三十條若ハ第三十二條
又ハ商標法第三十四條第三十五條若ハ第三十
八條ノ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタル者但シ刑ノ執行
ヲ終リ又ハ其ノ執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ起算シ
三年ヲ經過シタル者ハ此ノ限ニ在ラズ
三 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者
又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者
四 業務停止ノ期間中業務ヲ廢止シ未タ其ノ期間
ノ經過セサル者又ハ業務禁止ノ處分アリタル日ヨ
リ起算シ三年ヲ經過セサル者

第五條 特許局ニ辦理士登錄簿ヲ備ヘ辦理士ニ關ス
ル事項ニ登錄ス

辦理士タラムトスル者ハ辦理士登錄簿ニ登錄ヲ受ク
ルコトヲ要ス

辦理士ノ登錄ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 紛糾所又ハ特許局ニ在職中取扱ヒタル事件
テ二十圓ヲ納付スベシ

第七條 紛糾士ハ左ノ各號ノ一二該當スル事件ニ付
其ノ業務ヲ行フコトヲ得ス

一 相手方ノ代理人トシテ取扱ヒタル事件

二 裁判所又ハ特許局ニ在職中取扱ヒタル事件

第八條 紛糾士ハ特許、實用新案、意匠又ハ商標ニ關
スル事項ニ付裁判所ニ於テ本人ト共ニ出頭シテ本人
ノ爲演述ヲ爲スコトヲ得其ノ演述ハ本人卽時ニ之ヲ
取消シ又ハ更正サセルトキニ限り本人自ラ之ヲ爲シタ
ルモノト看做ス

前項ノ規定ニ依リ帝國臣民ニ非サル辦理士出頭シテ
演述ヲ爲サムトスルトキハ裁判所ノ許可ヲ受クヘシ

第九條 紛糾士ハ特許局所在地ニ辦理士會ヲ設立ス
ヘシ

第十條 紛糾士會ハ支部ヲ設ケルコトヲ得
達ヲ圖ルル以テ目的トス

第十一條 紛糾士會ハ支部ヲ設立ス

第十二條 紛糾士會ハ農商務大臣之ヲ監督ス

第十三條 紛糾士會ハ會則ヲ設ケ役員ニ關スル事項、
辦理士ノ風紀保持ニ關スル事項、謝金及手數料ニ關
スル事項其ノ他會務ノ處理ニ必要ナル事項ヲ規定ス
ヘシ

會則ハ特許局長ヲ經由シテ農商務大臣ノ認可ヲ受
クヘシ會則ノ變更ニ付亦同シ

第十四條 紛糾士會ノ設立ノ手續、機關ノ組織及監督
ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 紛糾士會ニ加入シタル後ニ非サレハ其ノ業

務ヲ行フコトヲ得ス
第十六條 辦理士本法又ハ辦理士會ノ會則ニ違反ス
ル行爲アルトキハ農商務大臣ハ辦理士懲戒委員會ノ議決ニ依リ之ヲ懲戒スルコトヲ得定ム

辦理士懲戒委員會ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ

第十七條 辦理士ノ懲戒處分ハ左ノ四種トス
一 譴責
三 五百圓以下ノ過料
三 一年以内業務ノ停止
四 業務ノ禁止

第十八條 辦理士會ハ辦理士ニ對シ懲戒ノ必要アリト認メタルトキハ特許局長ヲ經由シテ農商務大臣ニ申告スヘシ

第十九條 農商務大臣ハ前條ノ規定ニ依ル辦理士會ノ申告ニ依リ又ハ職權ヲ以テ辦理士懲戒委員會ヲ招集ス

第二十條 過料ヲ完納セサルトキハ特許局長ノ命令ヲ以テ之ヲ執行ス
非訟事件手續法第二百八條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル執行ニ付之ヲ準用ス

第二十一條 辦理士又ハ辦理士タリシ者故ナク其ノ業務上知得タル發明者、考案者、特許出願者又ハ登録出願者ノ發明、考案又ハ事業上ノ祕密ヲ漏泄シ又ハ竊用シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス
附 則

第二十二條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十三條 特許辦理士令及特許辦理士組合規則ハ之ヲ廢止ス

第二十四條 本法ノ適用ニ付テハ明治十三年第三十

六號布告刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ六年以

上ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ト看做ス

第二十五條 第四條第一號ニ該當スル者ヲ除クノ外舊實用新法第十二條、第二十三條若ハ第二十七條、舊意匠法第二十四條第二十五條若ハ第二十九條、舊商標法第二十三條、第二十四條若ハ第二十

八條ノ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタル者ハ辦理士タルコトヲ得ス但シ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ起算シ三年ヲ經過シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第二十六條 本法施行ノ際現ニ特許辦理士タル資格ヲ有スル者ハ辦理士タル資格ヲ有ス
第二十七條 本法施行ノ際現ニ特許辦理士タル者ハ辦理士ト看做ス
第二十八條 特許辦理士登錄簿ハ辦理士登錄簿ト
（國務大臣男爵山本達雄君登壇、拍手起立）
○國務大臣（男爵山本達雄君）唯今議題トナリマシタル工業所有權ニ關シマスル現行法規ハ、明治四十二年ニ改正ニ相成リマシテ、今日マテ其儘三ナツテ居ルノデアリマス、然ルニ此間ニ於此農商工三業ニ關シマスル發達ハ、御承知ノ通り著シキモノニナツテ居リマス爲メニ、ソレニ關係ノアル此法案ノ改正ノ必要ガ起キテ參タノデアリマス、故ニ一昨年デアリマシタカ、斯道ニ最モ學識經驗ヲ有セラレテ居リマスル人ニヨ集メマシテ、サウシテ特許局ノ主管ニ關シマスル諸法律改正調査委員ヲ設ケラレマシタ、爾來今日ニ至リマス約一箇年ニワリマシテ、十分ニ調査研究ヲ遂ダラレマシテ、始ダテ今日ニ至リマシテ此成案が出來マシタノデゴザイマス、サウ云フモノデアリマシテ、其主ナルモノハ發明ノ保護、又所有權ノ保護、審査又ハ私權公權ナドノ調和ノ點ナドニ就テ主ニカツ用キマシタ、サウシテ此改正ヲ遂ダタ次第アリマス、又特許ノ方ハサウデアリマスガ、ソレト同様ニ實用新案、又意匠法、商標法ナドニ就キマシテモ矢張改正ノ必要ガ起リマシテ、此所ニ出シタル譯デゴザイマス、又新ニ辦理士法ヲ設定致シマシテ、サウシテ諸法律ト相俟テ、工業所有權ノ完全ヲ圖ラント云フ趣意ニ依テ、今日提出致シマシタル次第デゴザイマス、此事ハ申上ケルマデモナク、產業ニ密接ノ關係ヲ有シテ居ルモノデアリマシテ、今日戦後ノ經營ニ於キマシテ、其中ノ重要ナル一策トシテ提出シタル次第デゴザイマス、「何卒御審議ノ上、御協賛アランコトヲ希望致シマス（拍手）」
○副議長（柏谷義三君）質疑ノ通告ガアリマスカラ其發言ヲ許サウト思ヒマス、清瀬一郎君（清瀬一郎君登壇、拍手起立）
○清瀬一郎君 本案ニ對シテ質問ヲ致スベキ箇條ハ多々アリマスガ、追テ委員會ニ於テ詳細ナル御説明ヲ得ルコトニ致シマス、唯ダ大體ニ關スル事ニ三箇條ノ御答辯ヲ求メマス、第一ハ申スマデモナク特許法、商標法、是等ハ我國ノ產業ヲ進歩セシムル爲メニ設ケラレタモノデアル、特許ノ制度ノ確立シタノハ既ニ明治十七年デアリマスガ、今日ニ至ル迄帝國ノ特許官廳ハ、我國ノ產業ニ如何ナル貢献ヲ爲シタルヤト云フ點ニアリマス、今日特許ニ關スル民間ノ輿論ハ甚だ悲觀的デアリマス、蓋シ政府ガ特許法ノ改正ヲ企テラレ

ル精神アルヤ、否ヤ以上ノ三點ニ向テ責任アル御答辯ヲ
求メマス

〔政府委員田中隆三君登壇〕

○政府委員(田中隆三君) 一寸御答致シマス、唯今御尋
ノ第一點、詰リ特許局ノ事ニ就テ大分御不満デアラレルヤ
ウナ風ニ、又局員ニ何カ不正ナ事デモアルカノ如キマデノ御
言葉ガアリマシタガ、特許局ガ十分ニ吾ニ思フ如ク活動
ノ出来ナイト云フ點ハ清瀬君ト私共同感デアリマス、併ナ
ガラ何事モ豫算其他ニ關係ノアルコトアリマスカラ、其國
家一般財政ノ範圍内ニ於テ、出來ル限り漸次ニ之ヲ擴張
シテ行キタイ、整理シテ行キタイト思ツテ努メツ、アリマス、今
日提案セラレマシタ此改正案ト共ニ、又特許局ニ於テモソ
レト、定員ヲ増加致シマシテ、大ニ其面目ヲ改メルコトニ努
メル積リテアリマス、何レ又此法案ノ御協賛ヲ得ルト共ニ、
追加豫算等ニ依シテ、諸君ノ御協賛ヲ得ナケレバナラヌコト
ニ到來スルト思ウテ居リマス、其節ニハドウ清瀬君ハ眞先
ニナゾテ、十分ノ御賛成アランコトヲ切望致シマス、ソレカラ
第一ノ不正競争云々ノ事ハ、要スルニサウ云フ不正ナ事ヲ
スル者ノ取締ノ事デアリマセウガ、取締ヲ致シマスニシテモ、
其不正競争ノ實際ヲ能ク取調ベルコトガ根柢ニナルノア
リマスカラシテ、是モ及バズナガラ調査等ニ就キマシテ力ヲ盡
シテ居リマス積リテアリマス、ソレカラ第三ノ支那ノ商標
ノ事モ是モ當局ト致シマシテ、多年非常ニ心配ヲ致シテ居
リマス事デゴザイマスガ、是ハ實ハ獨リ日本ノ事ノミナラズ、
英吉利ニシテモ、亞米利加ニシテモ、佛蘭西、獨逸等ニシテ
モ日本ノ思フ通りニ致シマスレバ、其等ノ外國或ハ其他ノ
外國等カラシテ抗議が出マシタリ、色々外國トノ關係ノ上
ニ於テ、一方ガ希望スル所ガ他ノ一方ガ希望セズト云フコ
トガアリマシタリ、種々ノ事情ノ爲メニ今日マデマダ行惱シ
デ居ルノデアリマス、併ナガラ各國政府共ソレヽ一段々困難
ナ問題ニ就テ、諒解ヲ得ルノ運ニナゾ參リマシテ、是ハ餘り
遠カラザル將來ニ於テ、何トカ片付付クト思ヒマス、即チ支
那ニ於テ商標ノ事ニ關スル完全ナ法律カ出來マシテ、各國
共之ニ依シテ権利ノ確保ヲ期スルコトガ出來ルダラウト思ヒ
マス、之ヲ以テ御答ト致シマス(拍手)

○副議長(柏谷義三君) 他ニ質疑モ無イヤウデアリマス
カラ久ノ日程ニ移リマス、日程第二、第四、第六、第八、第十、右五案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス
○岩崎勳君 日程第一乃至第九ニ至ル五案ヲ一括シ、委

員ノ數ハ特ニ十八名トシ、議長ニ於テ指名アランコトヲ望
ムマス

〔賛成「賛成」ト呼フ者アリ〕

○副議長(柏谷義三君) 岩崎君ノ御發議ニ御異議アリ
マセヌス

〔異議ナシ「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○副議長(柏谷義三君) 御異議ナシト認メマス、其通

リニ決シマス、一次ノ日程第十一、第十二ハ同一ノ委員ニ
付託シタ議案ニアリマスカラ、一括シテ議題ニ致シタイト思

ヒマス、御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○副議長(柏谷義三君) 御異議ナレバ、其通りニ取計ヒ
マス、日程第十一、借地法案、日程第十二、借家法案、右兩

案ヲ一括シテ其第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ
求メマス、鳩山一郎君

第十一 借地法案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長)

第一讀會ノ續(報告)

報告書

一借地法案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告
候也

大正十年二月十九日

借地法案委員長

鴎山一郎

衆議院議長與繁三郎殿

鴎山一郎

報告書

一借家法案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告
候也

大正十年二月十九日

借家法案委員長

鴎山一郎

衆議院議長與繁三郎殿

鴎山一郎

報告書

一借家法案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告
候也

大正十年二月十九日

借家法案委員長

鴎山一郎

衆議院議長與繁三郎殿

鴎山一郎

報告書

一借地法案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告
候也

大正十年二月十九日

借地法案委員長

鴎山一郎

衆議院議長與繁三郎殿

鴎山一郎

報告書

デハナイト云フ、此傾向ニ順應シテ居ル所ノ立法事業ノ一
シアルト云フ點カラ致シマシテ、委員諸君ハ非常ノ熱心ト
興味トヲ以テ、此審査ニ從事致シタノアリマス、質問應答
ニ委員會ヲ開クコトが六回、此間ニ大體論カラ條文ノ解釋
ガラ此質問應答ノ經過ニ就キマシテハ既ニ速記錄ガ諸君ノ
御手許ニ廻シテ居ル筈アリマスカラ、此經過ニ就キマシテハ唯
タ問題ノミヲ列舉スル位ニ止メタイト思フノアリス、而モ
便宜上是ハ討論ノ經過ヲ申述ベタ後ニ述ベタイト思フノア
リマス、討論ニ入リマシテカラ、加藤重三郎君ヨリ借地、
借家等ノ爭議ニ關シテ、調停機關ヲ設置セラレタシト云フ
此希望條件ヲ附シテ、原案贊成ノ意見ガ提出致サレマシ
タ、希望條件ニ就キマシテ、政府ハ御希望ハ御尤デアル、近
キ將來ニ於テ斯ノ如キ爭議調停機關ヲ設置致ス爲メニ、
極力盡カスルト云フ言明ガアッタノアリマス、作間耕逸君
カラ本日御手許ニ廻サレタ所ノ修正案ノ内容ヲ同ジクス
ル所ノ修正意見ガ提出致サレマシタ、即チ借地法案ノ第二
條ヘ、借家法案ト同ジャウニ無登記對抗主義ヲ採リタキ、
此希望ニ就キマシテ、政府ハ建物ノ保存登記ヲスルコトハ
容易ナ事デアルカズ、借家法ニ認メタ所ノ無登記對抗主
義ト同様ナル主義ヲ借地法ニ認メル必要ハ無イ、民法ノ大
主義アル所ノ、登記主義ヲ覆スダケノ理由ヲ認ナイト云
フ所ノ答辯ガアリマシタ、ソレカラ第十何條カノ新シイ條文
ヲ加ヘタイト云フ詰リ司法大臣ガ言明致サレタ所ノ爭議
調停機關ノ設置セラル、マデ過渡的規定トシテ、決定ヲ以
テ判決ニ代ヘタイト云フ此希望ニ對シマシテ、政府ハ對決
ニ代ユルニ決定ヲ以テスルコトが適當デアルカドウカハ、今
俄ニ答ヘルコトハ出來ナイ、尙ホ爭議調停機關ハ、速ニ設
置シタイト云フ希望デアルカラト云フノテ、此條項ニ就キマ
シテモ反對セラレタノアリマス、ソレカラ借家法案ノ第四
條ヲ削除スル、是ハ轉借人ニ通知スルコトが適當デアルカト
云フノガ提出者ノ理由アリマス、併ナガラ政府ノ言フノニハ、
民法ノ六百十二條ニ依シテ、貸借人ハ同意ヲ與ヘナケレバ
轉借スルコトガ出來ナインデアル、轉借人ノ何人デアルカト
云フノハ、多クノ場合貸貸人カ知ラナクテハナラナイノア
ル而モ轉借人ニ對シテモ、貸借人ト同ジャウニ寢耳ニ水デ
逐出スト云フコトハ酷アルト云フノデ、此四條削除ニモ反
對セラレマシタ、ソレカラ修正案ノ第五條ニ三項ト三項ヲ加
ヘタイト云フ希望ニ對シテ、矢張政府ハ反對ヲセラレタ、第
二項ヲ特ニ加ヘル必要ハ無イ、第五條ニ依シテ明白デアル、ソ
レカラ第三項ニ義務貨借人ノ解約ヲ申テ、サウシテ貨借人
ノ義務ノ履行ノ場合ニ於テハ、造作買取ノ義務ヲ認メル
必要ガ無イト云フ、斯ウ云フ譯デ此規定ガ設ケラレタノア

リマスケレドモ、賃貸人ニ造作ヲ時價ヲ以テ買取ラシムルノハ、貸貸人ノ同意アル場合デアリマスカラシテ、別ニ賃貸人ニ對シテ酷デアルト云フ規定デハナイ、而モ賃借人ニ對シテ造作ヲ持テ出ロト云フコトハ、是ハ其者ニ對シテ酷デアルカズ、矢張此規定モ不必要ダト云フノ反對セラレタノデアリマス、第九條ヲ加ヘルト云フノハ、借地法ト同様ナ理由ニ依テ、政府ハ反對セラレタルノデアリマス、南鼎三君カラシテ、借家法ニ對シテハ、敷金ノ規定モ無イシ、又家賃ノ公定モシテ居ラナイシ、尙ホ借家ニ就テモ、借地ト同ジヤウニ法律ガ推定スル所ノ期間、即チ二十年トカ云フ期間ヲ附シタ方ガ適當デハナイカ、ソレニ就テノ規定ガ無イ、又解約申入ニ就テノコトハ、是ハ不當デアルト云フヤウナ理由カラシテ、借家法ニ反対セラレタノデアリマス、採決ニ入リマシテカラ、借地ニ就キマシテハ、作間君ノ修正意見ハ少數デ以テ否決ニナリ、加藤重三郎君並ニ同ジ意見ヲ提出サレタ國民黨ノ板野友造君ノ意見、之ヲ採決シマシタ所多數デ可決ニナリマシタ、借家法ニ就テ先ジ南鼎三君ノ否決説ヲ採決致シマシタ所、南君一人テ否決ニナシテ、作間君ノ修正意見ニ就テ續イテ採決致シマシタ所、是亦少數デ否決ニナシテアリマス、少數意見ヲ提出シ得ル所ノ三分ノ一ノ數ニハ達シテ居ラナカッタノデアリマス、質問應答ノ主ナル問題ヲ申上ダマスト、借地法ニ就キマシテ、國有財產法トノ關係ガドウデアルカ、民法施行法人四十四條トノ關係ハドウデアルカ、或ハ又建物保護法案トノ關係ハドウデアルカ、ソレカラ又作間君ノ修正意見ノ主ナル理由デアル所ノ借地法ニ就キマシテモ、借家法下同様ニ、無登記抗主義ヲ採用ヘドウデアルカソレカラ又六十年若クハ三十年ノ期間ガ満了致シマシタ場合ニ、無償デ以テ土地明渡ヲ請求セシムルト云フコトハ、不當デハナイカト云フヤウナガ大體ノ問題デアリマシテ、詳細ノ問題ニ至リマシテハ、第十條ノ規定カラシテ、十一年賃貸スル場合ニハドウ云フ事ヲシタナラバ宜イカ、又第二條ノ「朽廢」ト云フ文字ハ、如何ニ解釋スベキカト云フヤウナ質問ガアッタノデアリマス、尙ホ第五條ニ就キマシテ「遲滯ナク異議ヲ述ベザリシトキ」ト云フ文字ニ就キマシテ、隨分議論ガゴザイマシタ、借家法ニ就キマシテ、隨分議論ガゴザイマシタ、借家法ハ借地ト同様ニ惡影響ヲ及ボスコトハ無イカドウカ、ソレカラ「借地ト同様ニ人ノ保護ニ厚キ傾キガアル、故ニ都市ニ於ケル住宅問題ニ惡影響ヲ及ボスコトハ無イカドウカ、」

借地法案

〔作間耕逸君登壇〕

第二讀會

○副議長（柏谷義三君）御異議ハ無イト認マス、本案ノ一案トモニ第二讀會ヲ開クコトニ決定致シマシタ
○岩崎勳君 日程第十一、及第十二ニ掲ダマシタル兩案ヲ括シテ、直チニ第二讀會ヲ開カレントコトヲ希望致シマシタ次第アリマス、本會ニ於キマシテモ、委員會ノ決議ニ御賛同アランコトヲ希望致シマス（拍手起立）
○副議長（柏谷義三君）此兩案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマスカ

〔「異議ナシ」「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕
○副議長（柏谷義三君）御異議ハ無イト認マス、本案ノ一案トモニ第二讀會ヲ開クコトニ決定致シマシタ
○岩崎勳君 日程第十一、及第十二ニ掲ダマシタル兩案ヲ括シテ、直チニ第二讀會ヲ開カレントコトヲ希望致シマシタ次第アリマス、本會ニ於キマシテモ、委員會ノ決議ニ御賛同アランコトヲ希望致シマス（拍手起立）
○副議長（柏谷義三君）此兩案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマスカ

〔「異議ナシ」「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕
○副議長（柏谷義三君）御異議ガナケレバ、動議ノ如ク決定致シマス、兩案トモ直チニ第二讀會ヲ開キ、議案ノ全部ヲ議題ニ致シマス、此兩案ニ對シマシテハ、作間耕逸君外三名ヨリ、成規ノ贊成ヲ得テ修正案ノ提出ガアリマス、爰ニ其趣意ノ辯明ヲ許シマス——作間耕逸君
借地法案
〔作間耕逸君登壇〕
第一讀會

○作間耕逸君 爰ニ上程致サレマシタ借地借家ノ兩法案ニ對シマシテ、本員外三名カラ修正ノ動議ヲ提出致シマシタ、簡單ニ其理由ヲ説明致シマス、此兩法案ハ何レモ司法當局ノ施設ニ成リマスル所ノ、社會政策的立法ノ一種デアリマス、尙ホ賃貸人ノ同意ガナクシテ、附加シタル造作ヲモ買取ラシメテハドウデアルカト云フ意見ト、又之ニ反對シテ、反對ニナルト思ヒマスガ、常ニ賃貸人が買取ラシムルト云フ

ノハ不當デアルト云フノデ、作間君ノ修正意見ノヤウナ意見モ現ハレタノデアリマス、是等ノ問題ニ對シマシテ、政府ハ吾ミノ了解シ得ル答辯ガアッタ思テ居リマス、要スルニ多數ノ委員諸君ハ、政府が委員會ノ壁頭ニ於テ、大綱領トシテ說明セラレタ所ノ借地法ニ就テハ、短期ノ借地契約ヲ認メナイ、地主ノ不當ナル要求ガアルト云フ虞ヲ防遏セントシタコト、第二ニハ地代ノ増減ノ請求ニ關シ、法律ガ標準ヲ與ヘテ争フ未然ニ防ガントシタルコト、借家法ニ就キマシテハ、登記カ無クテモ第三者ニ對抗スルコトニシテ、不當ナル家主ノ請求ヲ排除セントシタルコト、第一ニハ解約ノ申込ノ期間ヲ定メマシテ、借家人ガ逐出サレル際ニ、他ニ住居ヲ求ムル期間ヲ與ヘタト云フコト、第四ニ造作買取請求權ヲ與ヘタト云フコト、サウシテ家主ノ不當ナル要求ヲ排除セントシタルコト、第五ニハ家賃ノ増減請求ニ就テ公定ノ標準ヲ示シタト云フコト、此綱領ハ現代ノ弊害、所謂時弊ヲ救濟スルニ顯著ナル效果ノアルト云フコトヲ是認致シマシテ、大多數ヲ以テ兩案トモ委員會ニ於キマシテハ原案ニ贊成致シマシタ次第アリマス、本會ニ於キマシテモ、委員會ノ決議ニ御賛同アランコトヲ希望致シマス（拍手起立）
○副議長（柏谷義三君）此兩案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマス、修正ノ條項ハ別ニ印刷シテ御手許ニ廻シテ居リマス、一々ハ朗讀ハ致シマセヌ、先づ借地法中ニ新ニ第一條ノ條許リ、借家法ノ方ニ三箇條許リ修正ヲ加ヘタ次第アリマス、修正ノ條項ハ別ニ印刷シテ御手許ニ廻シテ居リマス、一々ハ朗讀ハ致シマセヌ、先づ借地法中ニ新ニ第一條ノ次ニ第二條ヲ加ヘマシタノハ、唯今委員長カラモ一應ノ御報告ガアリマシタ如ク、本員等ハ借地權ニ就キマシテハ、實際上ノ觀念ト多年ノ慣習カラ、既ニ現在ニ於キマシテハ、無登記對抗主義ヲ認メナケレバナラナイ所ノ時勢ニ達シタモノト心得テ居ルノデアリマス、此故ニ此借地法ハ茲ニ新ニ立法セラレルニ方リマシテ、本員等ハ此一大新主義ヲ開却スル譯ニハドウシテモ參リマセヌ、併ナガラ本員等ト雖絶對無條件ニ無登記主義ヲ主張スルモノデハナク、其登記手續ニ代エルニ占有事實ヲ以テ致シタルト云フ主義アリマスル、即チ借地權ニ基ク所ノ適法ノ占有、正權限ニ基ク所ノ有效ナル占有ト云フ正當ノ事實サヘアリマスレバ、其事實ヲ以テ登記ノ手續ニ代ヘテ、以テ自己物件ヲ取得致シタル第三者ニ對シテモ、完全ニ其效力ヲ對抗シ得セシメタイト云フ確信ト希望ヲ以チマシテ、此第二條ヲ追加致シタ次第ニ外ナラナイノデアリマス、第十五條ニ入リマス前ニ尙本一寸申添エテ置キマスル點ハ、司法當局ハ建物保護法ニ於テハ、單ニ建物ノ保存登記サヘアレバ、借地權ノ登記ハシテナクテモ、現在ニ於テ矢張第三者ニ對抗シ得ルヤウニ相成ツテ居ルノデアルカラ、建物ノ保存登記サヘセシメレバソレデ宜イノデアルカラ、其點デ矢張占有有主義ヲ見合セテ貰テハ、如何デアルカト云フヤウナ御意見モ出マシタケレドモ、鳩山委員長ハ政府委員ト共ニ、建物ノ保存登記ヲ借地人ガ致シ

マスルコトか極く容易ニ出来ルヤウナ御意見デゴザイマシタケレドモ、實際ニ於キマシテハ、借地人ガ自己ノ所有ニ係リマスル建物ノ保存登記ヲ致サウト思ヒマスルニハ、地主又ハ其代理デアリマスル所ノ差配人ノ承諾ヲ一々経ナケレバナラヌコトデアリマシテ、地主又ハ差配人ハ其間ニ來トハ實際上沟ニ明カナル事例デアルノデアリマス、隨ヒマシテ私共ハ建物ノ保存登記ヲ致シテ、而シテ對抗セシムルコトガ出來ルト云フコトデハマダ満足ヲ致シマセヌカラ、此場合ニ於キマシテ、斷然占有對抗主義ヲ主張シタ所以デアリマス、尙ホ折角此借地法ガ出來上リマスルニ拘ラズ、將來矢張此建物保護法モ此儘存續セシメテ置イテ、此借地權ノ關係ニ就キマシテ、民法アリ、建物保護法アリ、其他ニ尙ホ借地法ナル三種三様ノ特別法ガ兩々並ビ施行セラレマスルト云フコトハ、實際ニ於キマシテ、甚ダ面白クナイ法律ノ作用ヲ惹起スルコトガアラウト懸念致シマシテ、此意味カラモ斷然建物保護法ノ廢止ヲ此借地法ノ施行ト共ニ希望致次第デアリマス、末條ヲ借地法ニ新ニ加ヘマシタノハ、借地關係ノ中最モ多ク起リマスル實際問題ハ、地代又ハ借貸ノ値上値下ノ請求ト、並ニ地主ガ負貸ヲ拒ンダ場合ニ借地權者カラ買取ラシムル建物ノ時價ニ就キマシテ争ノ起ルコトデアリマス、此場合ニ々現行ノ民事訴訟手續ニ依リマシテハ、多クノ日子ト多クノ費用ヲ要シマシテ、殊ニ借地人カラ地代ノ値下ヲ要求致シマスルヤウナ場合ニハ、最モ其不便不都合ヲ感ズルノアリマス、而シテ多クノ年限ガ掛リマスルガ爲メニ、第一次ノ値下又ハ値下ノ問題ダ、漸ク判決ノ確定ニ依テ解決ヲシタト云フ場合ニ、直チニ第二次ノ問題ガ既ニ差違テ居ラナケレバ、雙方共ニ満足ガ出來ナイヤウナ關係ヲモ惹起スル虞レガアルノアリマス、隨テ又假令借地法ガ完全ニ成案トナリマシテ、之ヲ施行致セラナ申分カモ知レマセヌケレドモ、年が年中繼續シテ地代ノ値上値下ノ争ヨシテ居ラナケレバ、雙方共ニ満足ガ出來ナイヤウナ關係ヲモ惹起スル虞レガアルノアリマス、斯ウ云フ場合ヲ想像致シマスルト、少シク極端ナ申分カモ知レマセヌケレドモ、其手足即チ實際ニ借地法ヲ行使シ借地人ト地主トノ間ニ實際ニ扳ヒマスル活用スル法規ト云フモノガ、同時ニ改正セラレマセヌデハ、到底此借地法ハ實地ニ於テ、完全ニ其目的ヲ達スルコトガ出来ナインデアリマス、即チ其紛擾關係ヲ迅速且ツ簡易ニ解決セシメ得ル目的ヲ以テ、特ニ末條ノ第十五條ヲ追加致シマシテ、借地權ノ存續期間、建物ノ時價、又ハ地代若クハ借貸ノ高ニ對シ争ノアリマスルトキハ、地主ナリ若クハ借地

人ナリ双方ノ申請ニ依テ、其土地ヲ管轄スル區裁判所デ、單獨判事ニ於テ此決定ヲ爲サシメタイト云フ希望デアリマス、斯ウ致シマスレバ費用モ甚ダ少ニデ濟ミマスルシ、又解ヌノデアリマスルカラ、此建物ノ保存登記ヲ致スト云フコトハ、政府委員又ハ委員長御報告ノ如ク、容易ニ出來ナイコトハ實際上沟ニ明カナル事例デアルノデアリマス、隨ヒマシテ私共ハ建物ノ保存登記ヲ致シテ、而シテ對抗セシムルコトガ出來ルト云フコトデハマダ満足ヲ致シマセヌカラ、此場合ニ於キマシテ、斷然占有對抗主義ヲ主張シタ所以デアリマス、尙ホ折角此借地法ガ出來上リマスルニ拘ラズ、將來矢張此建物保護法モ此儘存續セシメテ置イテ、此借地權ノ關係ニ就キマシテ、民法アリ、建物保護法アリ、其他ニ尙ホ借地法ナル三種三様ノ特別法ガ兩々並ビ施行セラレマスルト云フコトハ、實際ニ於キマシテ、甚ダ面白クナイ法律ノ作用ヲ惹起スルコトガアラウト懸念致シマシテ、此意味カラモ断然建物保護法ノ廢止ヲ此借地法ノ施行ト共ニ希望致次第デアリマス、末條ヲ借地法ニ新ニ加ヘマシタノハ、借地關係ノ中最モ多ク起リマスル實際問題ハ、地代又ハ借貸ノ値上値下ノ請求ト、並ニ地主ガ負貸ヲ拒ンダ場合ニ借地權者カラ買取ラシムル建物ノ時價ニ就キマシテ争ノ起ルコトデアリマス、此場合ニ々現行ノ民事訴訟手續ニ依リマシテハ、多クノ日子ト多クノ費用ヲ要シマシテ、殊ニ借地人カラ地代ノ値下ヲ要求致シマスルヤウナ場合ニハ、最モ其不便不都合ヲ感ズルノアリマス、而シテ多クノ年限ガ掛リマスルガ爲メニ、第一次ノ値下又ハ値下ノ問題ダ、漸ク判決ノ確定ニ依テ解決ヲシタト云フ場合ニ、直チニ第二次ノ問題ガ既ニ差違テ居ラナケレバ、雙方共ニ満足ガ出來ナイヤウナ關係ヲモ惹起スル虞レガアルノアリマス、斯ウ云フ場合ヲ想像致シマスルト、少シク極端ナ申分カモ知レマセヌケレドモ、其手足即チ實際ニ借地法ヲ行使シ借地人ト地主トノ間ニ實際ニ扳ヒマスル活用スル法規ト云フモノガ、同時ニ改正セラレマセヌデハ、到底此借地法ハ實地ニ於テ、完全ニ其目的ヲ達スルコトガ出来ナインデアリマス、即チ其紛擾關係ヲ迅速且ツ簡易ニ解決セシメ得ル目的ヲ以テ、特ニ末條ノ第十五條ヲ追加致シマシテ、借地權ノ存續期間、建物ノ時價、又ハ地代若クハ借貸ノ高ニ對シ争ノアリマスルトキハ、地主ナリ若クハ借地

人ナリ双方ノ申請ニ依テ、其土地ヲ管轄スル區裁判所デ、單獨判事ニ於テ此決定ヲ爲サシメタイト云フ希望デアリマス、斯ウ致シマスレバ費用モ甚ダ少ニデ濟ミマスルシ、又解ヌノデアリマスルカラ、此建物ノ保存登記ヲ致スト云フコトハ、政府委員又ハ委員長御報告ノ如ク、容易ニ出來ナイコトハ實際上沟ニ明カナル事例デアルノデアリマス、隨ヒマシテ、色ニノ註文ヲ致スヤウナ不都合ノ場合モ少ナカラヌノデアリマスルカラ、此建物ノ保存登記ヲ致スト云フコトハ、政局委員又ハ委員長御報告ノ如ク、容易ニ出來ナイコトハ實際上沟ニ明カナル事例デアルノデアリマス、隨ヒマシテ私共ハ建物ノ保存登記ヲ致シテ、而シテ對抗セシムルコトガ出來ルト云フコトデハマダ満足ヲ致シマセヌカラ、此場合ニ於キマシテ、斷然占有對抗主義ヲ主張シタ所以デアリマス、尙ホ折角此借地法ガ出來上リマスルニ拘ラズ、將來矢張此建物保護法モ此儘存續セシメテ置イテ、此借地權ノ關係ニ就キマシテ、民法アリ、建物保護法アリ、其他ニ尙ホ借地法ナル三種三様ノ特別法ガ兩々並ビ施行セラレマスルト云フコトハ、實際ニ於キマシテ、甚ダ面白クナイ法律ノ作用ヲ惹起スルコトガアラウト懸念致シマシテ、此意味カラモ断然建物保護法ノ廢止ヲ此借地法ノ施行ト共ニ希望致次第デアリマス、末條ヲ借地法ニ新ニ加ヘマシタノハ、借地關係ノ中最モ多ク起リマスル實際問題ハ、地代又ハ借貸ノ値上値下ノ請求ト、並ニ地主ガ負貸ヲ拒ンダ場合ニ借地權者カラ買取ラシムル建物ノ時價ニ就キマシテ争ノ起ルコトデアリマス、此場合ニ々現行ノ民事訴訟手續ニ依リマシテハ、多クノ日子ト多クノ費用ヲ要シマシテ、殊ニ借地人カラ地代ノ値下ヲ要求致シマスルヤウナ場合ニハ、最モ其不便不都合ヲ感ズルノアリマス、而シテ多クノ年限ガ掛リマスルガ爲メニ、第一次ノ値下又ハ値下ノ問題ダ、漸ク判決ノ確定ニ依テ解決ヲシタト云フ場合ニ、直チニ第二次ノ問題ガ既ニ差違テ居ラナケレバ、雙方共ニ満足ガ出來ナイヤウナ關係ヲモ惹起スル虞レガアルノアリマス、斯ウ云フ場合ヲ想像致シマスルト、少シク極端ナ申分カモ知レマセヌケレドモ、其手足即チ實際ニ借地法ヲ行使シ借地人ト地主トノ間ニ實際ニ扳ヒマスル活用スル法規ト云フモノガ、同時ニ改正セラレマセヌデハ、到底此借地法ハ實地ニ於テ、完全ニ其目的ヲ達スルコトガ出来ナインデアリマス、即チ其紛擾關係ヲ迅速且ツ簡易ニ解決セシメ得ル目的ヲ以テ、特ニ末條ノ第十五條ヲ追加致シマシテ、借地權ノ存續期間、建物ノ時價、又ハ地代若クハ借貸ノ高ニ對シ争ノアリマスルトキハ、地主ナリ若クハ借地

第二項第三項ヲ新三加ヘマシタ、此第二項ハ營業ノ爲メニ
使用セル建物ニ就テ、其營業ニ必要ナル設備モ之ヲ造作
トシテ、解約ノ際借家人カラ家主ニ買取ラシメトイト云フ
希望デアリマス、第一項ニ造作ハ單ニ疊、建具、其他ノ造作
トアリマシテ、恰モ普通住宅ニ取付ケテアル造作ノミヲ指ス
モノ、ヤウニ解釋が出來ルノデアリマス、而シテ此點ニ就テ
政府委員ニ特ニ御尋ヲ致シマシタラ、イヤソレハ營業用ノ設
備モ含ム意味デアルト云フ、御答ヲサレマシタケレドモ、此第
五條ノ第一項ヲ見マシテハ、ドウシテモ營業用ノ物件ヲモ
造作ノ中ニ含ム規定デアル、含ム極旨デアルト云フコトノ解
釋ハ出來マセヌ、且ツ此法律ノ施行區域タル各都市ニ於テ
ハドナラカト申セバ、營業用建物ノ方ガ數ガ多ク、其方ガ重
要ナル部分ヲ占メテ居ルノデアリマスカラ、萬一此法律施
行ヲ、其施行地裁判所ニ於テ吾ミト同様ノ解釋ヲスルヤウ
ナ場合ガアリマシタナラバ、由ミシキ大事デアリマスカラ、ソレ
等ノ爲メニ解釋ヲ一定セシムル必要アリト信ジマシテ、特ニ
念ノ爲メ營業物件ハ造作ヲ看做スト云フ、明文ヲ此間ニ挿
シダノデアリマス、而シテ第三項ノ解約ノ場合ニ、質借人が
家主ヲシテ造作ヲ買取ラシメ得ル規定ハ、是ハ質貸人又ハ
質借人ノ何レカラカ解約ヲ申出タ場合ニモ、買取ラセルコ
トガ出來ルヤウニ相成テ居リマス、質借人が解約ヲ申込ミ
テ、質借人カラ其造作ヲ強テ家主ニ賣付ケ得ルト云フコト
又ハ家貸ノ延滞等重要ナル義務ノ不履行ヲ致シ、質借人
自ラ自己ノ都合ニ依テ其家ヲ明渡サナケレバナラヌ、或ハ
不義理ヲシテモ明渡サナケレバナラヌト云フヤウナ場合ニマ
シテ、茲ニ特ニ家主ヲシテ質借人が造作ヲ買取ラシメ得
ル場合ニハ、質借人ノ解約申込、又ハ義務不履行ニ因ル質
貸借終了ノ場合ニハ買取ラセ得ナイ、即チ家主ガ自己ノ都
合ニ依テ解約ヲ申込ンダ場合カ、又ハ期間ノ經過等ニ依ラ
テ自然ニ解約ニナル場合ニ、初メテ家主ヲシテ造作ヲ買取
ラシムル趣旨ニ改メタイト存シマシテ、此規定ヲ加ヘタノデ
アリマス、第八條ニ末條ヲ加ヘマシタ趣旨ハ、借地法ニ末條
ヲ加ヘタト同一ノ趣旨デアリマスカラ、茲ニハ其説明ハ略シ
マス、尙ホ希望事項ト致シマシテ、施行地區ハ大都市及其
接續町村ハ勿論、全國各都市ニ亘リテ、相成ベクハ其廣汎
ナルコトヲ希望シマス、且ツ其施行時期ニ就テモ別ニ勅令
ヲ以テ定ムト云フコトニ相成テハ居リマスケレドモ、成ベク
速ニ其實現ヲ希望スル意味ニ於テ、本員等ハ特ニ此希望ノ
修正事項ノ如キハ全ク政黨政治派ノ關係ヲ離レマシテ、一般
國民ノ上ニ共通スル利害ノ問題デアリマスカラ、諸君ニ於
キマシテモ、能ク兩者間ノ權利ノ權衡ヲ御考ニナリマシテ

虚心坦懐ニ本員等ノ提出致シマシタ修正案ニ御賛成アラ
ンコトヲ希望致シマス
○副議長(柏谷義三君) 是ヨリ 計論ニ入リマス、發言ノ
通告ガアリマス——塚原嘉藤君

○塚原嘉藤君 登壇
スル者ニアリマス、ソレデ、此借地法カラ申上ダマスガ、借地法ノ第二條ニ無登記主義ヲ執ル上ニ、占有ヲ始メタナラバ登記ヲシナイデモ第三者ニ對抗シ得ルト云フノアリマスガ私カラ見ルト非常ニ是ハ惡修正ニナルト思ヒマス、ソレハ先程モ御話ガアリマシタガ、例ノ四十二年ニ發布サレタル建物保護法ガアリマスカラ、要スルニ建物保護法ハ地所ヲ借りタ時ニ其地所ノ登記ト云フモノハ、貸シタ地主ノ承諾ヲ得ナケレバ、借りタ者ダケテ登記ヲ受ケルコトハ出來ナイ、併ナガラ其際ニ建物ヲ建テタトキ、其建物ニ就テ登記ヲ受ケタレバ、地所ヲ借りタコトニ就テ登記ヲ受ケタト、同様ニ對抗スルコトが出來ルノデアル、是ハ日本ノ民法條中ニ在リマス、其意味ハ家ノ登記サヘスレバ、地主が承諾ヲ得ズトモ、貸貸借ニ就テ登記セズトモ、建テタ家ノ登記デシテ貸貸借ハ借りタコトニ就テ登記ヲセズトモ、對抗スルコトガ出來ルノデアル、是ハ日本ノ民法ニ於ケル原則トシテ、其登記ノ主義ヲ採タ以上ハ致方ガナリス、イノニアリマス、家ヲ建テ以上ハ登記ヲスル、其副産物ヲ既ニ誰ニモ對抗スルコトガ出來ルノデアル、是ハ日本ノ民法ニ於ケル原則トシテ、其登記ノ主義ヲ採タ以上ハ致方ガナリス、其權利ガアリマス以上ハ、其權利ハ御互ニ主張モシナケレバナラヌ、保護モシナケレバナラヌ、切捨御免ノ時ニは法律ニ依テ保護シタ一、利益權利ニナルノアリマス、恰モ是ハ法律ガ保護シタ所ノ一ノ利益、權利ノ發生アリマス、家ノ登記サヘスレバ、貸貸借ノ地所ヲ借りタ登記ハセズトモ、地所ヲ借りタ登記ヲシタコト、同じ結果ニナルノアリマス、要スルコトガ出來ルヨ云フ規定ニナツテ居ルノアリマス、恰モ是ハ法律ガ保護シタ所ノ一ノ利益、權利ノ御互ニ主張モシナケレバナラヌ、保護モシナケレバナラヌ、切捨御免ノ時代カラ五十年モ六十年モ經タ今日、法律ニ依テ自己ニ與ヘラレタル權利ヲ抛棄シテ顧ミニナイト云フコトハ、私ハ甚ダ時勢ニ逆行スルモノダアッテ、其家ノ登記ヲ受ケルコトダ而倒デアル、是ガ簡便デナイト云フ御話アリマシタガ、要スルニ家ノ登記ハ地所ノ貸貸借ノ登記ト同様デアリマセヌシテ簡ラ、地主ノ承諾ハ要ヌノアリマス、家ヲ建テタ人が證明書ヲ持テ行ケバ或ハ家屋税ヲ出シテ居ル者アレバ、區役所ニ其證明書ヲ持テ行ケバソレデ登記ガ出來ルノデアリマスカラ、非常ニ簡便デアリマス、要スルニ斯ノ如クニシテ簡単ニ其建物ノ登記ガ出來レバ、其結果トシテ借地權モ保護サレルノアリマスルカラシテソレハ御互ニヤラナケレバナラナイ、又法治國ノ人間トシテ民法ニ規定ガアル以上ハ、其位ノ事ハシテモ差支ナイ、サウスレバ今ノ此無登記主義ト云フコトハ要ラクナツテ、借地權ハ當然保護サレルコトニナル

ノデアリマスカラシテ、寧口自分ガ與ヘラレタ権利ヲ拠棄シ
テ顧ミナイト云フコトハ御互ニ止メ合テ、家迄建テタナラバ、
ソレニ就テ登記ヲ受ケル位ナ事ヲシテ、サウシテ此借地権ヲ第
三者ニ對抗セシムルヤウニスルノカ吾人ノ常デアズテ、ソウシテ
又サウシナケレバナラナイコトデアルト思フノデアリマス、ソレ
サヘシテ戴ケバ、此今ノ第二條ハ附加ヘル必要ガナインデア
ルトキハ、區裁判所ヘ申請シテ、決定シテヤツテ貰ハウト云フ
リマスゾレカラ今ノ此十五條へ持テ行キマシテ、借地権ノ
存續期間、建物ノ時價及地代又ハ借地ノ額ニ關シ争ヒア
コトヲ附加ヘテアリマスケレドモ、是ハ當局ノ御言明ガ先程
委員長ノ報告サレタ通りアリマスカラシテ、私ハソレヲ待
シコト第一ニ欲シマスガ、第二トシマシテハ之ヲ假ニヤルト致シ
マシテモ、此書カレタ所ノ條文デモ一寸意味ヲ爲サナインデ
アリマス、先程ノ提案ノ説明ニ依リマスルト云フト、恰モ是
ハ區裁判所ノ專屬管轄ニスルト云フヤウナ御意味ニ聞エタ
ノデアリマスガ、サウ云フ專屬ヲスルト云フコトガ茲ニ書イテ
アリマセヌ、サウシテ借地権ノ存續期間ノ問題ハ、是ハ現行
法トシテハ區裁判所デヤルコトニナラテ居リマス、建物ノ時
價トカ地代ト云フ事ノ問題ハ、是ハ其額ノ多イ少ニ依テ
或ハ地方裁判所ニ行キ區裁判所ニ行クヤウニナッテ居リマ
スカラシテ、是ハ要スルニ吾ニカラシテ見マスルト、區裁判所ニ
申請ヲシテ決定ヲシテ貴フト云フコトハ、一シノ権利トシテ
ヤリ得ルコトニナルシ、又地方裁判所區裁判所ヘ訴訟トシ
テヤルコトモ出來ル、ドレデモ當事者ノ選擇ニ依テヤリ得ル
ヤウニモ讀メ得ルノデアリマス、或ハ區裁判所デ申請ニ依シ
テ決定スルト云フコトガ專屬管轄ノヤウニモ讀メルノデアリ
マシテ、此條文自體ニ疑義ヲ挿ム餘地ガ非常ニアリマスカラ
ラシテ斯ウニ云フ不明ナルモノヲ「君ガ分ラナイノダ」ト呼フ
者アリ)或ハサウカモ知レマセヌガ、斯ウ云フ不明ナルモノヲ
加ヘマスルヨリモ、寧口當局ノ言明ヲ待ツコトヲ至當ト思フ
ノデアリマス、故ニ是ニモ反對ヲ致シマスゾレカラ、借家法デ
アリマスガ、此第四條ノ貸貸借ヲシタ場合ニハ又貸ヲシテ
居ルトキニ貸借人ニ對シテ一年前三通知ヲスルト同時ニ
又借人ニ對シテモ通知ヲシナケレバイカスト云フ條文ヲ除
クト云フ案デアリマスルケレドモ、是モ一寸私ニハ了解シ難
イノデアリマス、要スルニ是デ轉借トシテ營業ノ爲メニ使用スル
民法ノ六百十二條ノ法律上正當ノ貸借人ヲ意味スルノ
デアリマシテ、貸借人ガ正當ナル所ノ貸借人デアリマスルナ
ラバ、又矢張轉借人ト云フ者セ正當ナル轉借人ニシテ、同
等ニ取扱ヒマセケレバ、公平ノ觀念ニ悖ルノデアリマスカラ
ラシテ、三條ガアレバ四條ハ當然ナケレバナラナイ、承諾ヲ得
ズシテ外ニ貸シタ者、即チ法律上ノ轉借人ト看做スト見ラ
レナイト云フコトニ對シテハ、此所デハ問題ニナラヌノデアリ
マス、ソレカラ五條ノ一項二項トシテ營業ノ爲メニ使用スル

建物ニ就テ、營業ニ必要ナル設備ハ之ヲ造作トス、是ハ造作問題ノ詰リ何カ商賣ヲスル場合ニ、其商賣ノ爲メニ使^シタ建物使用シタ所ノ設備ト云フモノハ、之ヲ造作トスルト云フノデアリマスガ、要スルニ此第五條ノ初メニ貨貸人ノ同意ヲ得テ居ルト云フコトニナシテ居リマスカラシテ、貸貸人ノ同意ガアリマスル以上ハ、是ハ問題ニナラナイノデ、假ニ此五條ノ一項ノ通り造作ト看做スコトガ出來タニシマシテモ、貸貸人ノ同意ヲ得テナケレバ問題ニナラナイノデアリマスカラシテ、寧口は特約トシテ協定シテ同意ヲ得テヤラレバ、此條文ヲ特ニ設ケルノ必要ハナイト思フノデアリマス、ソレカラ五條ノ二項ニ貨借人ノ方カラ解約ノ申込ヲシタリ、義務ノ不履行ニ依テ契約ガ解除ニナシタ場合ニハ、此造作ニ就テ時價ヲ以テ買取ル所ノ請求權ヲナクシテシマフト云フノデアリマスガ、是ハ甚ダ殘酷ナ條文ニアリマシテ、人間ニアリマスカラシテ都會ニ依テ移轉モシナケレバナラナイノデアリマス、又義務ノ不履行ト云フノハ借貸ヲ拂ハナイ場合ニアリマセウケレドモ、是モ自分ノ住居シテ居ル所ノ其家ノ借貸ヲ拂ハナイト云フコトハ、能クノノ場合デアルト思ハナケレバナラナイノデアリマスサウシマスト云フト、何等過失ガナクシテサウシテ此普通法律ニ定メテアル所ノ權利ト云フモノガ、剝マスガ、是ハ今ノ借地權ニ同様デ、反對致シマス、斯ウ云云次第デゴザイマスカラシテ、之ニハ反對スルノデアリマス(拍手起立)

○副議長(粕谷義三君) 他ニ御發言モナイヤウデアリマスカラ討論ハ終結セラレマシタ、採決ヲ致サウト思ヒマスル、此兩案ハ各別ニ採決ヲ致シマス先ゾ借地法案ニ對シテ作問耕逸君ノ修正ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ乞ヒマス

○副議長(粕谷義三君) 少數デアリマス、修正案ハ否決リ決定致シマシタ(拍手起立)次ニハ借家法案ニ就テ採決ヲ致シマス、本案ニ對シテ作問君ノ修正ガゴザイマスルガ此員長報告ニ贊成ノ諸君ハ起立ヲ請ヒマス

○副議長(粕谷義三君) 少數デアリマス、修正案ハ否決リ決定致シマシタ(拍手起立)次ニ委員長ノ報告ニ就テ採決ヲ致シマス、本案ニ對シテ作問君ノ修正ガゴザイマスルガ此員長報告ニ贊成ノ諸君ハ起立ヲ請ヒマス

○副議長(粕谷義三君) 少數デアリマス、修正案ハ否決リ決定致シマシタ(拍手起立)次ニハ借家法案ニ就テ採決ヲ致シマス、本案ニ對シテ作問君ノ修正ガゴザイマスルガ此員長報告ニ贊成ノ諸君ハ起立ヲ請ヒマス

○副議長(粕谷義三君) 少數デアリマス、修正案ハ否決リ決定致シマシタ(拍手起立)次ニ委員長ノ報告ニ就テ採決ヲ致シマス、本案ニ對シテ作問君ノ修正ガゴザイマスルガ此員長報告ニ贊成ノ諸君ハ起立ヲ請ヒマス

○副議長(粕谷義三君) 少數デアリマス、修正案ハ否決リ決定致シマシタ(拍手起立)次ニ委員長ノ報告ニ就テ採決ヲ致シマス、本案ニ對シテ作問君ノ修正ガゴザイマスルガ此員長報告ニ贊成ノ諸君ハ起立ヲ請ヒマス

○副議長(粕谷義三君) 少數デアリマス、修正案ハ否決リ決定致シマシタ(拍手起立)次ニ委員長ノ報告ニ就テ採決ヲ致シマス、本案ニ對シテ作問君ノ修正ガゴザイマスルガ此員長報告ニ贊成ノ諸君ハ起立ヲ請ヒマス

○副議長(粕谷義三君) 少數デアリマス、修正案ハ否決リ決定致シマシタ(拍手起立)次ニ委員長ノ報告ニ就テ採決ヲ致シマス、本案ニ對シテ作問君ノ修正ガゴザイマスルガ此員長報告ニ贊成ノ諸君ハ起立ヲ請ヒマス

○副議長(柏谷義三君) 多數アリマス、本案ハ委員長報告ノ通り決定セラレマシタ、是ニテ兩案トモ第二讀會ハ終リマシタガ、兩案ノ第三讀會ヲ開クヤ否ヤヲ御誥リ致シマス

○岩崎勤君 日程第十一及第十二ニ掲グララマシタル兩案ヲ一括シテ、直チニ其第三讀會ヲ開キ第二讀會議決ノ通り可決確定アラシコトヲ望ニマス

〔賛成「賛成」ト呼フ者アリ〕

○副議長(柏谷義三君) 岩崎君ノ動議ニ御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシ「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○副議長(柏谷義三君) 然ラバ其動議ノ如ク決定致シマシタ、直チニ其第三讀會ヲ開キマス

朝鮮事業公債法中改正法律案委員長
衆議院議長奥繁三郎殿 高山 長幸

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告
一権太事業公債法中改正法律案(政府提出)
候也

正十年二月十九日

高山長幸

○高山長幸君登壇、拍手起ル
〔高山長幸君登壇、拍手起ル〕
衆議院議長奥繁三郎殿

其何レモ案其物ハ極メテ簡単デアリマシテ、僅カニ數語ノ
又字ヲ改メルニ過ギナインデアリマス、併ナガラ其内容ハ相
當大ナソ事矣、十畫ニ開キレバシマリズム、即ち用筆は全

ハ煙草專賣ノ開始ニ對スル費用、並ニ鐵道ノ建設改良費用、其他ヲ合セマシテ總額二千四百餘万圓デアリマヘ、又臺灣ニ於キマシテハ東海岸ニ鐵道ヲ敷設スル費用、並ニ既設鐵道改良費用ヲ合セテ、其金額ハ九百餘万圓デアリマス、第三ニ華太ニ於キマシテ、夏威基ノ修築費用ヲ充

ガ、第二讀會ノ決定ノ通り可決確定スルコトニ御異議ハア
リマセヌカ
〔「異議ナシ」「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕
○副議長（柏谷義三君） 御異議ガナケレバ、兩案共可決
確定セラレマシタ——次ニ日程ノ第十三、第十四、第十五
此三案ハ同一ノ委員ニ付託サレタ議案デアリマスルカラ、
一括シテ議題ト致シマスコトニ御異議ハアリマセヌカ
〔「異議ナシ」「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

第十三 朝鮮事業公債法中改正法律案
(政府呈上) 第一議會 財政委員會

(政府提出) 第一議會ノ續(報生社)

第十五 横木事業公債法中改正法律案 (政府提出) 第一讀會ノ續

報告書（政府提出）第一讀會ノ續（委員會報告書）

朝鮮事業公債法中改正法律案(政府提出)
右八本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告
狀也

大正十年二月十九日

官報號外

大正十年二月二十三日

衆議院議事速記錄第十七號

借地法案外一件 第三説

會朝鮮事業

公債法中改正法律案外二件 第一讀會

ノ續

三九

卷之三

○副議長(柏谷義三君) 岩崎君ノ動議ニ御異議ハゴサイマセンカ
〔異議ナシ〕「異議ナシ」ト呼フ者アリ

○副議長(柏谷義三君) 御異議ガナイト認メマスカラ、直チニ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

朝鮮事業公債法中改正法律案

第二讀會(確定議)

臺灣事業公債法中改正法律案

第二讀會(確定議)

樺太事業公債法中改正法律案

第二讀會(確定議)

○副議長(柏谷義三君) 別ニ御發議モナイヤウデアリマスカラ、三案共ニ第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通り可決確定ト認メマス

〔拍手起ル〕

○副議長(柏谷義三君) 別ニ御發議モナイヤウデアリマスカラ、三案共ニ第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通り可決確定ト認メマス

○副議長(柏谷義三君) 次ハ日程第十六、第十七、此兩案モ亦同一ノ委員ニ付託サレタ議案ニアリマスカラ、一括シテ議題トナスニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕「異議ナシ」ト呼フ者アリ
○副議長(柏谷義三君) 御異議ナイト認メマス、日程第十六大學特別會計法案日程第十七大正八年法律第十二號中改正法律案、右兩案ヲ一括致シマシテ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長報告——長峰與一君

第十六 大學特別會計法案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長)

第十七 大正八年法律第十二號中改正法 律案(政府提出)

第一讀會ノ續(報告)

大學特別會計法案

第二讀會(確定議)

大學特別會計法案

第二讀會(確定議)

大學特別會計法案

第二讀會(確定議)

一大學特別會計法案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十年二月十九日

大學特別會計法案委員長

衆議院議長奥繁三郎殿 長峰 與一

報告書

一大正八年法律第十二號中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十年二月十九日

衆議院議長奥繁三郎殿 長峰 與一

〔長峰與一君登壇、拍手起ル〕

〔衆議院議長奥繁三郎殿登壇、拍手起ル〕

○長峰與一君 此兩法案ハ時代ノ要求ニ伴ヒマシテ、最高學府ノ教育振作擴張ニ關スル法案アリマシテ、今回ノ改正ハ最モ時宜ニ適シタルモノトシテ、滿場一致原案ノ通り可決確定致シタノアリマス、以上報告ヲ致シマス(拍手起ル)

○副議長(柏谷義三君) 兩案共第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○副議長(柏谷義三君) 兩案共第二讀會ヲ開クコトニ決定致シマシタ

○岩崎動君 日程第十六及第十七ニ掲ゲタル兩案ヲ一括シテ直チニ其第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通り可決確定アランコトヲ望ミマス

〔「贊成」ト呼フ者アリ〕

○副議長(柏谷義三君) 岩崎君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○副議長(柏谷義三君) 御異議ガナイト認メマス、直チニセヌカ

〔「贊成」ト呼フ者アリ〕

○副議長(柏谷義三君) 第二讀會ヲ開キ議案全部ヲ議題ト致シマス

〔拍手起ル〕

○副議長(柏谷義三君) 岩崎君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○副議長(柏谷義三君) 岩崎君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔「贊成」ト呼フ者アリ〕

○副議長(柏谷義三君) 岩崎君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○副議長(柏谷義三君) 御異議ナイト認メマス、日程ハ

變更セラレマシタ、朝鮮醫院及濟生院特別會計法中改正法律案ヲ議題ト致シマス、其第一讀會ノ續ヲ開キマス——委員長八木逸郎君

朝鮮醫院及濟生院特別會計法中改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長)

報告書

朝鮮醫院及濟生院特別會計法中改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長)

報告書

朝鮮醫院及濟生院特別會計法中改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長)

報告書

○八木逸郎君 朝鮮醫院及濟生院特別會計法中改正法律案ノ委員會ノ結果ヲ御報告致シマス、出席委員全體ハ異議ナク可決ヲ致シマシタ、質問ハアリマシタケレドモ此報告ハ避ケマス、唯ダ希望ハ施療ノ——朝鮮人ヲ施療スルコトヲ成ベク多クシテ貰ヒタイト云フコトノ希望ニ依テ、滿場此案ヲ可決致シマシタ、此段御報告致シマス(拍手起ル)

○岩崎動君 本案ハ讀會ノ順序ヲ省略シテ、委員長報告通り可決確定アランコトヲ望ミマス

〔「贊成」ト呼フ者アリ〕

○副議長(柏谷義三君) 岩崎君ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○副議長(柏谷義三君) 岩崎君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔「贊成」ト呼フ者アリ〕

○副議長(柏谷義三君) 岩崎君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○副議長(柏谷義三君) 岩崎君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔「贊成」ト呼フ者アリ〕

○副議長(柏谷義三君) 岩崎君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

一大正八年法律第十二號中改正法律案(政府提出)

午後四時四十六分散會